平成２７年度指定

スーパーグローバルハイスクール

研究開発実施報告書（第５年次）

最終報告書

国家戦略特区 FUKUOKA からはばたく女性グローバルリーダーの育成

グローバル シティズンを育てます。

GLOBAL CITIZEN

令和２年３月

福岡雙葉中学校・高等学校

目次

第１部　令和元年度ＳＧＨ研究開発完了報告書　……　３

第２部　実施報告書

国際教養　……　２３

・１年生

・２年生

総合的な学習の時間（デザイン思考）　……　３７

・１年生

・２年生

フィールドワーク　……　５１

・サンフランシスコ

・鎌倉

・台湾

第３部　関係資料　……　９５

・教育課程表

・グローバル人材育成シンポジウム

（別紙様式３）

令和２年３月３１日

研究開発完了報告書

文部科学省初等中等教育局長　殿

住所　　福岡市中央区御所ケ谷７番１号
管理機関名　学校法人 福岡雙葉学園
代表者　　理事長 麻生泰　　印

令和元年度スーパーグローバルハイスクールに係る研究開発完了報告書を，下記により提出します。

記

１　事業の実施期間

平成３１年４月１日（契約締結日）～令和２年３月３１日

２　指定校名

学校名　　福岡雙葉中学校・高等学校
学校長名　西山和幸

３　研究開発名

国家戦略特区ＦＵＫＵＯＫＡからはばたく女性グローバル・リーダーの育成

４　研究開発概要

平成２９年度の中間評価で指摘された３点（女性グローバル・リーダー像の再確認／海外フィールドワークの検証／高校が主体となった活動）を踏まえて５年間のＳＧＨ活動をまとめると同時に、開発してきたカリキュラムや高大接続を次年度に繋げていくよう準備をする。またＳＧＨ経験校とネットワークを構築し、それぞれの学校で開発したカリキュラムを学び合いながら、指定期間終了後はさらに進化した取組を実施できるようにする。

ＳＧＨ最終年度なので、申請時に挙げていた４項目（九州大学共催でのシンポジウム／ＳＧＨ公開発表会／ＨＰでの活動紹介／福岡市など地域が実施するシンポジウムなどでの発表）で成果の普及も確実に実施する。

「アジア高校生架け橋プロジェクト」留学生受け入れだが、本校は毎年４、５人の長期留学生を受け入れており、１団体１名を原則として留学生にも多様な交友関係を築いてもらう方針である。留学生はＳＧＨ活動を行うＧＣコースに所属、国際教養の中で実施している模擬国連で、自国の立場でのリアルな意見や決議案を出してもらい、グローバルな社会課題発見・解決の能力を高める活動を加速させる。

5　管理機関の取組・支援実績

（１）実施日程

業務項目	実施日程											
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
①校務運営委員会（校内）	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→
②経費執行・管理	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→
③運営指導委員会の準備と実施					→	→	→		→	→	→	
④グローバル人材シンポジウムの準備と実施			→	→	→	→	→					
⑤執行理事会	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→
⑥成果の普及	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→

（２）実績の説明

①校務運営委員会（校内）

木曜日４限目に実施。参加者は校長、副校長、教頭、事務長、各部部長、学年主任。ＳＧＨ推進委員から教頭にＳＧＨ活動について提案したものを教頭が報告し、校務運営委員より助言を受ける。今年度は特に、ＳＧＨ指定終了後の方針などについて多くの時間を使い話しあった。

②経費執行・管理

事務次長がＳＧＨ経費の担当者として、ＳＧＨ推進委員と日々打合せながら運営・企画・実施に携わった。今年度は、ＳＧＨ活動に加えて、ＷＷＬの連携校としての活動も加わり、特に管理機関からの経費執行・管理に関して、来年度の予算立てを含めてＳＧＨ推進委員との話合いを多くとった。

③運営指導委員会の準備と実施

第１回は１０月１２日に実施した。出席者は、運営指導委員として国立高等専門学校機構大村浩志氏、嘉穂無線ホールディングス株式会社渡辺晶氏、福岡県私学振興課新□和幸氏、アドバイザーとして九州大学副島雄児氏・稲葉美由紀氏、ＰＬＡＣｅ株式会社久保山宏氏、本学園より理事長、校長、副校長、教頭、事務長、常務理事、ＳＧＨ運営指導員であった。内容として、運営指導委員会の前に実施したグローバル人材シンポジウムのまとめ、ＳＧＨ対象生徒（ＧＣコース）への授業計画と中身、国内・海外フィールドワーク、ＷＷＬ連携校として既に活動を開始しラオス研修などを合同で実施したことなどを報告した。特に現場で生徒たちの成長を見ているＳＧＨ推進委員から、海外・国内フィールドワークが有意義でありこれをきっかけに大きく成長する生徒が多いことがプレゼンを通して述べられ、ＳＧＨ指定終了後も継続する要望が出た。それを受けて管理機関として検

討し、生徒の自己負担は多少増えるが、引率の費用などを管理機関で負担し、継続させることに決定した。

第２回は２月１４日に実施した。出席者は、運営指導委員として福岡女子大学理事長・学長梶山千里氏、嘉穂無線ホールディングス株式会社代表取締役柳瀬隆志氏、福岡県私学振興課新□和幸氏、アドバイザーとして九州大学渡邊公一郎氏、ＰＬＡＣｅ株式会社久保山宏氏、本学園より校長、副校長、教頭、事務長、常務理事、ＳＧＨ運営指導員であった。まず２０１９年度ＳＧＨ活動としての授業、フィールドワーク、生徒たちの個人的活動を報告した。運営指導委員長の梶山氏より、上手くいかなかったこと、困ったことは何か、という質問が出た。フィールドワークをはじめ、国内各所で実施されるイベントに、経済的理由で参加をためらう生徒がおり、このような探究学習では特に経済格差を感じる点を言及した。それに対し、校内でイベントを作る工夫が必要ではないかというアドバイスをいただいた。次に５年間を振り返り、担任と卒業生から報告をしてもらった。担任からは、進路指導に際し、生徒たちが学びたい学問を提供する大学を自分達で選択できるようになり、そこに進学するための進路指導ができるようになったこと、卒業生からは、ＳＧＨでの学びが大学にどのように生かされているのか具体的に話があった。九州大学の渡邊教授より、大学のＳＧＵも準備中ではあるが、ＳＧＨも指定後の自走を求められていると思うがその点の準備はどうかという質問があった。それに対して、ＳＧＨ期間中は、九州大学と共に構想調書を作成したこともあり大学への依存が大きかったが、指定後は、ＳＧＨでの学びを生かし改良しながら、校内の教員が主体となり進めていく旨報告した。

④グローバル人材シンポジウムの準備と実施

１０月１２日（土）、ＳＧＨ活動の普及とグローバル教育の重要性を地域に発信するために、福岡県／福岡市教育委員会、九州大学、九州経済連合会の後援をいただき開催した。出席者は、在校生と保護者が１１８名、地域の方々が１５３名で、合計２７１名であった。基調講演は「グローバル時代を生き抜くための今後の英語教育について」というタイトルで、一般社団法人実用英語推進機構代表理事安河内哲也先生にお願いした。大学入試を民間業者に委託し４技能の能力を図ることが前提の時期であったので、その入試方法の解説などを通して、発信力は経験を通して身に着くものであり、ＳＧＨ活動のような課題研究と海外への発信を結び付けた教育が大学入試にもつながる、という展開の講演であった。またＳＧＨ活動の発表は、「高校生による教育支援」、「ＡＬネットワークのＦＯＣＵＳ（立命館宇治高校主催）に参加して」、「ＯＫＭＵＮ（Oxford-Kyushu模擬国連）に参加して」という３つのプレゼンテーションを生徒たちが英語で実施した。また高大連携の企画として、九州大学共創学部（２０１８年度設置）の第１期生の宮崎泰地君が、「大学での新しい学び」というタイトルで、大学での留学も含めて話した。パネルディスカッションは、ファシリテーターに本校ＧＣコース卒業生を迎え、「高校生・大学生が求める英語教育について」というテーマで話し合った。アンケートでは、未回答を除く９５．８％の出席者から「よかった」という回答であった。地域への活動の普及につながった。

⑤執行理事会

月に１回、理事長、理事、各学校長・教頭、事務長が出席して行われる。ＳＧＨ活動の報告は理事会の中で毎回あり、高校教頭が担当している。土曜日に実施しているＳＧＨに関する授業、イベントや行事、また、ＳＧＨ活動を評価してもらいＡＯ入試で大学に合格

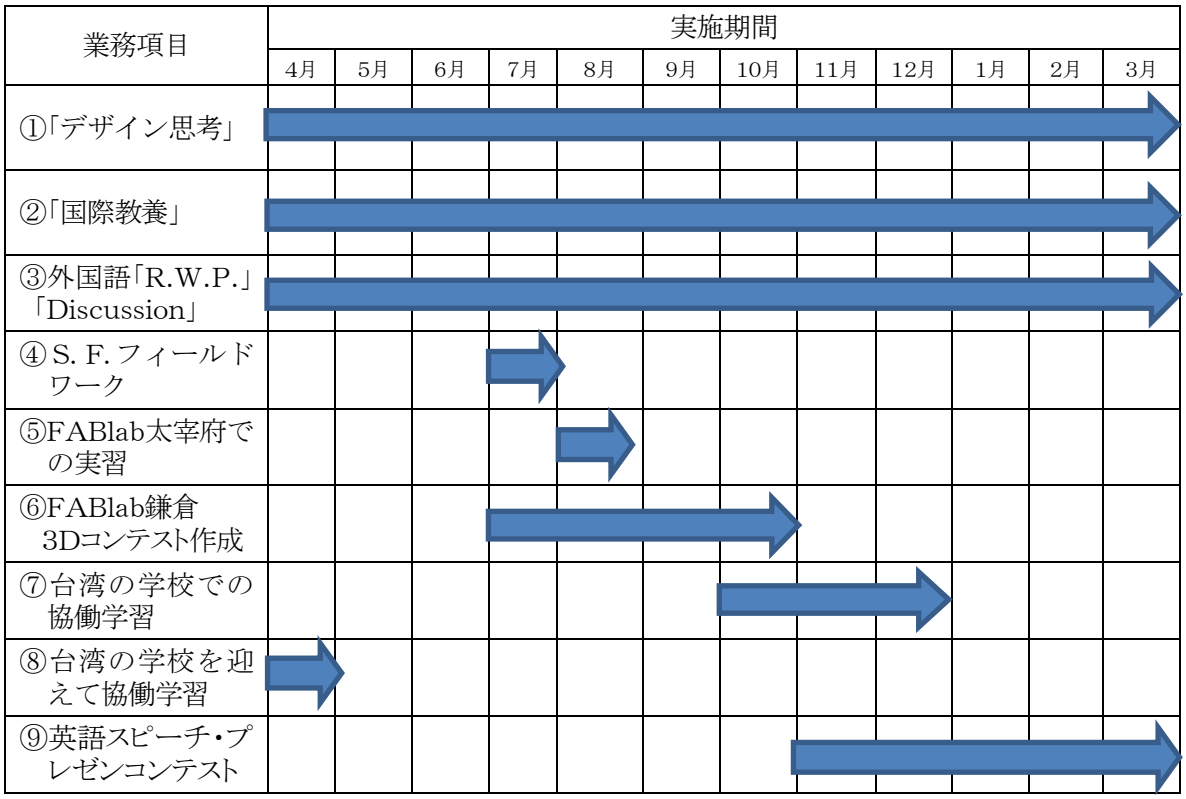
した高３の報告なども行った。執行理事からは、ＳＧＨ活動による成果の見える化を検討すること、本校がグローバル教育の先導校としての役割をどのように果たすべきかなどを現場で考えることがＳＧＨ活動を行った意義につながるという助言が出ている。

⑥成果の普及

申請時に、成果の普及の方法として ①九州大学共催でのシンポジウム ②ＳＧＨ公開発表会 ③ＨＰでの活動紹介 ④福岡市など地域が実施するシンポジウムなどでの発表という４項目を挙げていた。①と②については、１０月１２日のグローバル人材シンポジウムで達成ができたと考える。③については、現在ＨＰからＳＮＳ（facebook）にリンクを貼り、卒業生やこの活動に興味関心のある一般の人が、よりアクセスしやすいように工夫している。④については、本校のＳＧＨ活動の発表という形ではなかったが、２０１９年６月８、９日に福岡市でＧ２０財務大臣・中央銀行総裁会議が行われた際、福岡市の高校生の提言を、本校生徒を中心に３か月をかけて作成し、Ｇ２０各国の財務大臣・中央銀行総裁に向けて、英語で提言を行った。福岡市総務企画局から、本校を高校生代表に選抜した理由として、ＳＧＨ校として福岡市のグローバル教育を牽引しているためということを伺った。地域への成果の普及ができているとこのことからも述べることができる。

6　研究開発の実績

（１）実施日程



（2）実績の説明

①②デザイン思考と国際教養の授業

対象生徒：高１　７０名　時間：土曜日１限～４限

回	日	学習目標	講師・協力者
1	5／18	国際社会に関する関心・興味について理解する	
2	6／1	ＳＤＧｓの中の取組みたいテーマを考える	松田美幸 （福津市副市長）
3	6／15	ＳＤＧｓの中でフォーカスする部分を決める	
4	6／29	研究課題の注意点やポイントについて理解する	
5	7／12	他チームの発表から見落としていた視点を発見する	
6	9／21	デザイン思考という思考法を理解する	
7	10／5	インタビュー調査の注意点とポイントを理解する	
8	10／19	インタビュー調査から現状のまとめをする	
9	11／2	現状のまとめから取り組む課題を設定する	
10	11／16	他チームのフィードバックから課題を再設定する	
11	11／30	アイデアを２００以上出しプロトタイプを理解する	
12	12／7	ビデオプロトタイプの製作のポイントについて	
13	1／18	他者のフィードバックからプロトタイプを改善する	
14	2／1	（プレ上映）検証することの意義や目的について理解する	
15	2／15	（発表準備）最終発表で発表するストーリーを完成させる	
16	3／7	発表（ショートムービー）＊休校のため中止	

国際教養の時間にＳＤＧｓの中で自分の興味のあるテーマを見つけ、デザイン思考を使ってグループで課題発見・解決策を考える活動を今年度のテーマとした。最後の発表のため動画を作成していたが、突然の休校でできなかった。

１．ＳＤＧｓ１４　海の豊かさを守ろう　「プラスチックごみの問題」
２．ＳＤＧｓ　３　すべての人に健康と福祉を　「日本の医療問題」
３．ＳＤＧｓ　１　貧困をなくそう　「先進国の貧困」
４．ＳＤＧｓ　８　働きがいも経済成長も　「児童労働の問題」
５．ＳＤＧｓ　３　質の高い教育をみんなに　「教育の機会をいかす制度」
６．ＳＤＧｓ　５　ジェンダー平等を実現しよう「ＬＧＢＴの人たちが暮らしやすい社会」
７．ＳＤＧｓ１０　人と国の不平等をなくそう　「相手を知るためのイベントを企画」
８．ＳＤＧｓ　２　飢餓をゼロに　「ホームレスの方の生活改善」
９．ＳＤＧｓ　１　貧困をなくそう　「ホームレスの方の社会復帰を企業に」
１０．ＳＤＧｓ　１　貧困をなくそう　「負のスパイラルからの脱却支援」
１１．ＳＤＧｓ　４　質の高い教育をみんなに　「セネガルへの教育支援」
１２．ＳＤＧｓ１４　海の豊かさを守ろう　「私たちが取り組めること」

対象生徒：高２　４３名　時間：土曜日１限～４限

回	日	学習目標	講師・協力者
1	5／18	課題を決定しチームを作る	
2	6／1	課題研究のプロセスと取組み方について理解する	秋田直繁 (九州大学)
3	6／15	課題設定のポイントを明確にする	
4	6／29	研究コンセプトシートを完成させる	
5	7／12	アイデア発想のポイントを絞る	
6	9／21	発表	藤見哲郎 (スタートアップカフェ)
7	10／5	模擬国連①　高３によるParliamentary Debate	九州大学学生有志
8	10／19	模擬国連②　高３によるLifeboat Simulation	九州大学学生有志
9	11／2	模擬国連③　トピック(plastic pollution)説明	九州大学学生有志
10	11／16	模擬国連④　Position Paper 作成	九州大学学生有志
11	11／30	模擬国連⑤　Pitch, Discussion	九州大学学生有志
12	12／7	模擬国連⑥　Discussion, Resolution 説明	九州大学学生有志
13	1／18	模擬国連⑦　Resolution 作成	九州大学学生有志
14	2／1	模擬国連⑧　Resolution フィードバック, amendment	九州大学学生有志
15	2／15	模擬国連⑨　Voting, 振り返り	九州大学学生有志
16	3／7	まとめ　＊休校のため中止	

４月～９月は、昨年度から引き続きインクルーシブな社会の構築をテーマに、１１グループに分かれ課題研究を進め、９／２１にポスター発表を行った。テーマは以下の通りである。

１.一人親に優しい社会をつくる
２.福岡市の待機児童を減らす
３.母子家庭の学習面の支援
４.目に見えないしょうがい
５.ＬＧＢＴの人が生活できる社会
６.左利きもストレスなく生活できる社会
７.母子ともに暮らしやすい（安心して遊べる）環境づくり
８.知的障がいのない発達障がいを持った子どもたちに生きがいを
９.高校の奨学金制度の認知度を上げる
１０.車椅子利用の方の過ごしやすい環境作り
１１.福岡市の障がい者が暮らしやすくなるためのイベントを開く

１０月～３月は、英国オックスフォード大学の学生と共に模擬国連を行うOKMUN(Oxford-Kyushu Model United Nations)という団体に所属する九州大学の学生たちの協力のもと、模擬国連を実施した。テーマは環境問題で、プラスチックポリューションである。中

国、ドイツ、インド、インドネシア、ケニア、ルワンダ、スウェーデン、イギリス、アメリカ、ベトナムの１０国に分かれ、Resolution作成するまで、各国のスタンスをしっかりと調査し、ポジションペーパーを書いて発表をするなど行った。また、昨年模擬国連を経験した高校３年生も協力してくれた。中でも１、２回目のParliamentary Debate、Lifeboat Simulationは、事前に大学生から助言を受け、高３が授業を実施した。高２は、来年度は自分たちが教える側に　なることを意識しながら、授業を受けていた。ＳＧH活動で先輩が後輩の授業を担当するということが実現し、私たち教員も、生徒たち伝える力が優れていることに気がつくよい機会であった。

対象生徒：高３　３４名　時間：土曜日１限～４限

高３は、高２までのＳＧH活動で学んだことなどをもとに、それぞれがテーマを持ち、ポートフォリオや志望大学への志望理由書などを作成した。高３の生徒たちの活動で特筆すべきは２点である。

・２０１８年開成高校（東京）の高校生が立ち上げたK-Diffusionorsの福岡支部を設立した。難民支援を主な活動として７月下旬に福岡でイベントを行った。

・６月８、９日に福岡市でＧ２０財務大臣・中央銀行総裁会議が行われた際、福岡市の高校生の提言を、高３生徒を中心に３か月かけて作成し、Ｇ２０各国の財務大臣・中央銀行総裁に向けて、英語で提言を行った。

③外国語R.W.P.(Research Writing Presentation)Discussion授業

ＧＣコース（高１：７０名）を対象に１単位、（高２：４３名）を対象に２単位、（高３：３４名）を対象に２単位

R.W.P.は、PEARSON社の「REDY TO WRITE 2」を教材として使用し、エッセイやパラグラフの構成などを学び、論理的に書くことを習得させた。個人でまたはグループでテーマに沿ったリサーチをして、パワーポイントを使用するプレゼンと使用せず言葉だけで語りかけるプレゼンの練習も実施した。高３になると、パワーポイントを補助として主に言葉と態度で魅力あるプレゼンができるようになった。

Discussionは、Language Solutions Inc.の「Discussion Process and Principles」を教材として使用し、Discussionするときの参加姿勢も含めて学ばせた。ペアやグループで、またDebate形式でも実施した。

④サンフランシスコフィールドワーク　８／４～８／１１

参加者　　ＧＣコース（高１：４名、高２：６名）引率２名

協力機関　非営利団体ＶＩＡ（Volunteers in Asia）

内容

・アジア各国からの参加者と共にExploring Social Innovation、スカベンジャーハント
・Center for Independent Living（障がい者自立支援施設）での学習
・Chinatown civil rights walking tourで共生社会の学習
・シリコンバレーの企業訪問とインタビュー

Spectrum Vision Global,Inc	インタビュー Kubo Yumi氏、Higuchi Sei氏
Apple社	インタビュー Akazawa Yoko氏

Google社　　インタビュー Nagasawa Rum氏
・スタンフォード大学ｄスクール（デザイン思考発祥の地）見学

⑤FABlab太宰府での実習　８／１，２
参加者　　ＧＣコース（高：５３名）引率２名
協力機関　FABlab太宰府
内容
「ワークショップを企画してみよう」
・FABlabについて知る
・デジタル機器（３Ｄプリンター、レーザーカッターなど）を使ってみる
・グループでワークショップを企画しそのアイデアをシェアする

⑥FABlab鎌倉ＳＦＣへのフィールドワーク（８／２０～２２）
３Ｄコンテスト（１１／２３）のための作成
参加者　　ＧＣコース（高１：７名、高２：３名）引率２名
協力機関　FABlab鎌倉、慶應義塾大学湘南藤沢キャンパス（ＳＦＣ）
内容
「ファブのあるまちづくり（ＳＤＧｓや地域の課題解決と、新技術の可能性とを結び付けて、ファブによってまちの未来をより良くするモノ・コトづくり）」
・アイデアを出しプロトタイプを作成してｆａｂｂｌｅに記録していく
・ＳＦＣ研究所ファブ地球社会コンソーシアム主催ファブ３Ｄコンテストに出品
　→優秀賞（チーム賞）受賞

⑦台湾の学校での協働学習
参加者　　ＧＣコース（高１：９名、高２：３名）引率２名
協力機関　新北市立中和高級中学、淡江大学（台湾）、加賀屋旅館（台湾）
内容
・新北市立中和高級中学・錦和高級中学・弘文高級中学と本校の４校合同で長期間準備してきたフードロス問題についてのポスター発表・プレゼンを実施した。
・淡江大学で、ディスカッション、日本人留学生の話などを聞き、海外大学進学について考えた。
・加賀屋旅館では、海外で働くことのやりがいなどを学んだ。

⑧台湾の学校を迎えて協働学習
参加者　　新北市立中和高級中学（生徒７名、引率３名）ＧＣコース（高２：４３名）
協力機関　九州大学、FABlab太宰府、太宰府天満宮
内容
・本校での交流（日本文化の体験イベント、授業参加）
・九州大学での日本の留学生受入れ制度説明
・FABlab太宰府での協働製作
・太宰府天満宮での交流会

⑨英語スピーチ（１１／８）・プレゼンテーション（３／１３）コンテスト

参加者　スピーチコンテスト（高１全員）

テーマ　ＧＣコース

What do you think is the most important invention or discovery?

ＧＣ以外

What special, none-essential, items would you take with you on a two-year trip to Mars, and why?

参加者　プレゼンテーション（高２全員）

テーマ　グループごとにテーマ設定

7　目標の進捗状況、成果、評価

平成２７年度指定校を対象に実施された本校に対するＳＧＨ中間評価は、以下の３項目であった。

≪指摘事項≫

１．ＳＧＨ校としての意識作り、各プログラムの土台作りは丁寧だが、このプログラムからは女性グローバル・リーダー像が判断できず、学校の特色が伝わってこない点について今後改善が望まれる。

２．海外フィールドワークからはそれぞれの国や地域の問題に踏み込んだ取材や検証がなされておらず、成果も、海外体験・英語体験にとどまっている点は今後の改善が望まれる。

３．中高一貫のメリットを活かした段階的なグローバル教育が図られているが、外部への依存比率が高いため、今後は高校が主体となり生徒の探究の筋道をカリキュラムにおいて明確に立てることを期待する。

≪指摘事項に対する取組など≫

１．学校の特色を活かした女性グローバル・リーダーを育成するにはどうすればよいか、改めて運営指導委員会などで協議した。その中で、構想調書の中の、福岡雙葉の目指す女性グローバル像の再確認をすべきという意見が出た。

（構想調書　別紙様式６　１ページ目より抜粋）

福岡雙葉の目指す女性グローバル像

新たな価値を創造できる女性グローバル・リーダーに必要とされる３つの能力と１つの姿勢

（１）自分自身のアイデンティティを確立しつつ、正しく国際情勢を知り、多様な文化・価値観を理解することができる能力

（２）英語によるコミュニケーション能力が高く、適切なインタビュー、魅力的なプレゼンテーション、課題解決のための積極的なディスカッションができる能力

（３）新しい価値を創造し、それを社会に波及させるためのデザイン思考力を備え、それ（必要なプロセスを設計できる能力

（４）人間的にも知的にも成熟し、自ら問いを立て、主体的に生涯学び続けられるアクティブラーナーである姿勢

学校の特色としては２つのことが挙げられる。カトリックの学校であり地球社会の一員であることを自覚し行動する人を育てることを目標としていること、幼小中高通して、国際教育・外国語教育に力を入れていることである。その２つを活かして構想調書に記した目指す女性グローバル像を達成すことを意識し、２０１８年度の本校ＳＧＨのテーマをインクルーシブな社会の構築とし、高１は障がいを持つ人との共創社会、高２は２０２０年度パラリンピックを成功させるために自分たちができること、とした。２０１９年度は、高２は昨年度からの引き続きのテーマを更に発展させ、高１はＳＤＧｓも合わせて考えられるように授業を組んだ。その結果、中間評価以前より学校の特色・強みを活かし、構想調書の３つの能力と１つの姿勢を有した、本校が目指す女性グローバルを育成するものとなった。

２．海外フィールワークの改善であるが、それぞれの国や地域の問題に踏み込んだ取材や検証がなされていないという指摘を受け、研修で実施する活動を再度すべて検証することから着手した。その中で、シンガポール（姉妹校）へのフィールドワークには、海外体験の要素が少なからず含まれているので取りやめ、サンフランシスコと台湾の研修を充実させることにした。サンフランシスコ研修にはチャイナタウンのフィールドワークを組み入れ、多様なバックグランドを持つ人々が共生するときの課題やその解決法などにも触れるようにした。台湾研修は、高校との交流を深めた。

３．外部への依存（九州大学）比率が高いという指摘を受け、高校が主体となり探究活動のカリキュラムを作ることを改めて考えた。スーパーグローバルユニバーシティである九州大学の国際部と構想調書を一緒に作成し、大学の学びを高校からスタートさせられるようにと計画したため、高校現場に指導者がいないデザイン思考という新しい分野は最終年度まで支援を依頼した。

８　５年間の研究開発を終えて

（１）教育課程の研究開発の状況について

グローバル・リーダーとして新しい価値を生み出すためには、知識伝達型の教育だけではなく、課題解決型の教育が必要であると考えた。総合的な学習の時間はデザイン思考をベースとしたＰＢＬを、教科「国際教養」では、大学の先生や民間で活躍されている方々から正しい国際理解を進めていただくための講義をしていただいた。外国語（英語）の科目に「R.W.P.（リサーチ・ライティング・プレゼンテーション）」、プレゼンテーションの時間を作り、世界とつながりながら情報収集をして、またそれを発信するためにはどうすれば効果的なのかを学習させた。教育課程の研究開発の内容を九州大学の先生方と共に計画し、高校ではあまり取り扱っていないデザイン思考という考え方を扱う関係で、授業の多くを九州大学の先生方に担当していただくこととなった。中間評価の際、外部への依存比率が高いため、今後は高校が主体となり生徒の探究の筋道をカリキュラムにおいて明確に立てることと指摘を受け、ＳＧＨ指定３年目からは、最初の２年で学んだこと、作成した教材を使って研究開発を進めた。ただ完全に自走できるようになるのは指定後の２０２０年度であると考える。教師の変化のところにもつながるが、生徒たちがこの５年間で大きく変化している姿を見て、学校内でＰＢＬ型の総合的な探究の時間のカリキュラム開発をしようという気運が高まり、

完成した。

デザイン思考や国際教養で学んだことを、サンフランシスコ研修（初年度はボストン研修）、台湾研修につなげ、学校で学んでいることが世界に通用することを理解させ、更に現地でブラッシュアップさせた。また特に台湾研修で交流してきた新北市立中和高級中学との関係は、共にＳＤＧｓについて考える関係に発展し、２０２０年度京都で行われるWorld Youth Meetingに出場することを計画している。

（２）高大接続の状況について

ＳＧＨの募集要項の事業目的に、グローバル・リーダー育成に資する教育にかかる高大接続の在り方についての研究開発を行うと明記してあったので、申請書を作成する段階から、九州大学国際部と連携して研究開発の内容を考えた。九州大学国際部は、ＳＧＨの前年にスーパーグローバルユニバーシティの構想に携わっていた部署であり、何が教育に求められているのか、高大接続でそれを実現するためにはカリキュラムをどうように開発していくと効果的なのかなど、全般的な指導助言から、九州大学のリソースの活用の計画まで、細部にわたって共に考えた。

また、ＳＧＨ指定前では考えられない程、様々な大学と連携できるようになった。まず全国の大学から、ＳＧＨ校であるからこそ届くイベントやフォーラムの告知がある。そのようなチャンスを生徒たちがつかみ、そして成長したことが大きかった。また高校と大学の教員が直接話す機会も増え、高校から大学へ学びに連続性が出るように意識した教育を心がけることができるようになった。

≪九州大学との連携≫

- ＳＧＨ申請のための構想調書作成の段階から相談し、アドバイスをいただいていた。
- ２０１５年度九州大学と福岡雙葉学園共同主催で、高大連携グローバル人材育成シンポジウムを開催した。２０１６年度～２０１９年度は九州大学に後援として協力してもらいながら、地域へグローバル人材育成の重要性を普及・発信した。
- ＳＧＨアドバイザー稲葉美由紀先生（言語文化研究院／基幹教育院）と共に国際教養の授業設計を考え、直接生徒を指導していただいたり、テーマに沿って専門の方をご紹介していただいたりした。
- デザイン思考をＰＢＬの軸に据えた教育課程の開発をしたので、芸術工学部の先生方、学生に授業支援をしていただいた。
- ＶＩＡ（Volunteers in Asia）という団体を九州大学から紹介してもらい、大学生向けの企画を高校生が参加できるように改良してもらってサンフランシスコ研修を実施した。
- 英国オックスフォード大学と九州大学の有志でOxford-Kyushu模擬国連が２０１７年度大分県で実施され、本校からも高校生代表として５名が参加した。２０１８年度より、九種大学の学生たちが高校２年を指導してくれるようになった。２０１９年度より、高２で模擬国連を行った経験を持つ高３が九州大学の学生と共に高２の指導やファシリテーターを担当するようになった。
- ２０１８年度より、「将来の夢を切り拓く“高大連携”『世界に羽ばたく高校生の成果発表会』」（ポスターセッション、プレゼンテーション）が九州大学で企画され、ＳＧＨ校として参加してきた。

≪慶應義塾大学（湘南藤沢キャンパス）との連携≫

・フィールドワークの一つを鎌倉研修とし、毎年ＳＦＣのキャンパスツアーと施設見学やスタッフ、卒業生、先生方の話を聞く機会を作った。鎌倉研修にＳＦＣを入れている理由は、本校がＰＢＬの軸としているデザイン思考をもとにしたデジタルモノづくりに力をいれている環境情報学部があるからである。

・鎌倉研修のFABlab鎌倉で製作したものは、２０１７年～２０１９年の３年間ＳＦＣ研究所ファブ地球社会コンソーシアム主催のファブ３Ｄコンテストに出品している。２０１７、２０１８年度は特別賞、２０１９年度は優秀賞を受賞し、授賞式に出席してＳＦＣの多くの先生方と生徒が直接話す機会をいただいている。

≪福岡女子大学との連携≫

・理事長・学長の梶原千里氏からＳＧＨ運営指導委員長として多くの助言・指導を受けた。

・２０１６年度、福岡女子大学での英語Ｄｉｓｃｕｓｓｉｏｎ，R.W.Ｐの授業を実施し留学生・大学生と共に、ＷＪＣ（The World of Japanese Contemporary Culture Program）を受講した。講義やディスカッションはすべて英語で行われている。

回	日付	授業内容	講師
1	6／6	What did you eat yesterday?	新開章司氏
2	7／4	A school fundraising event for Kumamoto	Mr. Wayne MacPherson
3	11／7	Predicting the future ①(research and brainstorming)	Mr. Timothy Pritchard Mr. Scott Smith
4	12／5	Predicting the future ②(work on a PowerPoint presentation)	Mr. Timothy Pritchard Mr. Scott Smith
5	1／23	Predicting the future ③(PowerPoint presentation)	Mr. Timothy Pritchard Mr. Scott Smith

・２０１７年１０月１４日、国際教養の時間に大学生１３人に来校してもらい、高１生徒たちとグローバル・リーダーとは何かについてグループディスカッションを英語で行った。

・２０１９年夏、ＬＧＢＴの課題研究に取り組んでいる生徒たちが、同じ福岡女子大学の学生たちとディスカッションをし、女子教育を行う高校と大学でどのような取組があるのか、また今後考えていくべきことは何かを話し合った。

≪海外大学との連携≫

・２０１５年度、Fab１１（第１１回世界ファブラボ会議）がボストンで実施された。会場はｆａｂｌａｂ発祥の地であるＭＩＴ.であり、参加者の多くは大学内のメディアラボで協議やミーティングを実施した。本校からの参加者も高校生の立場で参加させてもらった。

・２０１６年度～２０１９年度は研修場所をサンフランシスコに移し、デザイン思考発祥の地であるスタンフォード大学のｄスクールのキャンパス訪問、在学生の話を聞くということをしている。世界のイノベーションの中心であるスタンフォード大学の施設を見学

し、大学生と話すことで大きな刺激を受けている。

・２０１７年度シンガポール研修で、シンガポール国立大学に通う日本人学生にインタビューをし、キャンパス訪問を実施した。同じアジアにあり世界的に評価が上がっている大学を見ることができ、視野の拡大につながったと考える。

・２０１６年度は国立精華大学南大校、２０１７年と２０１８年は東呉大学、２０１９年は淡江大学訪問と活動を台湾研修に組み入れた。特に、今年度（２０１９年度）の淡江大学では、授業料、インターナショナルな学生のケアなども含めて、台湾の大学へ進学するメリットを在学生が話してくれ、海外大学を視野に入れたキャリアパスを考える機会となった。

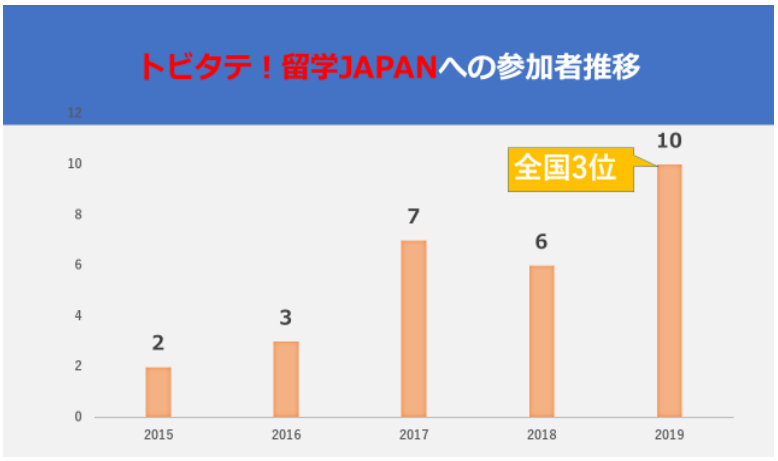
・カナダのNorth Island Collegeとは学校間の正式な協定を結んでいる。北米を視野に進学を考える生徒には、選択肢の一つとして紹介している。

・イギリスのバンガー大学、アイルランドのトリニティカレッジとも連携している。ヨーロッパで文化・歴史を含めて学びたい生徒達には、高校での短期留学の機会やファウンデーションコースへの進学の仕方などを紹介している。

（３）生徒の変化について

学校を飛び出して校外で活躍する生徒が、顕著に増えた。それはトビタテ留学ジャパンの数に表れている。アフリカにボランティアに行く生徒、海洋生物の研究に行く生徒もいた。

そのトビタテ留学ジャパンであるが、分野にもよるが、応募者は参加者に対して常に３倍ほどの数がある。その中で選んでもらうために、どのようなプログラムを立てていくのか、自分の思いをどうやって伝えるのかなどを先輩が後輩に伝授するという流れが構築できたと考える。



留学だけではなく、全国で実施されるイベントやコンテストにも参加する生徒たちが増加した。ＳＧＨ活動を通して学ぶことが楽しいと気がついた生徒たちは、自らチャンスを見つけてＳＧＨ活動では、Google ClassroomというＷＥＢサービスを利用して、学校に届く案内をダイレクトに生徒達が取得できるようなシステムを構築したが、これは指定終了後も継続していきたい。

２０１９年度　ＧＣコースの生徒たちが自主的に参加した主な活動（１部）

	日程	イベント名	場所	参加人数
1	5／18	スクラム組もうぜ（Ｇ２０関連イベント）	福岡	38
2	7／8	九州ＳＧＨフォーラム	長崎	5
3	7／26～8／8	日本の次世代リーダー養成塾	福岡	1
4	7／30～8／1	高校生ＳＲ（Social Responsibility）サミット	京都	5
5	8／8	OCEAN’S 47 海の豊かさを守ろう！	東京	1
6	8／15～17	知の創造塾	福岡	1
7	8／9～12	Oxford-Kyushu 模擬国連	大分	7
8	8／21～27	ラオス研修①	ラオス	3
9	10／19	九州大学アカデミックフェスティバル　ポスター発表	福岡	32
10	10／27	第２４回福岡市障がい者スポーツ大会	福岡	38
11	12／8	サイエンスキャッスル２０１９ 九州	熊本	6
12	12／17,18	立宇治第１回模擬国連	滋賀	22
13	12／14～20	ラオス研修②	ラオス	3
14	12／15	One World Festival for Youth 2019	大阪	2
15	12／22	ＳＧＨ／WWＬなど全国高校生フォーラム	東京	4
16	1／11	中高生ＩＣＴサミット	福岡	5
17	3／9～12	マニラ研修	フィリピン	6
18	3／21	ＳＧＨ／WWＬ探究甲子園	兵庫県	3
19	3／8,22	求む！未来のチェンジメーカー	福岡	12
20	3／14,15	ワークショップコレクション　ｉｎ 福岡	福岡	5
21	3／31～4／1	京都大学　第１回ＳＤＧｓリーダーズ研修	京都	1
22		日赤病院でのボランティア	福岡	1
23		トビタテ！留学ジャパン	世界中	10
24		全国中学高校Ｗｅｂコンテスト		4

また、大学で学びたいことが明確になり、ＡＯ入試で進学する生徒たちも顕著に増加した。
高校での学びを大学で続けていく意識を持っていることが見える。

ＳＧＨ活動などを活かした公募推薦・ＡＯ／推薦入試での進学

（２０１７年度～２０１９年度 卒業生１０４名）

	大学　学部（学科）
国公立	九州大学　共創学部
	熊本大学　法学部・法律学科　（２名）
	宮崎大学　地域資源□成学部
	北九州市立大学　地域創生学群地域創生学科
	北九州市立大学　外国語学部英米学科
	福岡教育大学　初等教育
私立	慶應義塾大学　総合政策学部　（２名）
	慶応義塾大学　法　（２名）
	早稲田大学　政治経済・国際政治経済
	西南学院大学　法・国際関係法
	国際基督教大学　国際教養・アーツサイエンス　（２名）
	津田塾大学　総合政策
	関西学院大学　総合政策
	立教大学　経営　国際経営
	アジア太平洋大学

（４）教師の変化について

本校教員にＳＧＨ活動に対するアンケートを実施した。

対象

中高教員（校長、副校長、教頭、教諭、常勤講師）

ＳＧＨ ２年目（２０１６年度）５５名 ／ ＳＧＨ ５年目（２０１９年度）５３名

分析

・全体的に教員はＳＧＨ活動に価値があるとの理解はあるが、２年前と５年目でよい方に数値が伸びていない。

・ＳＧＨ活動が学びの中でも有益なものであると理解している教員が大多数である。またこれまで授業とフィールドワークを組み合わせて教育をする経験が本校としてなかったが、これに効果があると分かったので、２０２１年度より修学旅行を総合的な探究学習と組み合わせて考えることにしている。

≪アンケート≫

質問１　ＳＧＨの授業（デザイン思考、国際教養、英語（R.W.P.、Discussion）はグローバル人材育成のために有益だと思いますか？

回答	ＳＧＨ ２年目（%）	ＳＧＨ ５年目（%）
強くそう思う　そう思う	１００	９８
そう思わない 全く思わない	０	２

質問２　ＳＧＨのフィールドワーク（サンフランシスコ、台湾、シンガポール、鎌倉（FABlabとＳＦＣ）、FABlab太宰府）はグローバル人材育成のために有益だと思い

ますか？

回答	ＳＧＨ ２年目 (%)	ＳＧＨ ５年目 (%)
強くそう思う　そう思う	１００	９８
そう思わない 全く思わない	４９	２

質問３　ＳＧＨ活動での学びが、国が新学習指導要領で目指す主体的・対話的で深い学びに結びついていくと思いますか？

回答	ＳＧＨ ２年目 (%)	ＳＧＨ ５年目 (%)
強くそう思う　そう思う	９６	９６
そう思わない 全く思わない	４	４

質問４　ＳＧＨ活動を通して、生徒がアクティブ・ラーニングの姿勢を身に着けることは、グローバル人材育成のために有益だと思いますか？

回答	ＳＧＨ ２年目 (%)	ＳＧＨ ５年目 (%)
強くそう思う　そう思う	１００	９６
そう思わない 全く思わない	０	４

質問５　ＧＣコース（ＳＧＨ活動をしているコース）の生徒は、他の生徒たちと比べて主体的に活動する力を身に着けたと思いますか？

回答	ＳＧＨ ２年目 (%)	ＳＧＨ ５年目 (%)
強くそう思う　そう思う	９８	９４
そう思わない 全く思わない	２	６

質問６　本校におけるＳＧＨ活動を見て、現在の日本においてグローバル人材育成の重要性が増しているとの理解が、自分自身の中で深まったと思いますか？

回答	ＳＧＨ ２年目 (%)	ＳＧＨ ５年目 (%)
強くそう思う　そう思う	８５	９２
そう思わない 全く思わない	１５	８

（５）学校における他の要素の変化について

ＳＧＨ活動は、主にＧＣ(グローバルコミュニケーション)コースで実施してきたが、２０２０年度から、全校（中学・高校）すべてで探究学習を本格的に進めていくことにしている。ＳＧＨ活動で課題であった評価も、進路指導部が主体となり、ルーブリックを作成することになった。

２０２０年度より実施する本校独自の総合的探究の時間の基本理念

中学全体：各教科で学んだ知識を関連づけて探究することで、学ぶことへの意欲・興味関心を深める。

中学１年：課題研究の基礎を学ぶ
　　各教科のテーマに沿って学ぶ

中学２年：各教科の学びをさらに深める
　　職場体験・立志式につなげる

中学３年：学びへの意欲・興味関心を深める
　　１０月までシンガポール修学旅行に向けて
　　１１月以降卒業研究

高校全体：自ら課題を設定し探究することで、自分の生き方を深く考え、社会を築いていく一員として行動できる力をつける。
高校１年：自分の生き方を深く考える
　　１日社会人体験
高校２年：社会と自分の繋がりから、将来の自分の姿を具体的にイメージする
　　修学旅行
高校３年：自らの進路を自らの力で切り開く
　　課題研究

（６）課題や問題点について

ＳＧＨ活動を通して、生徒たちが社会貢献への関心を高め積極的に活動をする姿勢を身に着けたということを理解した教員は、これまでの知識伝達型の学びを中心とする教育活動を行う学校から、アクティブ・ラーニングができる環境を整えた学校へと変えようと動いている。これは新学習指導要領の考えに沿うものであり、これからの社会を生きる中高生に対する導き方として正しいと理解する。しかし一方で、様々な課題や問題点も表面化している。新しい価値を生み出すような教育が正しいことは分かっているが、以下のような課題や問題点を解決する方向で動かなくては、せっかくのＳＧＨ指定５年間の研究開発が無駄になってしまう。本質的な課題は何かを見極めて解決していきたい。

≪校内施設について≫

「学校における他の要素の変化」でも述べた通り、ＳＧＨ活動で培った探究学習が全校に刺激を与え、すべての学年、クラスでカリキュラム開発を行い実行しはじめている。そうすると校外活動やゲストスピーカーの招聘などを視野に入れ活発な活動をするために、月２回生徒が登校する土曜日が都合がよいと考え、総合的な学習（探究）の時間を６学年すべて同曜日、同時間帯に設定することとなる。そうすると、視聴覚室などの施設に制限が出る、というハード面の課題が出てきている。

≪ＩＣＴ機器の利用について≫

ＳＧＨ指定期間中はＳＧＨ活動に限り使用できるＰＣを４０台リースしていた。２０２０年度以降も引き続きリースで４０台使用できるようにしているが、ＳＮＳ（facebookなど）は制限がかかっており、情報が取りにくいなどの問題がある。また学校へのスマホの持ち込みも禁止しているので、iPhoneの機能を使ったiMovieやAirDropでのデータ共有など、生徒たちが慣れている機能を有効に利用できない現状がある。ＩＣＴを使った教育を今後考えていきたい。

≪教員の負担について≫

この５年間本格的な課題研究を行うのはＳＧＨ活動をしているコース（グローバルコミュニケーションコース）で、教員もそこに注力できた。しかし全校生徒を対象に質の高い探究学習を提供できるように計画・実施をすると、教員の負担は明らかに増える。先般、若手教

員がグループになり全教員を対象にこれからこのようなプログラムで探究学習を進めていきたいとプレゼンテーションしたときも、現実的にその時間を生み出すことの難しさが論点となった。しかしＳＧＨ指定前と明らかに違うのは、ＳＧＨ活動で学ぶ意欲を開花させた生徒たちを実際に見てきた教員集団だからこそ、実施する方向で、今ある無駄な仕事探してｓｃｒａｐ ａｎｄ ｂｕｉｌｄしていこうとしていることだと考える。

≪保護者の活動費の負担について≫

７（３）生徒の変化のところでも述べたが、校内での探究活動を活発にすることによって、生徒たちは国内･海外で提供されている企画にチャレンジをしたいという気運を高めている。しかし、開催地までの移動費や宿泊費、参加料などの問題が現実問題として浮上している。本校は九州にあり、生徒たちは自分たちの探究学習で身に着けた力を試すような機会がまだ少ない。そこで関東・関西のコンテストやイベントに興味を持つが、交通費や宿泊費が自費となるため、参加できない生徒たちがいる。

≪引率について≫

保護者の活動費の負担についての箇所でも述べたが、生徒が部活動以外で、個人またはグループで宿泊を伴う県外の活動に参加するようになった。様々な案内は学校に届き、それを生徒たちに発信するので、生徒が参加を希望したときの引率は基本的に学校ではないかと考える。一方で学校の活動予算や週末・長期休業中の引率のための負担を考えると不可能と考える。高校生の県外の外泊をどう考えるか、今後の課題である。

（７）今後の持続可能性について

ＳＧＨ指定前よりグローバルシティズンの育成を学校の理念とした教育を実施してきた。ＳＧＨの指定を受け、具体的なカリキュラムを作るに至った。今後はそれを発展させていく。

また、ＳＧＨ指定最終年度の２０１９年度より、ＳＧＨ活動と並行して、立命館宇治中学校・高等学校が拠点校となるWWＬ（ワールドワイドラーニング）の連携校としてアドバンスト・ラーニング・ネットワークに入ったので、ＳＧＨ・ＳＳＨ経験校、国際機関、企業と共に、高度な学びの研究開発を行っていく。

≪ＧＬ（グローバル・リーダー）コースの設置≫

ＳＧＨ活動をはじめるにあたり、２０１５年に高校にＧＣ（グローバルコミュニケーション）コースを設置した。総合的な学習の時間と国際教養（学校設定教科）の２単位（高校３年間で６単位）を使って、デザイン思考を使いながら新しい価値を創造するための思考力をつけ、R.W.P.（リサーチ.ライティング.プレゼンテーション）とＤｉｓｃｕｓｓｉｏｎを外国語に加えるカリキュラムの開発を行った。２０２０年度以降はＳＧＨで開発したカリキュラムはそのまま継続し、加えて、ＳＴＥAM教育やサイエンスの分野など理系の分野でも国際的に活躍ができるように計画していく。そのために、２０２０年度入学生よりＧＣコース改め、ＧＬコースとして進化させていく。

≪WWＬ連携校として≫

２０１９年度（連携校として１年目）は以下の通り教員、生徒ともに活動をした。
２０２０年度は国際会議の開催などにも積極的に関わっていくことを計画している。

１．立命館宇治中学校・高等学校（拠点校）の学校訪問と今後の話合い　４／２５

出席者

福岡雙葉学園

西山校長、永田教頭、百田常務理事、高橋事務長

吉岡ＳＧＨ推進委員長、大庭英語科主任

立命館宇治中学校・高等学校

竹中一貫教育部一貫教育課課長、上杉副校長

内容

ＡＬネットワーク、WWＬ連携校選定の基準についての説明

２．ＡＬネットワーク推進会議

第１回　６／２６　ネットにて

・WWＬコンソーシアム構築支援事業ＡＬネットワーク連携校との覚書完成

・海外研修参加誓約書完成

第２回　７／３１　立命館大学びわこくさつキャンパス　ラルカディアにて

出席者　篠脇教頭

・各学校／団体　自己紹介、開放できる研修、今後の計画、アセスメント

第３回　１１／２１　立命館宇治中学校・高等学校にて

出席者　吉岡ＳＧＨ推進委員長、清水ＳＧＨ推進委員

・新規連携校／団体の紹介

・連携校から開放できる研修について・・・本校からはＳＦ研修を開放

・来年度の計画・・・本校は新たにWＹMに台湾の交流校と参加する予定

第４回　１／２４　立命館中学校・高等学校にて

出席者　長村（英語科）

・マニラ研修について・・・本校より引率１名、生徒６名が参加予定

・次年度開催予定の国際会議について・・・生徒実行委員会の生徒選定予定

３．海外研修への参加

①Global Leadership Studies in Laos　８／２１～８／２７

参加者　高１：３名

・事前学習（個人テーマ）ラオスの政治／経済／言語／気候

・事後発表

１０／１２　ＳＧＨ運営指導委員会でプレゼンテーション

１０／１９　九州大学アカデミックフェスティバルでポスター発表

②Global Leadership Studies in Laos　１２／１４～１２／２０

参加者　高１：３名

・事前学習（個人テーマ）ラオスの歴史／経済

・ふたばプロジェクト「坂雲寮（ラオスの学生寮）での異文化交流」

目的：ラオス、日本の双方の高校生が自国を引っ張っていく人材として成長する

想い：もっとラオスという国に関わりたい（前回の渡航より）

坂雲の寮生にラオスを発展させるためのリーダーになってほしい

方法：ディスカッションすることで世界の現状について学び、当事者意識を持つ

時間：６０分程度

課題：plastic pollutionというトピックについての知識不足

→日本人側が事前準備

言語

→簡単な日本語を用いながら、図や動きなどのノンバーバルコミュニケーションを多く用いてより伝わるようにする

その他：立命館宇治、聖光の生徒さんたちも一緒にディスカッション

現地でプロジェクトを回す手伝いをしていただける方を１、２名募集

・事後発表／普及

１／２４　第１回WWL研究報告会でポスター発表

３／７　校内発表会でプレゼンテーション

３／１４，１５　ワークショップコレクション九州大学でラオスコーヒーの試飲会（協賛　西鉄、グッデイ）とポスター発表

③マニラ短期スタディーツアー　３／９～３／１２・・・中止

引率１名、参加者　高１：４名，高２：２名

・事前学習（個人テーマ）フィリピンの宗教、スポーツ、気候、教育など

４．国内イベントへの参加

①高校生ＳＲサミット　ＦＯＣＵＳ（Forum On Creating Unified Society）

７／３０～８／１

立命館宇治中学校・高等学校　立命館大学びわこくさつキャンパスにて

参加者　高２：５名

・各校（１７校）取組紹介　各校取組練り直し　プレゼンテーション

②第１回模擬国連　参加者　高２：４名，高１：１８名

１２／１７～１８　立命館大学びわこくさつキャンパスにて

・All Englishで、ジェンダーの平等、強制労働、安全保障と権利の３ブロックに分かれ議論した。

【担当者】

担当課	福岡雙葉中学校・高等学校	TEL	092-531-0438
氏　名	吉岡由美子	FAX	092-524-2408
職　名	ＳＧＨ推進委員長	e-mail	yoshioka@fukuokafutaba.ed.jp

国際教養

■1 年生

日　　程：5 月 18 日（土）
授業内容：国際社会に対する自分の
　　関心・興味を理解する
日　　程：6 月 1 日（土）
授業内容：SDGs の中で自分が取り組み
　　たいテーマを考える
日　　程：6 月 15 日（土）
授業内容：SDGs の中でフォーカスする
　　部分を決める
日　　程：6 月 29 日（土）
授業内容：研究コンセプトシートを完成
　　させる
日　　程：7 月 12 日（土）
授業内容：他チームのフィードバック
　　から課題を再設定する

■2 年生

日　　程：10 月 5 日（土）
授業内容：模擬国連①
　　Parliamentary Debate
日　　程：10 月 19 日（土）
授業内容：模擬国連②
　　Lifeboat Simulation
日　　程：11 月 2 日（土）
授業内容：模擬国連③
　　トピック（plastic Pollution）
日　　程：11 月 16 日（土）
授業内容：模擬国連④
　　Position Paper 作成
日　　程：11 月 30 日（土）
授業内容：模擬国連⑤
　　Pitch, Discussion
日　　程：12 月 7 日（土）
授業内容：模擬国連⑥
　　Resolution の説明
日　　程：1 月 18 日（土）
授業内容：模擬国連⑦
　　Resolution の作成
日　　程：2 月 1 日（土）
授業内容：模擬国連⑧
　　Resolution のフィードバック
日　　程：2 月 15 日（土）
授業内容：模擬国連⑨
　　Voting, 振り返り
日　　程：3 月 7 日（土）
授業内容：まとめ
　　＊休校のため中止

高校 1 年

日　　程：5 月 18 日（土）
授業内容：国際社会に対する自分の関心・興味を理解する

2019 年度高 I GC コース初の SGH 活動は、全プログラムをコーディネートしてくださる久保山先生をお招きし、国際教養の第 1 回目として、SDGs を中心に、揺れ動く国際情勢と発展する技術、同時にその背景で生じている国際課題について学びました。初めての SGH 活動で緊張感に包まれながらも、高校 I 年生の GC コースのメンバー全員が、主体的にメモを取り、グループで話し合い、とても充実した時を過ごしていました。次回に向けての宿題も出されており、これからの学びと成果が楽しみです。

日　　程：6 月 1 日（土）
授業内容：SDGs の中で自分が取り組みたいテーマを考える
ゲスト　：福津市副市長　松田美幸氏

ゲスト講師として福津市の副市長をされている松田先生をお迎えし、SDGs について深く考察し、学ぶ機会を持ちました。松田先生は、企業や自治体・病院・大学などの戦略経営と組織変革に関わり、公的な組織のマネジメントシステムやガバナンス改革の実現をリードしてきた方です。現在は行政の審議会や委員会の委員、企業の社外取締役及び顧問、産官学の経営層へのアドバイザーなどを多数経験し、地域や教育の国際化の視点からも発言され、コミュニケーションやリーダーシップ、女性活躍推進、MICE に関わるテーマに講演や研修講師、モデレーターなどをされています。松田先生の丁寧で分かりやすい解説と、淀みないファシリテーションで、生徒たち全員が様々な意見を出し、学びと理解を深める貴重な機会となりました。

日　　程：6 月 15 日（土）
授業内容：SDGs の中でフォーカスする部分を決める

前回各研究チームで取り組みたい持続可能な開発目標（SDGs）について議論をし、決定したものをベースに、2015 年 9 月の国連サミットで採択された「持続可能な開発のための 2030 アジェンダ」にて記載された 2030 年までに持続可能でよりよい世界を目指す国際目標の 17 のゴール・169 のターゲットの中から、フォーカスする部分を決める作業を行いました。地球上の「誰一人取り残さない（leave no one behind）」ことを誓う SDGs をテーマに 1 年間研究を行うことは、非常に重要あると同時に、緊張感を伴う作業ではありますが、生徒たちは目を輝かせながら、積極的に取り組んでいました。

日　　程：6 月 29 日（土）
授業内容：研究コンセプトシートを完成させる

前回各研究チームにて確定した SDGs の中でフォーカスする課題に関して、講師の久保山宏先生から、研究課題の注意点や研究を進めていく際に必要なポイントについての説明がなされました。まずはブレーンストーミングにおいてアイデアを出す際には、とにかく実現できるできないにこだわらず出し続けること、続いてアウトプットの作業を終えた後、今度は収束させていく作業、つまり一つずつ出されたアイデアを整理するべくカテゴライズし、細かく丁寧に検証していくことの重要性が示され、その点に基づき、時間を使って各研究チームが議論しました。次回は他の研究チームに検証してもらい、見落としていた点について考える機会になる予定です。

日　　程：7 月 12 日（土）
授業内容：他チームのフィードバックから課題を再設定する

それぞれ SDGs のテーマから選んだ研究チームの課題に関して、それぞれ他のチームからコメントをもらい、見落としていた点や、フォローアップしなくてはいけない分野などを確認する作業を行いました。実際に進めていく中で、このような客観的講評を受ける機会を、研究のスキームにおけるマイルストーンとして設定することは何よりも重要であり、同時に他社の研究テーマを考えることで、自らのテーマにおいても新たなソリューションのアイデアが生まれることもあります。そのことを体験する、自然と学びの中で身に着けることは、今後生徒たちが将来チームで課題解決と向き合う際に、活かされると感じました。

高校２年

日　　程：10 月 5 日（土）
授業内容：模擬国連①　Parliamentary Debate

模擬国連の授業が始まりました。九州大学の学生によるふたば式模擬国連ですが、第１回目のこの日は、高３の先輩も指導に来てくれています。まずは、「パラメンタリーディベート」で論理的に主張する練習です。先輩が用意してくれたお菓子、きのこの山とたけのこの里を実際に見て、食べて、成分表なども参考にして、どちらがどう良いかを根拠を示して相手を説得するというゲームです。もちろん全て英語で！論理立てて意見を述べることに慣れてきたら、次がキャッシュレス化の是非についての討論です。賛成・反対派に分かれて交互に意見をかわしていきます。合間に必ずチームで話し合いますが、ここだけは日本語 OK なのがふたばルール。自分たちで調べながら意見をまとめていくので、チームワークや役割分担も大切になってきますね。大学生からのフィードバックでは、英語がどうかということも大切だが、ディベートは何よりも内容重視。丁寧に組み立てたロジックが必要なので、良い意味で英語を意識しすぎずに楽しんでいるところをほめてもらいました。

一方で、

・もっと議論全体を広く見渡して情報を拾うこと！
・原稿を文章で作って読むのは×、相手の目を見て伝える努力を！

などのアドバイスも。日本語でやっても難しいディベートを英語でチャレンジすることは本当に難しいですが、知りうる限りの英語を使って相手に伝わるように訓練していきましょう。

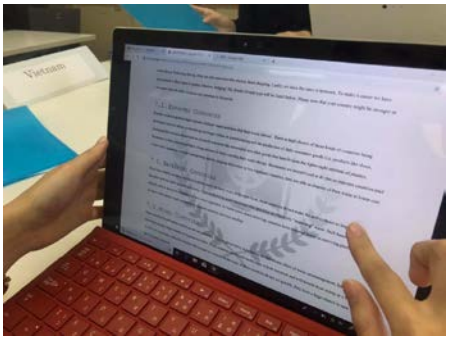
日　　程：10 月 19 日（土）
授業内容：模擬国連②　Lifeboat Simulation

２回目の模擬国連の授業です。この日も九州大学の学生を中心に、高３の先輩が授業をしてくれています。シチュエーションは「もしあなたがタイタニック号に乗っていて、いますぐに船から脱出しなければならない状況にいたら」です。グループでアクティビティに取り組みます。Activity1 救命ボートのスペースは限られているので、20 の所持品のうち何を持って何を海に捨てるか議論せよ。Activity2 ボートが急速に沈み始め、誰もが生き残るために６人の乗員のうち２人を海に突き落とさねばならなくなった。誰を選ぶか議論せよ。自身の思いや客観的な根拠を出し合いながら、楽しそうに議論が交わされます。アクティビティ２では、６人の乗員をグループのメンバーとして考え、一人ひとりが自分の置かれている状況をふまえてどのように貢献できるかを主張します。シリアスな問題である上に、小さな救命ボートに乗ることができる４人の最終決定には、助からない２人を含む全員の同意のもとでコンセンサスをとらなければいけません。グループには高３の先輩にも入ってもらいながら、苦戦しつつ各グループの最終決定とその根拠を英語で報告しました！

＜先輩からのフィードバック＞
・話すことに躊躇がなくて◎
・本番の模擬国連の際は、相手をひるませるような大きな材料が大事。自分の経験や詳しい知識などチームに貢献できる得意分野をもつこと！だからこそ役割分担がとても大事！
・安易に辞書で語句を調べない。瞬発力が大切になってくるので、わからない単語を調べられなくてもわかる知識で組み立てていこう。
・持論よりもロジックやデータを探し出して議論する能力が鍵になってくる。

訓練を重ねて、いよいよ模擬国連に入っていきます♪
先輩たちからのレクチャーということもあって、深刻なテーマも難しいアクティビティも楽しそうに取り組んでいる２年生です！

日　　程：11 月 2 日（土）
授業内容：模擬国連③　トピック(plastic Pollution)説明



３回目の模擬国連の授業です。これまで論理的な主張の仕方やグループの中でコンセンサスをとる訓練をしてきました。この日のテーマは「議題の重要性」です。ちなみにオープンスクールにいらっしゃった中学生がたくさん見に来てくれたので、少しだけ一緒に調べ物をしています。まず九州大学の学生のみなさんから、模擬国連とは何か、そもそも国連とは何かを教えていただきます。今までは１グループ６人だったのを、今日からは４人で。実際に国ごとに分かれてみました。実在する国の外交官になったつもりでリアリティが増すのと、一人あたりの役割がさらに重要になってきますね。模擬国連の流れとしてモデやアンモデも勉強します。アンモデは、流れはモデと同じですが、立ちあがって動き回っては自由に議論・交渉できるので、自分とスタンスの近い国の人とコミュニケーションをとることができます。決議案を作成するときにも有効だそう。座ったままのモデばかりだと特定の問題ばかり議題にあがってしまうので、一旦アンモデを挟むことで自由な議論が可能になるとか。モデとアンモデ、どちらの利点も使いながら、自国の国益が反映され、そして全体が良い方向にまとまった決議案を作成することがゴールです。その決議案も、形式的なものではあるが非常に重要なもの。国連であれば正式な文書であることも教えてもらいました！高２が模擬国連で扱う議題は、マイクロプラスチックによる問題です。

環境汚染や生物の問題だけでなく、人間の健康問題にまで及んでおり、安価・大量生産・丈夫で加工しやすいプラスチックを禁止することは経済に与える影響が大きいと考えられています。これから、リサーチやポジションペーパーの作成を通して議題について勉強していきます。当然のことですが、海外の資料やデータを見ることが前提ですので日本語のものはほとんどありません。自分の担当国の特徴やプラスチック問題についてどのようなスタンスか、インターネットを中心にリサーチします。

【大学生から教わったリサーチのポイント】

①リサーチとは国の基本情報、課題に対する状況、今後の対応、根本的原因、国が求めている要素全て。

→担当国についての理解が深まるので、有名な国や知っている国についてでも調べるのが

当たり前！国の代表として議論するわけなので、正確な理解が必要、よりよい話し合いができるというメリットもあるのです。

②情報を得るときには、なるべく多様な情報源を使うこと。ネットだけではなく論文や書籍も参考にする。
→おすすめは、トピックについては国連のウエブサイトやジャーナル誌、書籍。国のスタンスや課題との関連については、その国の政府公式のサイトや国のニュースを見ると◎
国の基本情報はＣＩＡや Facebook も。

③結構使えるのはウィキペディアの脚注！※本文ではない

　生徒たちはそれぞれの得意分野を生かしてリサーチと、国ごとのポジションペーパー作成に一生懸命です。

日　　程：11 月 16 日（土）
授業内容：模擬国連④　Position Paper 作成

　４回目の模擬国連の授業です。大学生のアドバイスをもらいながら国ごとにポジションペーパーの作成に取り組みました。ポジションペーパーは、リサーチで得た莫大な情報を一旦整理しようとするもので、１つの国で１枚作成します。模擬国連の中で何について話し合いたいのか、何を求めたいのかなどを整理することができます。ポジションペーパーができれば、それをもとにしてオープニングスピーチを作成することになりますが、課題に対してクリエイティブに考えることができるのだそう。

＜注意点＞
・だらだらかくのではなく、要点をまとめておく
・視点が偏り過ぎないようにする（経済面だけ×）
・国の立場を明らかにする（どういう政策を打ち出しているかなど）

広すぎず、狭すぎないバランスのとれたポジションペーパーの作成が望ましいのです！

　前回の授業で習ったように、国の基本情報・状況・取り組み・国連の取り組みをリサーチして、自分たちの立場やコンクルージョンをまとめています･･･。これがやっぱり難しいようで、生徒たちは surface や電子辞書やメモ用紙を交互に見ては議論しての繰り返し。例えばベトナムチームは、日本語でまとめてから英語に訳している生徒、グラマリーというサイ

トで自動添削してもらっている生徒がいました。その隣では国の現状を調べている生徒と全体をまとめている生徒。何もすることがない生徒は一人もいません。ケニアチームをのぞいてみると、基本情報や経済状況のほかに、ケニア以外の国や地域でプラスチック問題についての理解や取り組みを調べるところで苦戦していました。国連の取り組みについての質問を考えて、自分たちは資金不足が問題だというポジションをとりはじめていました。次回までの宿題として、オープニングスプーチの作成が課されました。もちろん全て英語ですが、難しい言葉を使わずに自分たちの状況をわかりやすく伝えられるように工夫します。

＜GC コース OG で九州大学共創学部在籍/清原先輩からのアドバイス＞
・他国のものは見ない！
・ポジションペーパーに I,MY などは使わない。自分たちはあくまでも国の大使であることを忘れないように！
・同じ「プラスチック問題」でも、どういうところから見ると自分たちの国に有利かをよく吟味する。問題のなかでもどこを使うか考える。

ふたば式模擬国連のスタートに向けて、着々と準備も整ってきています。

日　　程：11 月 30 日（土）
授業内容：模擬国連⑤　Pitch, Discussion

いよいよふたば式模擬国連のスタート!! 用意してもらった国ごとのバッジをつけてとても嬉しそうです。各国の外交官になったつもりで、自国の利益と世界共通の発展を目標に議論していきましょう。１０か国それぞれがオープニングスピーチを英語で発表します。各国の主張をまとめ、九州大学の学生たちが昨日までに添削してくれました。グーグルドキュメントや G-suite を駆使して共同編集や提出にも慣れてきましたね。オープニングスピーチで国ごとの立場や主張がわかったところで、モデとアンモデについての流れを教わります。モデで代表者が国のスタンスを発表してから通常はアンモデへ。スタンスが似ている国のところに意見を聞きに行くなど、関連性のあるところで近づいて話し合いを行います。国の代表として、個人同士で話してよいのがこのアンモデの面白いところ。外交官としての責任重大！！今回は初めてなのでまずモデに挑戦します。どこかの国が議題・トピックを提案し、最初に説明するか、最後に主張するかを決めることができ、これを同じように繰り返していきます。

最初の提案はスウェーデン、これに対してケニア、インドネシア･･･と次々にプラカードを挙げて決を採っていきます。模擬国連、この流れに慣れるまでがとても大変なようです。この日は GDP が高いかどうかやごみの廃棄に偏った議論が続きました。プラスチックごみの廃棄について自分の国に技術がないのか？スウェーデンの負担が大きくなってしまっているのではないか、自分たちに技術や協力できることはないのか？大学生からは、決議案として実現の可能性が高くなるように話し合おうとアドバイスをもらい、廃棄以外の側面や別の観点も探りながらよりよい議論を目指します。

＜九大生からのフィードバック＞

・今日ははじめてだったのでついていけるか不安な部分もあったと思うが、ゆっくりでいいので積極的に議論の流れを作ろう。

・国の代表者として話すわけで、個人の意見ではなく国のスタンスをふまえた上で話さねばならない、ということを意識しよう。

日　　程：12 月 7 日（土）

授業内容：模擬国連⑥　Resolution の説明

---

6 回目の授業が行われました。今日は、前回話し合っていた自分たちのレゾリューションが本当に実現可能か、どこかの国に偏っていないかなど実現可能性に重点をおいた議論がテーマでした。国のスタンスがわかりにくいところも多かったので、困ったときは九大生が共有してくれている BG（バックグラウンドガイド）を参考にしていきます。前回同様モデとアンモデのつづきを行いました。モデでは、中国が各国のプラスチックごみの分別状況をたずねたり、ルワンダが各国のプラスチックごみについての具体的な規制、ルールなどが知りたいと提案したり。偏らない議論を意識できました。アンモデでは、ふたば式ルールで日本語を OK にし、活発な議論を誘発していきます。１つの国に 4 人いるので、なるべく散らばって色んな国と対話していくことも狙いです。アンモデのあとはそれぞれの国で話し合いの時間を設け、３分間で他の国の状況をシェアしていきました。全体発表でも具体的な議論の深まりが見えましたのでいくつか紹介します。

イギリスのある生徒は、ケニアのところへ行ってバイオプラスチックについての考え方を聞いてみたところ、共通する考えも見つかったので今後検討したい。アメリカと中国とも話して、マイクロプラスチック削減のための条約を締結したいと報告していました。また、現在は他の国にプラスチックごみを輸出しているが、今後はアジアの他の国などに輸出せず、自国で解決したいという考えもあるようです。前回も議論の中心にいたスウェーデンはベトナム・ドイツと熱心に話していました。ベトナムには工場があるがほぼ稼働しておらず、スウェーデンが技術を提供するなど３か国で協力しようかという話になっているようです。他の国からお金の支援をしてほしいと依頼があったが、うちは技術を提供したいと発表していました。アメリカの代表には金銭的な支援を求めるアジア諸国の声が多かった様子です。ところがアメリカの現状では自国で処理しようとする考えが薄いので、どこからどこまでしか輸出しないなどの制限を設けることで解決したいようです。

これらの議論はまだまだ続いていきますが、次のステップに進むために大学生からレゾリューションの書き方を教わります。模擬国連本番では、長いうえに難しい英単語がでてくることが避けられないのですが、自分たちのできる限りでがんばることが前提です。今回のアンモデをベースに２カ国～最大４カ国で連携してレゾリューションの作成を行っていきます。リサーチや議論を同時に、しかも英語で進めていくきわめて難しい局面ですが、日本人としての考え方や立場にとらわれない調べ学習が生徒たち自身、新鮮で成長を実感しているようです。SGH の授業外でも議論する様子がちらほら見られています。

日　　程：1 月 18 日（土）
授業内容：模擬国連⑦　Resolution の作成

模擬国連の授業も７回目となりました。今日の議論とみんなでまとめたものを使って、１月２５日までにレゾリューション（決議案）シートを提出することが課題です！レゾリューションは２～４カ国で集まって作ることがルールで、チェア（大学生）にわかるようにまとめます。はじめの５分は各国で作戦会議と復習の時間をとってもらいました。どういうレゾリューションを作るか、どこと協力したいかなどを決めています。
その後１５分間のアンモデ→いつものようにそれぞれの国でシェアしていきます。
中国はプラスチックごみを出さないではなく、出したあとの分解する技術を推進していきたい、イギリスは、技術は持っているのでどこかの国と上手に組みたい、など立場や方向性が明確化されてきているようでした。

＜大学生（チェア）からのアドバイス＞

・自国や自国に近い国のことばかりでなく、国連は同じ地球上に属す他の国の利益も大事にする必要があることも忘れない。

・ルワンダのように「何も提供できない」というスタンスの国もあって当然。

連携する国同士でずれも生じてきていたので、次のアンモデで自分たちはこういう考えだったときちんと話し合う必要が出てきました。

こうして何度も繰り返していくことで、生徒たちは模擬国連の形式にも慣れ、国の代表としての責任を果たしながら世界共通の問題への解決策を練っていきます。ここから同盟国をつくっていくイメージでレゾリューションを作成していきます。大学生が手直しを手伝ってくれるので英語の細かい部分は気にせず、プラスチックごみ問題の中でなぜこの部分に焦点をあてたのかを中心にまとめることが大事です。最終的にはどのレゾリューションに賛成し、反対するのか決議をとり、可決を目指します。まるで本当の国連のよう！

この先は一国の４人から一気に人数が増えてしまうので、どうしても中心的に書く生徒が決まってしまうのですが、自分の意見としてみなが共通理解できるように工夫を凝らしていました！

日　　程：2月1日（土）

授業内容：模擬国連⑧　Resolution のフィードバック

８回目の模擬国連の授業でした。全てのグループが期限までにレゾリューション書いて提出していました！大学生からのコメントも頂いて、しっかり準備して授業に臨んでいます。今日は、レゾリューションの何を～や、誰が～、誰と～、どうやって～、、、というところを深めていく時間です。特に、なぜその解決案か、どうやって取り組むのかは詳細に詰めていく必要があります。

大学生のコメントをのぞいてみると「これだと説明不足だよ、曖昧だよ」や「国連でこれは無理では？」と書かれているところが多くあります。生徒たちはまず自分たちで調べ、わからなければその場で学生たちに尋ねて修正を加えていきました。また、バイオプラスチックの導入が挙がっていましたが、それはそれでいいアイデアだが欠点や将来性にも着目すべきであることなど、大学生から丁寧なアドバイスをもらっています。

ある連合チームの議論の推移を紹介します↓

■ルワンダ・中国・アメリカの連合チーム■

GDP が 1500 万以上の国がそれ以下の国にごみを輸出し、受け取った国にお金・施設費も

一緒に投入、施設も作ってあげるようにしたい
→持続可能ではないという指摘、依存してしまう。何も生み出してない
→原則は 1500 万以上の国はプラごみの輸出禁止にして、例外としてごみを輸出するときは受け入れる側のプラごみ排出量の 10%までと制限を設けた
→国連を介してできない。そのきまりを作ると、この 2 か国のことだけになってしまい自国でごみを処理できる国が含まれていない（国連は全世界のことを考えねばならない）
→難しいので却下
→リサイクリングデー、世界でプラごみのリサイクルを推奨する日を設定。例えば海洋プラごみをきれいにする日という風に具体的にしてみる。海洋とすれば、流れて来るごみも含まれる。海はつながっているので意識も生まれるのではないか。

次回はボーティング、つまり投票をする最後の授業です。採択に進めるように、最終スピーチの準備に余念がない生徒たちでした！

日　　程：2 月 15 日（土）
授業内容：模擬国連⑨　Voting，振り返り

最後の授業でした。この日は中学 3 年生が少し見学に来ています！チームごとにレゾリューションを英語で発表して決議をとる時間で、全体の三分の二以上で採用されます。ボーティングは、ドラフトレゾリューションを本当のレゾリューションとして提出していいかという投票のことです。

採択されたのは
＜ケニア・イギリス・インドの連合チーム＞
SGDs のようにゴールをたて、2035 年までにプラスチックを完全になくし、変えていこうとするもの。プラごみを減らしていく方向で、プラのかわりに害の出ない素材を使っていこうとする。

これで一通りの模擬国連の流れを終えましたが、生徒たちは模擬国連に挑戦してみて、とても前向きな感想を発表していましたので紹介いたします。

＜生徒発表より＞

●モデになると全体の進行に遅れたり、どちらの英語力もたりなくて誤解がおきたり大変だったが、もっと英語も世界の現状も理解できるようになりたい！

●模擬国連は本当に慣れるまでが難しいが、経験者が教えてくれた。全ての人に役割があり、テーブル全体で一つの意見を発言している感じ、一緒に一つのものを創り上げている感覚が楽しかった！

●通常日本人の立場で考えてしまいがちだけれど、実際の国際問題に対して別の立場からものを見る力が養えた実感がある。英語の文法とかを気にするよりも、気持ちや内容のほうが大事だと思った。

●誰かと協力して解決策をみつける訓練になった！今後の人生で絶対行かせると思う。

●日本語で考えるのも大変なことを英語でやるのは本当に難しかった。でも国ごとに現状を補いあって協力しあうところに密かに感動していた！

●世界のことについて全然知らない自分に気づいて、答えられず悔しかった。

●普段どれだけ自分のこと、日本のことしか考えていないかわかった。他の国の GDP のこと、海洋ごみのことを他の国の人として考えることができたことが嬉しいし、とにかく楽しかった！

チェアをつとめた大学生からも、

■英語を使う場にどんどん飛び込んでいってほしい

■役目を「演じている」中でこそいつもはいいにくいことも堂々と言えるのかもしれない。人前でプレゼンできなかった人も、日本語をまぜながらでもいいので挑戦する姿勢を忘れないで、と励ましの言葉、そして楽しそうに議論する姿をほめてもらいました。生徒たちは全９回の授業を通して、世界的な課題を一国だけで解決することはできないのだということ、他国と協力しあう時に協力してもらう側の現状を知っておくことや、自分の国のことのように親身になることの大切さをしっかりと学んでいました。

日　　程：3 月 7 日（土）
授業内容：まとめ

＊休校のため中止

総合的な学習の時間

■1 年生

日　　程：9 月 21 日（土）
授業内容：デザイン思考という思考法を理解する
日　　程：10 月 5 日（土）
授業内容:インタビュー調査の注意点とポイントを理解する
日　　程：10 月 19 日（土）
授業内容:インタビュー調査から現状のまとめをする
日　　程：11 月 2 日（土）
授業内容:現状のまとめから取り組む課題を設定する
日　　程：11 月 16 日（土）
授業内容:他チームのフィードバックから課題を再設定する
日　　程：11 月 30 日（土）
授業内容:アイデアを２００以上出しプロトタイプを理解する
日　　程：12 月 7 日（土）
授業内容:ビデオプロトタイプの製作のポイントについて
日　　程：1 月 18 日（土）
授業内容:他者のフィードバックからプロトタイプを改善する
日　　程：2 月 1 日（土）
授業内容：（プレ上映）検証することの意義について理解する
日　　程：2 月 15 日（土）
授業内容:最終発表で発表するストーリーを完成させる
日　　程：3 月 7 日（土）
授業内容：発表（ショートムービー）＊休校のため中止

■2 年生

日　　程：5 月 18 日（土）
授業内容：課題を決定しチームを作る
日　　程：6 月 1 日（土）
授業内容:課題研究のプロセスと取組について理解する
日　　程：6 月 15 日（土）
授業内容：課題設定のポイントを明確する
日　　程：6 月 29 日（土）
授業内容:研究コンセプトシートを完成させる
日　　程：7 月 12 日（土）
授業内容:アイデア発想のポイントを絞る
日　　程：9 月 21 日（土）
授業内容：発表

高校１年

日　　程：9 月 21 日（土）
授業内容：デザイン思考という思考法を理解する

本日よりデザイン思考を学ぶ内容に入りました。デザイン思考とはスタンフォード大学 D-school にて実践され、ソーシャルイノベーションに関する最高のメソッドとして、世界各国のクリエーター社会現場にて取り込まれているものです。

多様な社会変革が生じている現代社会において、常に世の趨勢と趨勢の変化を獲得していく為には、固定概念に囚われていては生み出されない現状が存在します。また、何かのニーズを埋めることが出来たとしても、そのことが新たな社会課題を生み出してしまうものは、持続可能な社会を目指す現代社会においては馴染まないといえます。つまり、こんな社会にしたいというビジョンを駆動力にして、自分たちが享受したい未来を描くためのモノづくりを体系化するために、デザイン思考は用いられています。

その中から、まず第一歩として本日はリサーチについて学びました。リサーチは基本情報や理論、事例やトレンドなどを知るための文献調査（書籍や論文・統計情報)、傾向・調査の手がかりを得るためのアンケート調査、そして、現場や当事者の様子、体験エピソードを行うためのインタビュー調査や観察などに分けられます。

特に昨今その手軽さ故にリサーチのファーストステップとなった、インターネットリサーチに関してのリテラシーについて生徒たちは学びました。

次に実際に解決されていない課題を見つけ出すために必要な、ユーザーリサーチについて学びました。その際に必要な対象となるエクストリーム調査について、それぞれの課題のエクストリームユーザーを考える作業を行いました。

日　　程：10 月 5 日（土）
授業内容：インタビュー調査の注意点とポイントを理解する

前回学んだデザイン思考に関する思考法に基づいて、課題解決に向けたプロトタイプの作成までに必要となるリサーチの方法を学びます。具体的にはインタビュー調査について、まずはターゲットをエクストリームユーザーに合わせ、リサーチに適したエクストリームユーザー像を最初に明確にすることを久保山先生から教わりました。

この視点をもとに、後半でリサーチユーザーの検討に入り、同時にインタビューの質問をまとめる作業を行います。作業のプロセスとしては、①質問を再度洗い出す②質問を分類する③質問に優先順位をつける、この①～③を各研究チームで行い、その後チーム毎にミニレクチャーを行った上で、久保山先生の方から、リサーチマナーについて確認がなされました。いよいよ外部に出ていく作業、来週からはより一層緊張感が高まります。

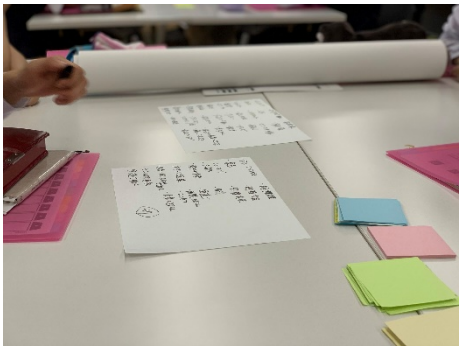
日　　程：10 月 19 日（土）
授業内容：インタビュー調査から現状のまとめをする

本日は GC 活動の講師兼ファシリテーターの久保山さんをお迎えし、インタビューの結果を用いながら、課題点やソリューションに関するアイデアをまとめ上げていくためのストーリーボード作成までのプロセスを学びました。ワークシートを用いながら、登場人物像を設定し、そこから全体のストーリーを描く中でインタビュー結果、及び課題やアイデアを整理し、最終的にどのようなメッセージを伝えたいのかを考え、引き続きグループで研究を継続していくかを考える機会となりました。いよいよ活動は後半に入り、最終のプレゼンテーションに向けてグループ毎に形にしていく段階へと入っていきます。

日　　程：11 月 2 日（土）
授業内容：現状のまとめから取り組む課題を設定する

本日はこれまでの GC 活動（SDGs をもとに社会課題を明確にし、それらをもとにテーマを設定・チームごとに研究計画を作成、情報収集・社会調査）の結果を、ストーリーボードにまとめる作業を行いました。ストーリーボードとは、これまでの研究成果を、登場人物、場面設定、葛藤・問題、キーワードに分けて整理し、短い時間で第三者に伝えるための絵コンテのようなものです。インタビューにおいては各研究グループが、事前に想像できなかった回答や情報を知ることになるケースも多々あり、この現状を受けてどのように理解するかについても議論した上で、まずはと出てきた情報を共有し、まとめあげていきます。次に、講師の久保山先生より、ストーリーボード作成の留意点が確認されました。ストーリーボードは 8 コマで課題やソリューションなどを明確に第三者に伝えるためのものであるので、イラストのクオリティーや複雑な表現を盛り込んだセリフなどは求めておらず、むしろイラストやセリフがシンプルであっても、課題やソリューションのイメージがしっかりと第三者に伝わるストーリーとなっていることが重要とのこと。いよいよ 2 分間という短い時間で 8 コマを作成する作業に移ります。スタートの合図に合わせ 2 分間の作画がスタート。その後同じグループ内で出来上がったストーリーボードを共有した後、目を閉じて次のラウンドに向かうためのフィードバックを行います。続いて 2 ラウンド目のスタート、ストーリーボードを作成してグループのメンバーと共有。フィードバックの後、更に 3 ラウンド目のスタート。本日最後のストーリーボードを作成し、グループのメンバーと共有しました。この行程をベースに、次のステージとなる『望ましい未来像について描く』作業に移るところまでが本日の活動となりました。次回までに個人でブラッシュアップした上、今度はチームでまとめていく作業に発展させていきます。

日　　程：11 月 16 日（土）
授業内容：他チームのフィードバックから課題を再設定する



課題の見直し（フィードバック）を行いました。2 グループでペアを作って、1 チーム 3 分で現状・未来・課題をそれぞれ発表し、聞き役のグループは 3 分間で質問やフィードバックを行います。その後、更に研究チームで議論を重ね、より洗練された内容へと発展させていきます。その都度、原点に立ち返りつつ、SDGs が目指す課題のソリューションを具体的に詰めていくプロセスを、あらためて生徒一人ひとりが体験することによって、研究チームとしてのみならず、個人の能力も磨き上げて行くことができるのは本当に素晴らしいと深く感じます。

日　　程：11 月 30 日（土）
授業内容：アイデアを２００以上出しプロトタイプを理解する

課題をクリアするために必要なアイデアを選定しいく作業を行いました。アイデアをできる限り出す前回の授業では発散のプロセス、つまり数を出す作業を受けて、今回は収束のプロセス、選定に留意します。社会課題に関しては、直ぐに思いつく道筋で解決出来るなら、とっくに誰かが解決しているはずであり、そうでないからこそ飽くなき挑戦が必要とされています。講師の久保山宏先生はアルバート・アインシュタインの『我々の直面する重要な問題は、それを作った時と同じ考えのレベルで解決することはできない』というメッセージを引用した上で、どのような視点でアイデアを選定するかが重要で、そのことを各研究グループで意識するよう説明されました。
選定されたアイデアに関しては、現実を見据えた上で、当事者を含めブラッシュアップすることが重要で、このプロセスを経ていないと次の段階であるプロトタイプの作成で戸惑います。次にプロトタイプの説明に入りました。プロトタイプにはファンクショナルプロトタイプ、デザインプロトタイプ、コンテクスチャルプロトタイプがあり、生徒たちは次回の授業までに 3 つ目のコンテクスチャルプロトタイプ（世界を伝えるストーリー）の作成に挑戦します。

日　　程：12 月 7 日（土）
授業内容：ビデオプロトタイプの製作のポイントについて

前回まで各研究グループにて絞り込んだアイデアを確認した上で、その中から最も課題解決に繋がる、あるいは望ましい未来に繋がるアイデアをそれぞれ選定し、理由を書き出す作業から始めました。その後研究チーム内でダイアログを行った上で投票し、最終的に研究チームとして最終的に発表する選りすぐりの 1 つを導き出すところまでを行います。
それぞれの研究チームが課題解決のアイデアを出すのに取り組んでいる内容は、全てが簡単に解決できないものなので、出来る限りブラッシュアップしていきます。
アイデアを研究チームでブラッシュアップしていくプロセスに関して、講師の久保山宏先生は濱口秀司さんの話を紹介されました。優れたアイデアを創出するためには、全体で話し続けるのではなく、まずは個人で静かに考え続け、その後一度チーム全体で共有した上で、再び個人で静かに考える時間を持ち、最終的にチーム全体でまとめあげることが必要である、まさにアイデアを形にするスキルを学びました。生徒たちにとって非常に大きな気づきの瞬間だったと思います。いよいよ次回からは、最終研究発表に向け、具体的なプロトタイプを創出する作用に入ります。具体的には 8 コマを何度もブラッシュアップし、ストーリーボードをまとめたオリジナル動画を作成した上で、それを使用してファイナルプレゼンテーションの準備に入ります。

日　　程：1 月 18 日（土）
授業内容：他者のフィードバックからプロトタイプを改善する

新年を迎え始めの授業となった本日は、プレ上映会（中間報告）に向けて、その意義と目的について久保山先生から丁寧に説明がありました。自分たちの研究課題を解決する手段としての手段が、一見上手く説明できているようであっても、改めて検証した際、実は別の視点から見た場合、そもそも本質的な解決になっていないかもしれない、また取り組んだ課題が一見解

決するように見えても、実践を通じて新たな別の課題を生み出してしまっているなどということがあるかもしれないなど、最後まで丁寧な検証が必要であることなどを考えました。各研究チームにおいて、それぞれのソリューションを再度、様々な視点から議論し、最終上映に向けてブラッシュアップしていく機会となり、いよいよ一年の学びも終盤に差し掛かった感じがいたします。

日　　程：2月1日（土）
授業内容：（プレ上映）検証することの意義について理解する

デザイン思考に関する学びの最終回、前回各研究グループでプレゼンテーションを行った内容のブラッシュアップと完成を目指します。最初に「直ぐに思いつく道筋で解決できるのならとっくに誰かが解決している」「特に多くの人の意識や行動の変化が必要な課題」との久保山先生からのフィードバックがありました。単に「これが大切だ」と訴えても人は変わらず、別の理由で変えた行動が結果、課題を解決するようなアプローチを探る必要があるという指摘です。その後、他の研究チームからのフィードバックをもとに、各研究チームで議論を継続しながら、あらためて客観的に発表の内容が、デザイン思考に基づき、社会課題の解決に繋がっているかについてブラッシュアップを行いました。

日　　程：2月15日（土）
授業内容：最終発表で発表するストーリーを完成させる

ファイナルプレゼンテーションを次回に控えた、最終調整の回となりました。具体的には各研究チームで作成されたムービー（ダイジェスト版）が上映され、それぞれの作品のイメージを捉えながら、講師の久保山先生が最終微調整の為のヒントを各研究チームに出されました。紙芝居のような今回のムービーをもとに、いよいよ次回は様々な手法が施され、工夫がなされた完成版ムービーが上映されます。発表会場は雙葉小学校の多目的ホールを使用し、九州大学の秋田先生をゲストコメンテーターとしてお招きしたうえで、各研究チームの集大成が作品として披露され、久保山先生と秋田先生から講評をいただく機会となります。それぞれ緊張感を持って真剣に議論している姿が印象的でした。次回が待ち遠しいです。

日　　程：3月7日（土）
授業内容：発表（ショートムービー）

＊休校のため中止

高校２年

日　　程：5月18日（土）
授業内容：課題を決定しチームを作る

デザイン思考の授業がスタートしました。デザイン思考を活用して現実社会の課題に取り組む！久保山先生からさまざまな「デザイン」について教えていただきます。まず、世の中には新しいサービスが続々と生まれていることを確認。

◆Ｍａａｓ（Mobility as a service）
移動を一つのサービス・新たな概念ととらえたもの。

◆Ｕｂｅｒ
目的地とドライバーをマッチングするサービスで、UberEats は店舗にある飲食物を食べたい人の元へ届ける→労働力としてのリソースを有効活用したデリバリーサービス。

◆ヘルシンキで 2016 年に導入された whim
目的地を入力すると最適ルートを検索し、バス・電車・タクシー・自転車などをまとめて予約し支払いまでアプリ内で完了できる→月額乗り放題もあり、予約・決済のわずらわしさ解消！＆都市の交通稼働率がＵ！これは日本でも実証実験がはじまるかも。

◆ＴＯＹＯＴＡ e-pallete
車は本来いかに快適に目的地にたどりつけるかが課題であったが、移動の最中も何かほかのことを！ということをコンセプトに新たなサービスを。アイデアがどうかということよりも、現状がどうかを捉え直すことが大切です。業界の中の常識にとらわれず、現状のとらえ直しに力を入れて課題を考えていきます。

高２のデザイン思考では、SDGs（持続可能な開発目標）について、１年生の時の「福祉・障がい」というテーマから４つの対象を引き抜いてチームに分かれ、探究を行います。

○ひとり親世帯　　○ＬＧＢＴ
○知的障害のない発達障がい（子ども）　　○知的障害のない発達障がい（大人）
（人数が多く集まったところは、２つに分割してチームの数を増やしました）

チームが決まったら課題研究の進め方をおさらいします。

1） テーマの設定

2） 予備調査　先行研究・事例

※なぜこの研究が必要か？独自性は何か？

未知のこと、身解決の課題に取り組むのが研究で調べ学習ではない！

3） 研究課題設定

4） 仮説

テーマを決めながら予備調査を行いますが、

①誰かの予想ではなく、統計や実験結果など数的根拠や背景を考えること

②情報源（ソース）を明確に。まとめサイトをそのまま使うのではなく、一次ソース（大元）までさかのぼること

に注意して調べていきます。

残り時間で予備調査の準備として、マンダラートで調査項目の洗い出しを行いました。

調査のキーワードになりそうなものを紙に９個次々だしていくもの。簡単な準備運動です！

次回までに、各項目について手分けしてできるだけ多くの情報を調査することが課題です。

学術用に特化した検索ができる、グーグルスカラーを活用しているチームもたくさんありましたよ。

日　　程：6月1日（土）

授業内容：課題研究のプロセスと取組について理解する

ゲスト　：九州大学　秋田直繁先生

九州大学の秋田先生による授業が行われました。ここでは、課題研究の際のプレゼンテーションについて学んでいきます。研究とは探究し見極めること。まずは九大生の研究事例からテーマを決めることが一番大変なのだと知りました。探りながらも実際の現場を見て、きわめ、課題や工夫を見つけていく。最初の段階のテーマ設定こそが課題研究の肝なのです。そして、何かをデザインするときは「多様性」や「ちがい」に目を向けることがコツです。他人事でなく、自分事として考えること、その立場に立って考えてみることも大切なことだそうです。自分たちのテーマの中にある人のことを真剣に思いながら考えていってほしいと秋田先生は話されました。先行研究があって

もあきらめず、「ニーズがある！」「問題がある！」ととらえて先行研究を超えるようなものを目指してみます。また、自分たちと反対の立場にいる人のことを考えてみるのも一つの手です。このあと＜課題研究のまとめ方レッスン＞をみっちり受けることができました！

★本日のポイント★

・課題設定は研究の一番大切なところだけれど、課題やテーマはあとで変えてもいいし、変わるのが普通だと思っていい！

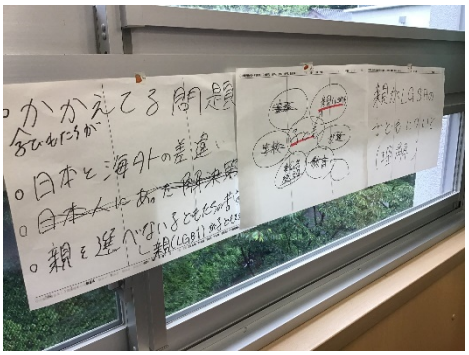
・調査を始めるためには仮説が必要。

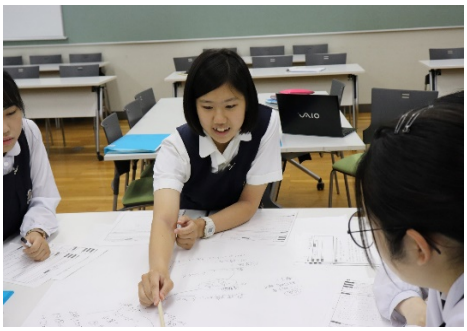
・調査内容の共有は綿密に。

・問題の関係者のことを意識し、旅に出る気持ちで固定観念をとりはらって探求しよう！

日　　程：6 月 15 日（土）

授業内容：課題設定のポイントを明確にする





前回からの調査内容の共有と吟味の時間でした。チーム内で各自が調べたことを模造紙にメモしながら共有→チームから 3 名別チームに遠征→別チームで調査結果の説明を受け、質問する。ここでは制限時間内にチームで調べたことと自分たちの研究テーマについてプレゼンし、質問を受け答えすることで議論に幅と深みを出していきます。独りよがりな意見にならないようにしていくというわけです。別チームへの遠征を終えたメンバーが、元のチームに戻って報告します。残っていたメンバーは、他チームからどのような質問を受けたかを共有します。ワークシートを完成させながら、以下の点に注意して研究コンセプトを導きだしていきます。

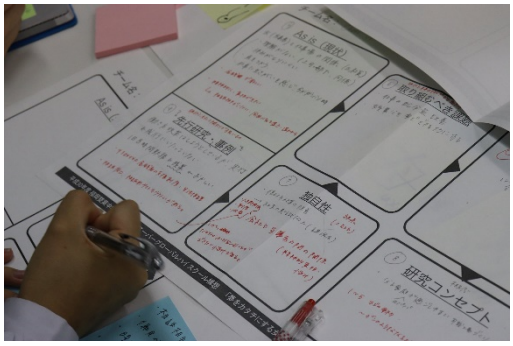
●高 1 の時のようなものでおわらず、探究することを意識する。どんな先行研究があるか、こんなアプローチが既にある等まで調査すること。

●独自性を大切に。先行研究や既存のアプローチにはないものを！

●「その人自身に課題があるのではなく、その人と何かの関係に課題がある（たとえば障がい）」という、秋田先生の話を思い出す！現状とのギャップや、対象と何の関係性の中に問題があるのかを考えることにかなり時間を要した生徒たち…。そこで、ステークホルダー（利害関係者）を可視化していきます。これは間接的な関係者も含めて地図に落として課題を見つけていく手法で、模造紙にふせんを貼りながらやっています。

＜ステークホルダーマッピング＞
まずは当事者を中心に置き、どういう人や施設と関わっているかを書き出していく
→その背後にあるものまで広く書き出す。当事者に近いもの・遠いものを地図に記す
→登場人物や施設の補足説明も加えていく
→ここで登場人物同士の関係性を追加していく
→課題を見つけていく
ふせんの色分けも決まっています◎
課題：赤、補足説明：青、関係性：緑、人物や施設：黄色
　課題とする周辺にある色んな関係性の存在を知ることで、どこに焦点をあてるべきか絞ることができます。研究コンセプトに揺らいでいるチームもありますが、現時点で中心だと思う人物を置いていきます。ここでは議論せず、もし変わった場合はふせんなので、あとで位置を変えればよいというわけです。
他のチームがどのようなまとめ方をしているかも見てヒントにしながら、ある程度できあがったら課題を見出し始めます。
このマップは、事実を利用しながら自分たちの世界観を再現したものなので、現実味・現実との整合性を優先する必要はありません。関係者や情報がたくさんあるからといってそこが焦点をあてるべきポイントというわけではありません。また、真ん中に置いたからそこが大切というわけでもないそうです。課題を設定し絞り込んでいく際には、どこにスポットライトをあてるかと同時にどこの情報が不足しているのか全体像を見ながら理解することが大事だと学びました！
次回までにコンセプトシートを完成させて来ることが宿題です^^

日　　程：6 月 29 日（土）
授業内容：研究コンセプトシートを完成させる



今日はいよいよ研究コンセプト決定の日です！
コンセプトシートをベースに 1 チーム 90 秒で発表していき、質問を受ける形をとりました。
発表後、各チームの課題を洗い出すと次のようになりました。
◆父子家庭チーム…独自性を。先行研究の中に母子家庭は多かったが、というのは〇
　どう解決するかの方法論（講演会をする）などは現段階ではいらない。働き方改革の中に講演会は既に存在していると言える。
◆母子家庭チーム…親子のコミュニケーションをとる時間がないことでどう困っているか、もう少し掘り下げる。独自性もまだイマイチ。母親の働く会社にフォーカスをあてると

いう考え方は△　描く未来も単純に「子どもとの時間がとれればいい」ということではないかもしれない。未来についてもっと描く、そのためには現状がもっと細かくないといけない。

◆性の多様性チーム…焦点がどこか絞り込めていない。「みんな」って誰かを明らかにする。対象者とその人を取り巻く環境との関係性の中にどういった課題があるかを明確にすること。

◆発達障害の子どもチーム…子どもとお母さんが安心して電車に乗ることができ、周りも気持ちよく利用できる未来がよく描けている。発達障害といっても多様なので、もっと焦点をあてこむといい。

◆発達障害者の大人チーム…本人が気軽に洋服選び、ファッションを楽しめるようにする未来、対象が誰かわかりづらい。登場人物が二人いる（当事者と介助者：情報発信者）のは理解に時間がかかる。現状とのギャップは何かしっかり考えること、アイデアはあとから色々出て来るかもしれない。ＡｓｉｓとＴｏｂｅを練り直す！

◆同性愛者の家族チーム…両親が同性愛者の家庭

オーストリアの研究でＬＧＢＴは家庭に影響を与えない、一方でＬＧＢＴの子どもが悩みを抱えるという報告もあった。偏見がなくなり苦しむことなく生活できる未来を想定した。親に対するアプローチ（当事者へのアプローチ）は先行研究としてあるが、子どもへのサポートが薄いのでは、という着眼点が独自性としては◎

◎完成形を目指す上でのポイント

・箇条書きではなく文章で書くようにする。伝わる内容に
・誰がどんな状況か、初めて聞く人が理解できるようにする。
・現状に対して関わりの強い事例を２～３示すことで現状の補足をする
・未来に対して方法を書かない。ＳＮＳで～イベントで～などは×
・視点の切り替えによって独自性を出す！

ただし、独自性ばかりを追求しては現実とかけ離れた内容になってしまいます。コンセプトを固めるまでアイデアは出さないこともアドバイスとしていただきました。

次の授業までの宿題は、１００のアイデアを出してくること！！

アイデアをたくさん出すことは実はすぐできるが、コンセプトはすぐにできるものではないので、その分時間をかけてじっくり取り組むことが大切だったのですね。

日　　程：7 月 12 日（土）
授業内容：アイデア発想のポイントを絞る

研究コンセプトに沿ってアイデアを出す時間でした。チームごとにコンセプトに沿った研究をまとめる段階にきています。アイデアをたくさん出すときは、まずに視点や切り口をかえること。すぐに思いつくような道筋で解決できるなら、とっくに誰かが解決しているはずです。アインシュタインの言葉に次のようなものがあります。”我々の直面する重要な問題は、それを作った時と同じ考えのレベルで解決することはできない” 見落としている視点はないかどうか。横にずらしたら？裏返したら？…視点の変え方はさまざまですね。

ここではとにかくたくさんアイデアを出していくことを重視し、良い悪いや実現可能不可能は考えません。白紙に二本の交わる線をひいて軸を作り、トレードオフ（一方を追求すれば他方が犠牲になる関係）を見つけることで、新しい発想へのヒントにしてみました！これはなかなか面白かったようで盛り上がりました。チームで最終的には A3 用紙の 2 × 4 の 8 枚を並べてポスターサイズにします。コンセプトシートに沿ってまとめることが原則です。気をつけたいことは、ただの提案で終わるのではなく、アクションを起こしてみた結果どうだったか、どんなことが見えてきたか、その課題点までかけてやっと研究になります。少なくとも現場の人へのインタビューなどはあったほうがよく、分析の際には根拠となる数字やデータが絶対に必要です。（ただし、ここでは検証まで行うことは時間的に厳しかったので省略…。本来企業のデザインなどはきっちりと検証までなされているはずですよね。）

こういうサービスや商品があったらどうでしょうか？というスタンスで次回 9 月の最終発表ではチームでプレゼンテーションを行います！

日　　程：9月21日（土）
授業内容：発表

各チーム５分程度のプレゼンテーションに対して、ゲストで福岡市スタートアップカフェのコンシェルジュ藤見氏からコメントをいただきました。
課題研究のテーマを設定するところから時間をかけ、研究コンセプトを練り上げながら取り組んできました。
特に２つのチームが藤見氏から評価されましたので、簡単に紹介します。

◆Ｃｈｅｅｒ　Ｕｐ　Ｐａｐａ

日本では片親というとシングルマザーを指すことが多く、シングルファーザーが情報収集や相談する場所に困ることが少なくないという現状から、シングルファーザーが多くの情報を集められ、不安で悩むことがなくなることを研究テーマとした。特に精神面での不安解消に焦点を当て、具体的な解決策として、合同コミュニティの開設を挙げた。シングルマザーがシングルファーザーに、シングルファーザーがシングルマザーに悩みを相談でき、それぞれの情報や役割を教え合うことができるコミュニティは先行例がなさそうであった。シングルファーザーへのインタビューを通して、年ごろの娘をもつシングルファーザーの現状や悩みを実感し、この解決策があれば利用してみたいとの言葉から需要はありそうだと思えた。一方で、現在の課題は高校生自らが宣伝を行うことやその機会づくりである。

◆ＲＡＩＮＢＯＷ

福岡女子大学食健康学科において、入学できなかった男性が提訴した事例と、お茶の水女子大学が２０２０年度入試からトランスジェンダーの入学を許可した事例を挙げ、生まれ持った性別によって学ぶ場所が制限されているというところを研究コンセプトに据えた。性別にかかわらず、自分が学びたいところで学ぶことを選べる世の中をつくることが望む未来。スカイプを使った授業を行うという検証を試みたものの、授業料や諸学校行事への参加など問題が噴出し、女子校が今でも存在するわけにまで研究は深まった。検証後の今、女子大学に関わらず、全ての人が社会の現状（大学入学含む）について考え意見を持つことが望む未来につながるのではないか。

短い時間でテンポよく、独自性を持ちつつ研究コンセプトに沿って発表できていました。久保山先生からは、デザイン思考でいうところのプロトタイピング→テスト、検証をしっかりと行うことが大事であるとのお話でした。インタビューにとどまっては研究とは言えません。課題発見からテーマの設定に至るまでの苦労を実感するとともに、チームで協働してアイデアを出し合う経験を積むことができました。

フィールドワーク

サンフランシスコ研修

参加者 GC コース（高１　４名、高２　６名）引率２名

協力機関　非営利団体 VIA (Volunteers in Asia)

日程	内容	詳細
8/4	出発 オリエンテーション	10:35 福岡出発→KE788→仁川→KE023 11:00　SF 到着 オリエンテーション
8/5	ESI	Exploring Social Innovation プログラム
8/6	ESI CIL 訪問・研修	Exploring Social Innovation プログラム Center for Independent Living (自立支援施設)への訪問と研修
8/7	Chinatown フィールドワーク	Chinatown Civil rights walking
8/8	インタビュー	Yumi Kubo from Spectrum Visions World Yoko Akazawa from Apple Nagasawa Rumi from Google
8/9	Stanford Univ. Tour ワークショップ	スタンフォード大学キャンパスツアー Entrepreneur Mindset Activity and Design Your Life(スカベンジャーハント)ワークショップ
8/10	帰国	13:10 SF 出発→KE024
8/11		→仁川→KE781→福岡

日程：8 月 4 日

内容：オリエンテーション

サンフランシスコ、シリコンバレー、スタンフォード大学、デザイン思考などをテーマにオリエンテーションが行われ、途中簡単なワークショップなどを織り交ぜながらの充実したプログラムが展開されました。

日程：8 月 5 日
内容：Exploring Social Innovation プログラム

アジア各地から参加されているメンバーと一緒に、ワークショップ形式で行われる VIA Exploring Social Innovation（ESI）に参加しました。午前中はファシリテーターのイさんを中心に、ESI スタッフによるリードで、アイスブレーキングから始まりました。その後次々と出題される様々な課題をクリアするべく、英語を共通言語として、体を動かしたり、ダイアログしたりの盛りだくさんの内容でした。ランチタイムはそれぞれサンフランシスコ市内のデパートのフードコートなどへ。その後午後のプログラムでは、スカベンジャーハントというアクティビティを行いました。内容としては、グループに与えられた共通のタスクを、実際にサンフランシスコ市内に出て実践するというもの。それぞれ別れたグループで英語を使いながら協力し、頭と体を使い、とてもハードな内容だったと思いますが、生徒たち全員が精一杯充実した経験と学びを紡ぐことができたと思います。

日程：8 月 6 日
内容：Exploring Social Innovation プログラム
　　Center for Independent Living での研修

午前中は昨日に引き続き、Via Exploring Social Innovation（ESI）に参加、いよいよ福岡雙葉高校の GC コースでもテーマとなっている、デザイン思考を学ぶプログラムです！イさんの素晴らしいファシリテーションをベースに、アジアからの研修生と共に、参加した生徒たちそれぞれが積極的に、まずはパートナーと 2 人で、その後シェアのために複数で、デザイン思考のプロセスである［共感（empathize）］［問題定義（define）］［創造する（ideate）］［ プロトタイプ作成（prototype）］までを実践しました。午後からは、サンフランシスコより地下鉄を乗り継いで、対岸のアッシュビー駅まで移動し、Center for Independent Living を訪問いたしました。職員のロビンさんからセンターの歴史、意義、目指すものなどをご紹介いただき、背景にある philosophy・エド・ロバーツ・オルムステッド判決・ユニバーサルデザインなどなど、とても貴重なお話をたくさん聞くことができました。

その後参加した生徒たちより日本語と英語で途切れることなく質問が出て、活発なダイアログが行われました。次にムニアさんより障害者スポーツ、特に車椅子バスケットボールについてご紹介いただきました。ムニアさんによるデモンストレーションや、特殊な車椅子の体験など、生徒たち全員、とても貴重な学びをさせていただきました。

日程：8月7日
内容：Chinatown フィールドワーク

サンフランシスコ市内にあるチャイナタウンへ移動。Via代表の石田さんが、今年度より新しくプログラムに組みこんでくださった、Chinatown civil rights walking tour に参加しました。チャイナタウンの歴史は深く、そして実際に説明を聞きながら歩くことでしか考えることができない、感じることができないものがありました。毎回メンバーに最高の学びと経験を提供したいと考え、最高のプログラムを提案して下さる石田さんにあらためて心より感謝です！

日程：8月8日
内容：女性グローバルリーダーへのインタビュー

シリコンバレーの企業訪問をテーマに、現地で活躍されている日本人女性3名へのインタビューです。

本日1人目の女性は Spectrum Vision Global,Inc.のCEO をされている Kubo Yumi さん。ビジネスパートナーで、スタンフォード大学において Ph.D を取得されている CTO の Higuchi Sei さんとご一緒に、待ち合わせのコワーキングスペースに足を運んでくださいました。Yumi さんの会社は自閉症などで言葉を伝えることが難しい人のための、タブレット端末用アプリケーションを開発、現在世界 120 カ国以上で使用されています。開発のモティベーションは Yumi さんのお子様にあることから、ご自身の人生における起業までの壮絶なストーリー、そして Yumi さんが抱く次世代を担う生徒たちへの情熱と愛情のこもったメッセージをお聞きすることができました。パートナーの Sei さんとの連携が見事で、お二人ともランチまでご一緒してくださり、生徒たちは本当に素晴らしい時間を過すことができました。

次に Apple Visitor center に移動し、各自自由な時間を過ごした後に、いよいよ Apple Campus に移動し、本日2人目の女性、Apple 社に勤務されている Akazawa Yoko さんにお話いただきました。普段は絶対に入ることのできない Apple 社内を特別に見学させていた

だき、その後 Yoko さんから自己紹介を切り口として「見えること見えないこと・見せること見せないこと」をテーマにお話いただきました。ソフトな口調と見事なプレゼンテーション能力に圧倒されながら、世界をリードする Apple の本社で働くことの意味や、生徒たちが自らの将来を選択していく上でヒントとなる大切なメッセージを伝えてくださいました。

その後 Google 社に移動し、３人目の女性 Nagasawa Rumi さんにお会いしました。Google 社の広大な施設内を歩きながら丁寧にご説明いただいた後、Rumi さんを囲んで Q&A 形式の時間を持ちました。生徒たちから途切れることなく次々と様々な質問が出されましたが、全てに丁寧に、かつ笑顔で自信溢れるお答えを返してくださいました。別れ際には「私がアメリカで働き学んだこと、それは誰かに質問することはフリーであるということ。なので帰国後も何か私に聞きたいことがある場合は、いつでも連絡ください！」と、笑顔で心強いメッセージを生徒たちにプレゼントしてくださいました。

１日にシリコンバレーで活躍されている女性３人からお話をお聞きできる機会は、まず普通では考えられません。

日程：8 月 9 日
内容：スタンフォード大学 d スクール（デザイン思考発祥）見学
　　スカベンジャーハント

スタンフォード大学のキャンパス内で、Via 代表の石田さんが様々な研修プログラムを実践してくださいました。スタンフォード大学は全米１美しいと言われているキャンパスで、敷地面積は 3.3km2(100 万坪)と世界で２番目の広さです。実際訪れてみるとその広大さは想像以上でした。貴重だったのは、福岡雙葉高校の SGH プログラムで取り入れられている「デザイン思考」発祥の場、d school を見学させていただけたことです。→ https://dschool.stanford.edu/about

午後の部はアクティビティの時間、まずは研修前半の ESI プログラムでも行ったスカベンジャーハントのスタンフォード大学バージョン。２人組になり、石田さん曰く、昨年度の研修の時よりも多くなったタスクに取り組みました！その後キャンパス内の芝生に座り、

各自の体験報告と共有の時間をとりました。次に小さなペーパークリップを 1 つだけ渡され、20 分間でキャンパス内において誰かと交渉・交換し、それぞれ最終的にどのような価値にまで引き上げられたかを競うアクティビティを行いました。

終了後交換した回数とクリップが何に変化したかを発表、優勝チームは何色か備わったジェットストリームのボールペンを獲得できていました。２つのアクティビティにおいて、それぞれ成果を上げたチームのメンバーには、Via のオリジナルトートバックが、記念品として石田さんよりプレゼントされました。

そしていよいよ最後のプログラム、スタンフォード大学のお部屋をお借りし、全体の研修プログラムを終える上でのまとめを石田さんにしていただきました。また、Via の職員であるパトリックさんより研修終了後の展望についてお話しいただいた後、現時点での気付きを各自ウェブ上でスマートフォンから入力し、無事全ての研修を終えることができました。

研修後レポート

高２　香山礼美

　今回の研修で一番印象に残っているのは、障がい者支援施設を訪問したことです。地下鉄の駅の上に施設があり、駅のエレベータで施設のエントランスに着きます。そのエレベータ内には足で押すスイッチ、施設内のトイレには手をかざすと自動で出てくる紙の機械があるなどの工夫があり、皆が生活しやすい町づくりがなされていると感じました。

福祉について、昨年、デザイン思考の授業で学びました。その際は、当事者の方に話を聞く機会がなく、空想上で物事を考えるしかなく残念に思っていました。今回、施設職員のロビンさんが「障がい者のことは障がい者が関わるべきだ。」というお話を伺って、心にグッとくる衝撃がありました。今まで当事者の方に話を聞いてもいいのか、どこまで踏み入っていいのかわからず、話を聞く機会を怖がっていた面が私の中にあることに気付きました。

サンフランシスコを歩いてみると、障がい者を町で多く見かける機会があり、施設も町にとけこんでいます。人々のかかわり方が日本より自然だと感じました。きっと障がい者が孤立することなく、カフェやレストランで会って情報交換やアイデアを出しあったり、互いに助け合うというこが日常的に行われているのだと思います。訪れた数日だけでも、私はまだまだ学びたいと感じました。

　今回、デザイン思考を深める目的でアジア圏の大人や学生と会える機会も得ました。

文化や価値観の違う人たちと意見を交わすことは、新たな発見が多くありました。

サンフランシスコにいるホームレスの多くは、戸籍がないから働くことが出来ないそうで

す。ですが、だからといって、皆が働きたいと思っているかというと、それは様々。町を形成している境遇も気持ちも違う皆に意見を聞いて、全員が楽しい環境を作ることは難しい問題です。ホームレスの話から、それぞれの国で見かけるホームレスがどのような所を住まいとしているかという話題になり、違いの理由を互いに話していると気候や生活感の違いなど、奥深いことが垣間見えることが多くありました。
最後に、この研修で五つのリーダーシップについて学びました。わたしは Encourage the heart「みんなで成功を分かち合い、感謝を伝えること」を一番実感しました。今回の研修のプログラムはどれも一人で成し遂げるのではなく、グループで活動するものでした。多くの失敗も含めて、出会い、経験から学んだことは貴重なことばかりでした。皆さんに心から感謝しています。

高２　山下希亜

サンフランシスコ研修に初めて参加して多くのことを感じました。この研修に参加すると決まった時は本当に楽しみで仕方なかったですが、それと共に英語はあんまり喋れないのに大丈夫なのか、知らない土地でやっていけるのかなどたくさんの不安がありました。しかし、友達や後輩の姿を見て自分も頑張ろうという気になり仲間の存在の大切さなども改めて感じました。そして、印象に残っていることが３つほどあります。１つ目は「クレイジーなアイデアでも問題を解決するための手段になるかもしれない」ということ。学校の SGH 活動で福岡の問題について解決方法を考えてみてもなかなか案が出なかったり、考えすぎて実際にできるのか、などを考えすぎてしまったりして納得できる解決法が出てきませんでした。しかしアメリカや中国、韓国、ミャンマーなどの他国の人とたくさん関わることによって他国の人がどのような視点で物事を考えているのかというのを実際に知ることができました。学校や様々な機会で考える場があればたくさんのアイデアをみんなで考えていきたいと思います。そして２つ目は「自分が一番辛い時の経験が、一番強みを発揮できる」ということ。これは息子が自閉症の久保さんが仰っていた言葉です。よく考えてみると確かにそうだなとも思いました。自分が 1 番辛い時期を乗り越えたということはそのことに対して自分は強くなっているのだということが分かりました。近い未来も遠い未来も、これからたくさんの壁を越えようとする日がたくさんあります。しかし、それを越えれば強みになるのだと思い一生懸命過ごしていきます。最後は「アクティブに」ということ。これは今回の研修全体を通して常に感じていました。アメリカ市内やスタンフォード大学でのアクティビティの時、いろんな会社の方のお話を伺った時、大きくいうとアメリカにいる時、常に「アクティブに」という姿勢がどれほど大事で相手に求められているのかというのを確認することができました。日本だからといって発言をする場所が減るわけではないので心にとめて日々生活していきます。

今回のサンフランシスコ研修を通して得たたくさんのことを少しずつ整理しながら、未来のことも考えていこうと思います。本当に楽しい 7 日間で終わってほしくないなと思って

いました。そう思えたのも高1、高2、大庭先生、いさや先生。このメンバーだったからだと思います。本当にありがとうございました。そして、石田さん。私たちの楽しい研修プランをつくって頂き、感謝しかないです。本当にありがとうございました。

高２　齋藤真子

私はサンフランシスコ研修を通してたくさんのことを学び、感じました。

まず、「積極的に発言する大切さ」を学びました。Via のプログラムに参加していた外国人と初めて交流したとき、手を挙げずに聞きたいことや言いたいことをなんでも発言する外国人の姿を見て、とても驚きました。外国人と共にディスカッションをしたときに、私が意見を述べると、そのことについてたくさんの質問をされました。思いがけない質問にすごく緊張してしまい、何とか答えたものの、本当に相手に通じたか不安でした。その日のプログラム終了後、同じグループでディスカッションした中国人の方と話す機会があり、私は自分の英語力に自信がないことを伝えました。するとその方は、「しっかり内容は伝わったからもっと自信をもって大きな声で話すといいよ」とアドバイスをくれました。そこで私は、質問があったら何でも聞いて、意見ははっきりと述べることが大切だと強く感じました。

次に、「日本とのアメリカの違い」を身をもって感じました。サンフランシスコ市内に滞在したときに、特に感じた日本との違いは治安の違いです。大通りは、にぎわっていて、治安が悪いわけではなかったのですが、少し裏道に入ると、ホームレスが歩道で寝ていたり、お金を求めていたりして、最初はすごく驚いたし、怖かったです。しかし悪い違いだけでなく、良い違いもありました。1つは日本に比べて自由だということです。服装や行動など、日本だったら引かれてしまいそうなことを堂々としていて、それを周りの人も受け入れていました。あと私が一番良いと思ったのは、障がい者の人を多く市内で見かけたことです。日本で見かけないわけではないですが、街中で車いすに乗っている人を私は日本であまり見たことがないです。他にも周囲の人が障がい者に配慮している姿をたくさん見ました。だから日本よりも障がい者が住みやすいことを肌で感じました。他にも現地で活躍されている人からお話を聞いて、自分の考え方を見直すことができたり、Apple や Google の本社、スタンフォード大学に訪問し、自分の目で直接いろんなものを見て、多くのことを吸収することができました。この研修でしか学ぶことができなかったものをたくさん学ぶことができました。本当にこの研修に参加できてよかったです。この1週間で学んだことを忘れずに、これからたくさんの場で生かしていこうと思います。

高２　久間日加里

私は今回このサンフランシスコ研修でたくさんのことを学びました。特に私は自分の意見をはっきりと伝えることの重要性を知りました。2 日目と 3 日目に行った ESI プログラムで自分の知らない、他国の人で、年齢も人種も全く違う方とディスカッションや意見交換をしました。日本であれば、何も言わずに、相手の表情や仕草、性格などで、なにを言いた

いのか少しわかるけど、他国の人は黙っていたらなにも伝わらないなど困るようなことばかりでした。しかし交流をするうちに、自分の伝えたいことを英語が下手でも伝えることが大事だと思いました。英語が完璧な人なんて誰もいないから、間違っても誰も気にしないだろう精神で自分の思ったことを伝えました。すると、それが伝わり、相手の意見を知ることができました。伝わった時の嬉しさがいまでも忘れられません。6日目のスタンフォード大学でのゲームも楽しかったです。頭を使うだけではなく、勇気も必要なゲームでした。私は見た目で人を判断する時があります。しかし、大学には色々な人がいるので、判断をする前にまず話しかけないと、と思い、色々な人に声をかけました。気がつくと、老人や白人、黒人、中国人など色々な方に声を掛けていました。声を掛けられた人は急いでいても優しく対応したり、丁寧に答えてくれたりして、人はやっぱり顔や人種で判断してはならないと深く思いました。また、後輩と行動することでリーダーシップなどを発揮できて、とても貴重な体験でした。学ぶことだけではなく、楽しむことや、勇気を出すこと、色々なことを学びました。サンフランシスコ研修に行き改めて、応募してよかったと感じました。私はこの研修で得たものを日本で活かしたいと強くおもいます。少し苦手なバスの中で席を譲ることも、勇気を出して、周りを気にせずに譲りたいし、失敗を恐れずに自ら発言していくことで、周りの人に失敗することの大切さなどを広げたいです。また、この研修を通して改めて英語を学ぶ面白さや、海外に行くことの楽しさを感じることができて本当に諦めずに応募してよかったと思いました。

高１　内田百音

San Francisco、ここは私に大きな影響を与えてくれた街。San Francisco では１週間というとても短い期間でしたが素晴らしい経験ができ、また私の中で大きな発見ができた研修でした。私が特に感じたことは２つあります。

１つ目は言語についてです。私たちは２日目と３日目に Via という団体が行っているプログラムに参加しました。そこではアジア諸国の方々と交流をしたりアクティビティを行ったりしました。私は中国、香港の方々と主に交流し、彼らの流暢な英語に大きな「衝撃」を受けました。しかし彼らは英語が話せるだけではなかったのです。他にも広東語や日本語など他の国々の言語をたくさん話すことができていました。中国の方々は母国語である中国語と世界共通の言語と言われている英語を話すことができるバイリンガルの方が多く日本との大きな差を感じました。また中国の英語教育はとても進んでいて、むしろ日本は遅れているということをとても実感したとともに英語に対する意識の差を痛感しました。私も将来世界に出て仕事をしたいと強く思っているのでもっと英語力の向上をさせ、英語以外の言語にも関心を持っていきたいと思いました。

２つ目は積極性が重要視されている点です。サンフランシスコに行く前からアメリカでは積極的にコミュニケーションをとったり自分から発言していかないと相手と上手くコミュニケーションをとったり自分の思い通りにはならないことは知っていました。５日目に

Google を訪問し、Google の本社で働かれている長瀬さんの話を聞いて日本とは違ってアメリカでは自分の意見を相手に伝えることがどれだけ大事なのかが改めてわかりました。長瀬さんは以前日本の Google で働かれていてアメリカで働きたいと思っていたため自分でサンフランシスコの本社まで行って席が空いたらアメリカで働かせて欲しいと願い出たそうです。日本では自分から上司に願い出ることは少ないそうですがアメリカではこれがよくあることだそうです。お話を聞いて長瀬さんの行動力と心の強さに驚きました。長瀬さんは自分の意思を相手に伝えることができたのでアメリカで働かれています。私も長瀬さんのように自分の意思をしっかりと持ち積極的に相手に伝えていきたいなと思いました。

私はサンフランシスコ研修に参加できたことにとても感謝しています。この研修に参加したことで上記に書いた以外にも障害のことなど今まで知らなかったことが書ききれないほどたくさん知ることができました。また実際に現地に行って肌で感じたことでより深く知ることができました。この研修で学んだことを無駄にせずこれからの高校生活や将来に生かしていきたいと思います。

高 1　新木彩可

今回のサンフランシスコ研修を通してたくさんのことを学ぶことができました。それと同時になかなか経験できない貴重な経験を体験できたと思います。まず一番大切だと気付かされたのは積極的に自ら発言することです。最初の ESI と合同でしたアクティビティで質問をみんなに投げかけられたにも関わらず私は自分の意見を発言することができませんでした。2 日間共にアクティビティをした中で私は一度も発言できず、発言するかを迷い、最終的に何もできなかったことに後悔していました。しかし、他の参加者ははっきり自分の意見を堂々とおしゃっていました。自分に足りないのは自信と勇気だと気がつきました。何も発言できていないことに焦った私は CIL で質問することにしました。CIL の方は私が問いかけた質問に対して熱心に答えてくださりました。一歩勇気を振り絞って発言すると次々と何も考えずに発言できるようになりました。これからも堂々と自分の意見を発言し続けたいと思います。次に Google や Apple などの世界で大活躍している会社で働いている日本人の女性社員のお話を拝聴する中で気づかされたことがありました。それは自分から行動しなければ何も変わらないということです。お話を聞く中で、Yoko さんも Rumi さんもどちらとも共通して言われていたことがありました。それは本社に配属されるのに自分から進んで行動したということです。お二方はどちらとも元々は日本の方で働かれていたそうですが、自分からマネージャーや直接本社に行き、本社への移動を希望し、ただ結果を待つのではなく積極的にアプローチされたそうです。何事も自分が積極的に行動することが大切だということに気付かされました。1 週間という短い中、自分自身を高めることができたと思いますし、本当に一皮剥けたように変わることができたと思います。これからも今回の研修で学んだことを生かしつつ学校生活の中でも積極的に物事に取り組みたいと思います。自ら積極的に発言・行動することを忘れずに将来は自分自身が輝ける女性になります。

高１　井上オードリー愛

今回のサンフランシスコ研修で学んだことはたくさんありますが、主に二つの事が私の心に残りました。

一つ目は、ESI で学んだ共感することの大切さ「Importance of Empathy」についてです。最初のサンフランシスコで生活するシミュレーションゲームを通して、サンフランシスコの経済の状態やホームレスの実態を知りました。ゲームを通して知るということもあって、分かりやすかったし、体験ができてとても興味深かったです。私はきちんとシェアハウスを買うことができ、給料も十分にもらえ、三食購入することができましたが、ある人はお金も家もなかったです。これはサンフランシスコの貧富の差を表しているのだなと思いました。また、ホームレスになってしまった理由の多くは失業だということも学べました。ホームレスになると住所がないから働きたくても働けないという現状があるとも知りました。ホームレスの問題について知り、解決方法を見つけ出すにはまずホームレスになってしまった人々の気持ちを考えたり、実際に質問したりして共感することが大切です。だから私は、共感する事への最初のステップとして友達や家族の悩みの相談に乗ったり、悲しんでいる人を慰める時にきちんとその人の気持ちを理解して共感して困っている人を助けようと思います。

二つ目は積極的に発言することについてです。ESI だけでなく、Apple の Yoko さんや Google の Rumi さんのお話の中などでもたくさん発言する場がありました。ESI の初日はなかなか手を挙げるのが難しく他の人に任せっきりになってしまいましたが、2 日目で勇気を出して発言すると自分の伝えたいことを周りの人に明確に伝えることができ達成感を味わいました。このことから徐々に発言することに対して抵抗を感じなくなりました。最終日の振り返りの時にはすっと手を挙げて発表することができました。雙葉での GCS や SGH の活動でもこの積極性を忘れずに発言したいです。手を挙げて自分の意見を言うことによって他の人に意思表示ができるのと同時に、自分以降に発表する人に自信がつくと思います。そして、疑問に思ったことはみんなと共有できるように質問しようと思います。

1 週間という短い間でしたが、日本にいるだけでは経験できないことがたくさんあり色々なことについて学べました。サンフランシスコという多様性のある環境で沢山の新しい友達も作ることができ、日本国内以外の社会問題にも触れられて、いい勉強になり最高の思い出となりました。この研修で学んだことを忘れずにこれからの生活に活かしていきたいです。

高１　明治春花

私が今回の研修で学んだ事・・・それは失敗を恐れず、積極的にチャレンジする事の大切さです。

この研修に参加する前、過去に参加した先輩からお話を聞いた時、どんどん発言したり質問することが大事だと言われ、英語の飛び交う場でそれができるか心配でした。初日のオリ

エンテーションでデザイン思考において、意見は質より量だと聞いて、私が今まで意識していた「正しい答えを言う事」、ではなくとにかく積極的に発言する事が大切だと思いました。そして ESI プログラムに参加した時、何か意見を言う時に他の国の人達は、誰かが言い出すのを待たずにどんどん積極的に自分の意見を言っていて驚きました。今まで誰かが言い出すのを待っていたのは、いつも「心の中で失敗したらどうしよう」、という気持ちがあったからだと思います。しかし、ESI プログラムでのグループディスカッションの時に勇気をだして自分の意見を言ってみると、メンバーの人たちが熱心に聞いてくれ沢山意見を伝えることができました。とても良い経験となったので、これからの活動でも積極的な姿勢を続けていきたいです。

また、障害者の家族を持つ久保さんからのお話を聞いて、今まで気がつかなかった障害者の方々の日常生活での課題を知ることができました。今回この話を通してもっと身の周りに注意していこうと思いました。私はいつもこうだったらいいのに、と願望として望むだけですが、久保さんはこの障害者の環境を変えようと自ら行動を起こしました。何か行動を起こさないと状況は良くならないので、私も何か自分のできる小さな事からでも行動していきたいです。Apple 本社と Google オフィス見学では日本では見られない新しい
働き方を沢山見つける事ができました。Apple では社内に大きな木があったりアーティストがライブに来たり社員の働きやすさを重視したオフィスでした。Google オフィスではジムやプールなどもあって Apple と同じく、働きやすさを重視しているだけでなく社員主体となって会社を引っ張っている雰囲気がありました。遊び心あふれるオフィスが Google のクリエイティブな発想に結びついていると思いました。

今回の研修では、他の国の人たちとの交流や大企業のオフィスの見学など、沢山の貴重な経験ができました。これらの活動で積極的に発言、行動する事や自分とは違う意見にただ反対するだけでなく、何が自分の意見と違うのか考え、認め合う柔軟性が大事だという事を学びました。

この研修で学んだ積極性と柔軟性を忘れずにリーダーシップを発揮して、意見をまとめられる人になれる様、努力していきたいと思います。

高１　秋吉遥香

私が 1 週間のサンフランシスコ研修で受けた衝撃はいくつもありました。しかしその中でも際立っていた体験が２つあります。

１つ目はサンフランシスコ市内で行ったスカベンジャーハントです。グループは私以中華系の方達でした。まず驚いたのは全員の英語が流暢だったことです。VIA の他のプログラムに参加していた人達にも共通して言えることですが、とにかくレベルが高い。同じアジア圏でも、ここまで差がでるのかと驚愕しました。しかし本番はここからです。市内を巡っている時に、グループの人から訊かれました。「今の日本の一番の社会問題は何？」答えられませんでした。日頃から新聞等は気を付けて読んでいたつもりでしたが、とっさに何も出て

きませんでした。そして同時に、これが諸外国と日本とで若者の政治への意識の違いだと気付きました。グループの人達はお互いに自国の問題について教えあい、地元の人達とちょっとした議論までしていました。きっと彼らは政治に対しての主権者意識を持っているのでしょう。しかし日本では少なくとも観光中に政治についての会話が若者同士で、という光景をまず見たことがありません。どこか政治系の話をタブー視するような風潮すら感じます。グローバル化が散々叫ばれているご時世ですが、本当のグローバルシティズンになるには、まず自国をよく知ること。これが第一歩なのかもしれないと日本を出てから気付きました。

２つ目は「積極性」です。研修中に自ら動いて今の生活を築いた方々に何人もお会いしましたが、Google の Rumi さんは特に心を動かされました。本社の人に直接掛け合って、わざわざ手に入れたポジションを手放す、ということはなかなかできるものではありません。きっと私なら日本での生活に満足して海外に出ないでしょう。しかしチャンスすら作り、念願の夢を叶えた方の言葉はとにかく説得力がありました。何よりいきいきと話していらっしゃった Rumi さんの表情が、挑戦してよかったと物語っているように感じられました。

今回、日本を離れて、なかなか出来ない体験を沢山させて頂きました。そして足りなかったものや、新たに挑戦したいことが明確になりました。得られたものを、2 学期からの生活で確実に活かせるよう、まず感想文で取り上げた 2 つのことから始めることにします。

高 1　徳永麻那

私は、今回サンフランシスコ研修に参加して、たくさんのことに気づくことができました。

まず 1 つ目は、自分の積極性の低さです。初めに、ESI プログラムという、アジアの人達と一緒に、スカベンジャーハントやデザイン思考について活動する機会がありました。そのときに、周りの人達は、何か意見を求められた時にすぐに積極的に発言しているのに対して、私は色々考えてしまって思うように発言できませんでした。また、このプログラムで、アジアの人達の英語力の高さに驚きました。皆母国語が英語ではない人達ばかりなのに、流暢に英語を話している様子を見て、私もこのままではいけないと気づきました。そして、周りの人達は皆親切で、私が片言の英語で話していると、しっかり耳を傾けて理解してくれました。ESI プログラムが終わったあと、これからは積極的に発言していこうと思い、その後の研修では質問など積極的に言うことができたことは、自分の成長に繋がったと思います。

次に 2 つ目は、日本とシリコンバレーのオフィスの違いです。今回の研修では、Apple と Google という 2 つの大企業を訪問することができました。2 つとも大きなキャンパスで、どちらも職員の方の働きやすさを重視していることがわかりました。日本のオフィスは、決まった席があり、勤務時間があり、終わったら帰るというのが決まっていますが、アメリカのオフィス、特に Google は、席も自由で、好きな時間に来て好きな時間に帰ることができ、ジムやプール、レストランがある、という違いを知りました。今、日本でも働き方改革など、働き方の見直しが進んできているので、これからはこのように、オフィスも変わっていくのだろうと知ることができ、とても貴重な経験となりました。また、それぞれのオフィスで働

く 2 人の日本人の方にお話を聞いて、ここでも積極性が大切なのだと知りました。AI の技術が進んで、仕事がどんどん減っていくと言われているこれからの社会では、やはり積極的に行動できる人材が必要になってくると思うので、日々訓練していこうと思います。

私は、このたった 1 週間の研修で、数えきれない大切なことを学ぶことができました。日本でも、積極的に発言したり、将来の働き方に興味を持ったりして、努力していきたい。

鎌倉研修

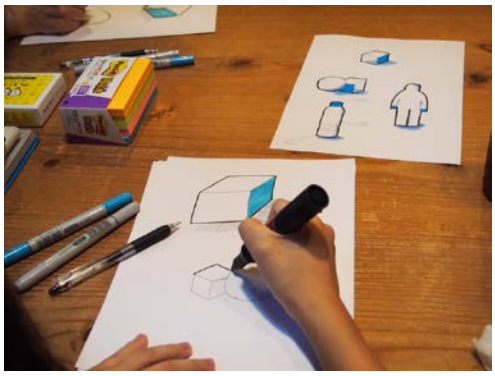
参加者 GC コース（高１　６名、高２　４名）引率２名

協力機関　ファブラボ鎌倉　慶應義塾大学湘南藤沢キャンパス

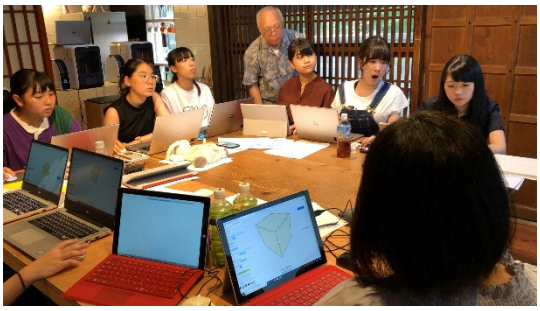
日程	内容	詳細
8/20	出発 ファブラボ鎌倉研修	8:15　福岡出発　→　JAL304　→　羽田 ファブラボ鎌倉にて 12:30-13:00 イントロダクション 13:00-13:30 プロトタイピング基礎１：アイデアスケッチ 13:30-14:00 プロトタイピング基礎２：3/2D デザイン 14:00-14:30 プロトタイピング基礎３：プログラミング 14:30-15:00 ドキュメンテーション　：Fabble 15:00-17:30 アイデア深堀　役割分担/プロトタイピング 17:30-18:00 中間発表
8/21	ファブラボ鎌倉研修	デザイン思考 / ファブ３D コンテスト作品作り 9:00-12:00　グループごとにアイデア出し アイデアをまとめる 作業の準備 13:00-17:00　制作 ドキュメンテーション 発表に向けた準備 17:00-18:00　プレゼンテーション 5 分 x 3 チーム ＝ 15 分 質疑応答 / アンケート
8/22	慶應義塾大学訪問	卒業生との面会/fab 施設見学 18:10　羽田出発　→　JAL329　→　福岡

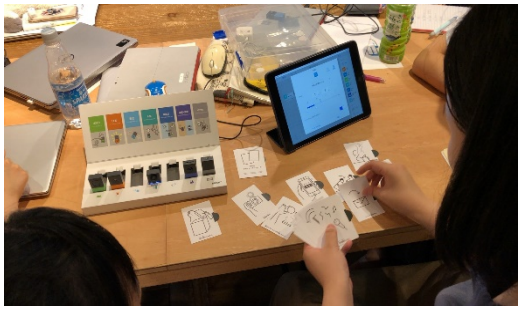
ファブラボ鎌倉での活動

SGH 鎌倉研修 2019 がスタートしました！今年も 10 名の生徒がファブラボ鎌倉にお邪魔しています。まずはアイデア出しのトレーニングとアイデアスケッチの練習です。



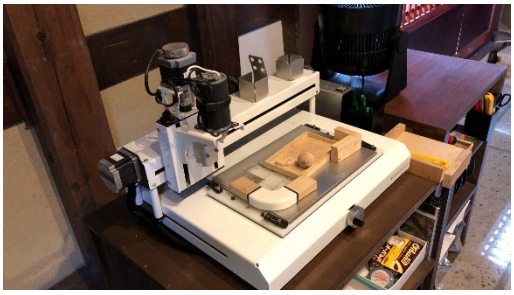
鎌倉研修 2019　3 つのチームごとの活動の様子。TINKER CAD を使って 3 D モデリングをやってみたり、Inkscape で平面図形を作成しレーザーカッター用のデータを作ってみています。それから昨年と同じように MESH を使ったプログラミング。





福岡市のゴミの分別問題、タピオカ流行の弊害について、福岡の郊外や商店街についてなど、FAB のあるまちづくりについてチームごとに考えてきました。紆余曲折しながら、イメージをとにかくスケッチして形にしていきます。紙粘土や画用紙を使ってプロトタイプを作ってみたものを共有して 1 日目は終了です。

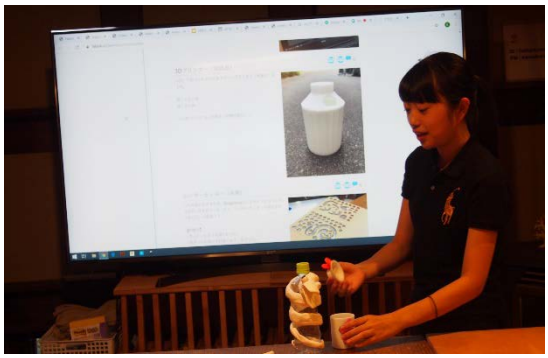
２日目は朝から大忙し！昨日の夜中までかかって考えたデータを、試行錯誤しながらマシンで作ってみます。これがなかなかうまくいかず・・・失敗の連続ですが、お昼までに全てのチームが１st サイクルのプロトタイプを終えて中間発表にこじつけないといけません。根気強さと役割分担が非常に大切になってきます。自分で作ったデータがこの世に形作られる瞬間は感動です。



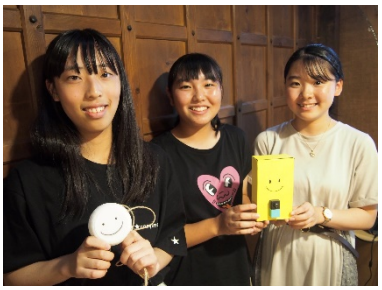
何とか午前中に１回目のプロトタイプを仕上げていきます。同時に Fabble にドキュメンテーションをまとめていかないといけないのが大変な様子。

Fabble を見ながら中間発表。ドキュメンテーションは、初めて見る人でもわかりやすく、興味を持ってもらえるようにまとめることが大切です。国語力も論理立てて組み立てる力も試される・・・！お昼を食べたらちょうど３Ｄプリンターの出力が終わっていたので、丁寧に取り出して再び２回目のプロトタイプに。残り限られた時間内でどこまでまとめ、制作できるでしょうか。

ＦＡＢ合宿の最後にグループごとにプレゼンテーションを行いました。思いをかたちにする中で経験した苦労や工夫した点、今後の改善点や失敗なども自分たちの言葉で共有します。制作と同時進行で作成していた Fabble というドキュメンテーションを最大限に活躍！！写真や動画もアップロードして説得力を加えていました。
福岡で行ってきたアイデア発想をさらに進化させ、瞬発力と持久力のどちらも試させていただくことができました。デジタル機器を自由に使わせていただけることは学校内ではなかなかできない経験でしたね。



２日目が終了して、最後に記念撮影^^チーム
ごとに２日間でつくったものも一緒に写真をとりました！わずかな期間で確実に大きな成長を遂げた彼女たちですが、ここから作品が進化し、生徒たちがぐんぐん成長していく過程が楽しめるのも、鎌倉研修の大きなポイントです！３チームそれぞれが、ＦＡＢ３Ｄコンテストへの応募を目指して福岡に戻ってからもブラッシュアップしていきます。福岡では、学校でもリサーチと Fablab 太宰府さんの協力を頂いて活動します。



慶應義塾大学湘南藤沢キャンパス

○SGH 先輩へのインタビュー

現 SFC 2 年生の牛島先輩と梅村先輩がキャンパスを丁寧に案内してくれている様子です。お昼を学食でともにし、カフェテリアで高校生のインタビューに答えてくれました。スーパーグローバルハイスクールの生徒として特別な活動を行うことの意義を大学に入ってから実感したお話や、今取り組んでいること、高校生のうちに頑張っておくといいことなど進路に悩む生徒たちも勇気づけられたようでした。
こうした先輩方とのつながりも福岡雙葉ではとても大切にしています。

○ファブ施設など見学

SFC の立派なメディアセンター（図書館）もじっくり案内していただきます。メディアセンターに入ってすぐが FAB ブースになっており、学生たちはここで自由に 3D プリンターやレーザーカッターなどの機械を使用できます。今回もセンターの方々が熱心に機材のことや設備のことなどを紹介してくださり、プロレベルの様々な設備にためいきと歓声が止まらない生徒たちでした。昨日まで格闘していた 3D プリンターの大きいサイズが出力できるものや、UV プリンターなどが人気でした。もちろん書籍も充実しており、慶応大学の他キャンパスからの取り寄せやデジタルデータも豊富です。PC を持ち込んで学習したりプレゼンの練習ができるスペースも魅力的。

FAB3D コンテスト 2019

主催　慶應義塾大学 SFC 研究所ファブ地球社会コンソーシアム

優秀賞　チーム部門賞受賞

授賞式

慶應義塾大学 SFC Open Research Forum

11 月 23 日　東京ミッドタウンにて

サイエンスキャッスル 2019

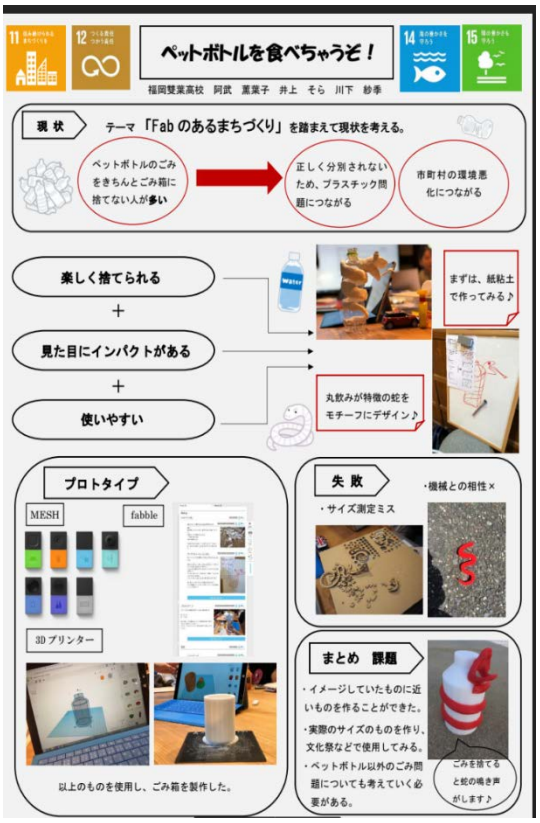
12 月 8 日　熊本第 2 高校にて　ポスター発表

ポスターテーマ

・にこベル

・プラスチックのおうち

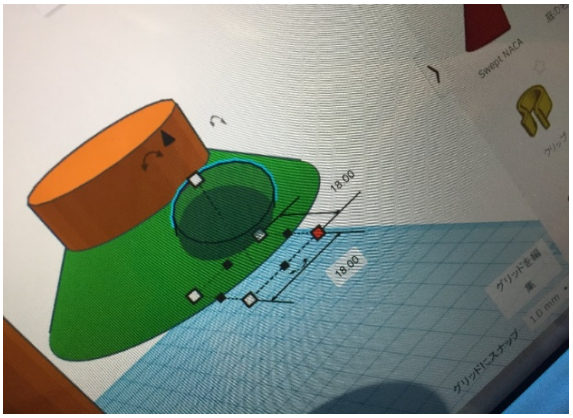
・ペットボトルを食べちゃうぞ！



研修後レポート

高２　阿武薫葉子　「苦手なことの克服」

私はこの鎌倉研修に参加したことで成長したことがあります。



１つ目は、アイデア出しです。これは、私が特に苦手なことです。約 42 人の生徒が在籍している私のクラスでは、アイデアを出すことが得意な友達が多く、毎回毎回他人に甘えてアイデアを出すことを怠っていました。そのせいか、いざアイデアを出さなくてはならない場面になったとしても、自分の考えを自分自身でさえ分からなくなってしまい、いつのまにか苦手になってしまいました。今回の鎌倉研修では、私が高２であること、そしてリーダーであることから「後輩に甘えてばかりではいられない」と思い、率先してアイデア出しを行いました。３人いれば、三者三様の意見があり、始めはなかなかまとめることができなかったため、自分の苦手意識がさらに高まった気がしました。

しかし、３人とも根気強さは並大抵のものではなく、アイデア出しを粘り続けることでようやく納得のいくアイデアを出すことができました。出発前から一番の不安要素だったものがなくなった瞬間から、楽しく作業を始めることができてよかったです。

２つ目は、本格的なものづくりです。

私が、この研修に参加したいと思った一番の理由は、今までアイデアを出すだけで終わっていたものづくりを、実際に作るという段階まで達成したいと思ったからです。しかし、実際に始めてみると私が苦手としている数字がたくさん出てきたため、はじめは作業にとても時間がかかりました。底辺、高さ、奥行きなど、きちんと数値を定めてから出力しなければいけない場面が多くとても大変でした。しかし、そんな中でも、自分がデザインし、想像していたものと全く同じものが３D プリンターで完成したときはとても嬉しかったことを覚えています。３D プリンターや、レーザーカッターを使った作業は、もちろん成功ばかりではありませんでした。素材の厚みや大きさなど思ってもみないことで失敗をしたり、ミスをしたりしました。何度やってもうまくいかないことも多かった気がします。しかし、そこから私は切り替えの大切さ、失敗してもめげない心の持ち方など多くのことを収穫することができました。「失敗は成功のもと」という言葉の意味を改めて感じることができ、大きな成長につながったと思っています。

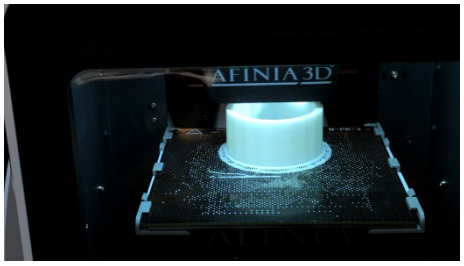
最後に、私は昨年鎌倉研修に応募したものの、校内選考で行くことができませんでした。
しかし、昨年ではなく、今年の高２の時期に行くことができて本当に良かったと感じています。自分がリーダーであること、高２であることによって甘えが許されないことから、自分が持つ精一杯の力を発揮することができました。ものづくりだけではなく、メンバーと協力することの大切さや、作業の効率の上げ方など、数え切れないほどたくさんの学びがあった３日間でした。一緒に行った６人の高１メンバー、３人の高２メンバー、引率の先生方、FabLab Kamakura のスタッフの方々に感謝の気持ちでいっぱいです。このような素晴らしい研修に参加することができて本当に良かったです。

高２　才川舞子
～はじめに～
「Fab のあるまちづくり」と今回のコンテストのテーマを伝えられた時、「Fab って何?」というところから、私の取り組みは始まりました。普段の生活の中で、「考えたことを実際にカタチにする」ということは難しいことです。SGH の授業の中で、課題の改善策・アイデアを出すところにたどり着いたとしても、あと一押しで形にして、物として残していくことができず、歯がゆい思いをしたことがあります。

そんな貴重な Fab Lab 鎌倉での経験を、「出来るだけ多く、自分の学び・経験として吸収して帰ろう」ということを目標にして、この研修に臨みました。お互いのことを知らない高校１年生２人とうまく打ち解けられるかが本当に心配でした。
＜Fab Lab 鎌倉での学び＞
○アイデアの出し方、広げ方
私たちのグループは、最初、緊張や不安でなかなか自分たちなりのアイデアを出していくことができず、苦しい思いをしました。そんな時に現地スタッフの海さんが、「質の高いアイデアよりもとにかく多くのアイデアを出してごらん。そうすればその中の一個から、何か広がるかもしれないよ。」と言ってくださいました。そこで、私たち ３ 人は、固く考えず、ユーモアのあるアイデアをできるだけ多く書き出していくことにしました。すると、メンバーのうちの一人から出たアイデアから、考えが広がり、次々と自分たちの目標を少しずつ明確にしていくことができました。決められた時間の中で、素早く作業をしていくと、どうしても焦りが生じてしまい、一つの視点だけに捉われがちです。しかし、物事を考えていく過程の中で、サービスをする側、受ける側で、少しでも違った面、角度から見ていくことで、

新しいものが見えてくることを学びました。また、Fab Lab 鎌倉での集中力は本当に凄いものでした。ゆうかさんの、あの不思議な、私たちの頭から様々な引き出しを開けていくような語りかけで、どんどん引き込まれていきました。相手の考えを引き出せるということは、アイデアを思いつく人よりも、考え、準備しているということだと感じました。頭の中の、隅から隅まで全てをフルに使いきった充実した２日間となりました。

〇最先端の技術に触れて　～３Ｄプリンター・レーザーカッター～



私たちは、「Fab のあるまちづくり」というテーマのもと、考えを深めていきました。しかし私は、３Ｄプリンターなどをはじめとする、最先端の機械を使ったことがなく、手先が器用だということもないので、とても不安ななか、2 日目の作業に取り掛かり始めました。その中でも、３Ｄモデリングをしていく作業に苦労しました。自分で「よし。完璧だ。」と思い、スタッフさんに自信満々に見せてみましたが、「これじゃあ、、、。」と、自分では気付くことのできなかった課題がたくさん見えてきて、何度も何度もやり直しました。諦めずに、少しずつ調整していくことは、中途半端なゴールのなかでは不可能なことだったと思います。今回のように、テーマに向かって、チーム一丸となって自分に与えられた役割を果たそうと努力することが、そのような姿勢につながるのだと学びました。

〇慶応義塾大学での交流から

普段のオープンスクールではできない、現役の大学生の先輩方のお話をきくことができて改めて自分の進路を見つめ直す機会になりました。実際の大学生活はもちろん、高校２年生のうちにやっておいてよかったこと、やっておけばよかったと後悔したこと、などまだまだ受験へのスイッチが入らない私にとって良い刺激になりました。志望校を決めていくうえで、どうしても大学の雰囲気で選んでしまいがちですが、現在そこで学んでいる学生の声も積極的に参考にして取り入れていくことも大切にしていきたいと思いました。梅村先輩も牛島先輩も、「今が本当に充実している」と話されていて、二年後に自分もそんな風に思えるような大学生活を送れていたらいいなとおもいました。本番ももちろん大事ですが、志を立てて、毎日それに向かって少しずつ準備していくことが今の私に求められていると感じました。残り半分の高校生活もだいじにしつつ、自分の夢に向けて日々レベルアップしていけるように勉強も部活も日常生活も様々な活動も、全てに力を入れていきたいと決意した一日になりました。

～終わりに～

この３日間で自分自身、「成長したな」と感じる部分がたくさんあります。高校２年生と

して、同じグループの後輩を前向きに引っ張っていかなければならないというプレッシャーもありました。しかし、お互いに足りない部分を補いあいながら自分たちのアイデアが形となっていく過程を見て誰かの夢や願いを形にしているようで楽しかったです。世に求められていることを物として考えていくと「生きている」と実感しました。あまり得意ではないと思っていたモデリングにも積極的にチャレンジしていくことで、自分に自信がつきました。もっと前向きに自分の将来と向き合っていきたいし、自分が本当にしたいことは何かを見つけていけるようにしたいです。この研修に快く送り出してくれた家族、引率してくださり、常に応援してくださった先生やスタッフの皆さん、この研修にご縁があって一緒に行くことができたメンバーのみんなに感謝の気持ちでいっぱいです。この学びを無駄にしないように、日々成長していく姿を見せることができるよう、努力することをここに誓います。

高２　山嵜一花

この鎌倉研修で私はたくさんの学びを得ることができました。一番大きな学びは失敗することの大切さです。今までやってこなかった自分たちのアイデアを形にすることはやはり難しく、何度も失敗をして何度もデザインを考え直しました。明け方まで瀧本さんと話し合って大変だったけどたくさん失敗してたくさん考え直したからこそいいアイデアが生まれたし、もし失敗を避け続けていたら中途半端なまま終わっていたとので何かを成し遂げるための失敗はとてもいいことなのだと気づかされました。失敗は成功の基という言葉もあるように失敗が大切ということは以前から知っていたけど実感したのは今回が初めてでした。失敗をすることは勇気がいることだけど、これからはためになる失敗をたくさんして成長したいです。そして、空が明るくなるまでずっと話し合っていたのは一番の思い出になりました☺

↑TeamKが焦点を当てた課題

↑Tinkercadを使ってデザイン中

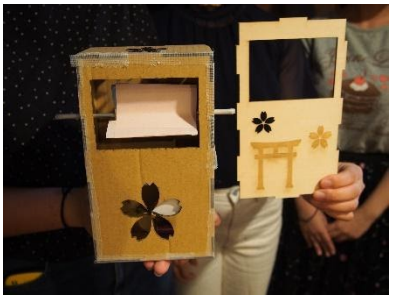
また、３Ｄプリンターやレーザーカッターなどの最新技術の使い方やデザイン、設計の仕方も学びました。もちろん今まで使ったことはなかったし、正直あまり興味もなく難しくて苦戦したけど自分の思った通りにデザインできた時は本当に嬉しくて楽しかったです。デザインを考え、作ることに興味がわきました。

↑一番最初に作った課題だらけのプロトタイプ

普段のSGH活動では人数が多くて自分が考えていたことを先にほかの人に言われてしまったり、意見がどんどん出てくる人のペースで進んでいたけど、鎌倉研修は少人数で自分の意見が言いやすく、意見が反映されやすかったので自信や成長につながったのではないかと感じます。

そしてデザインや設計をして知らない人に伝えるためには国語力、文章力、計算力が必要だということにも気づきました。私はFabbleやTinkercadを使って作業をしているときに寸法を計算することや、誰にでも伝わるような文章を考えるのに苦戦したのでこれからこのような力を更に伸ばしたいです。

慶応 SFC に行って先輩方に質問したり話を聞いたりするのもとてもいい経験になりました。普通に大学のオープンキャンパスに行っても、ここまで詳しく大学や入試についての話を聞くことができないと思うのでとても貴重な時間になりました。話を聞いて驚いたことは先輩方の行動力です。やりたいことを見つけ、実現するために一人でインタビューに行ったりネットでたくさん調べたということを聞いて自分もこのままではだめだなと感じました。私もたくさん情報を集めて大学、将来決定のために自分が本当にやりたいことを見つけたいです。まずはSGH活動などで使った資料を高3になって困らないようにファイリングをすることから始めたいです。



鎌倉研修に行くことが決まって最初は不安で心配だったけど今では本当に行ってよかったと思っています。都留先生が勧めてくださってなかったら申し込んでなかったと思うので都留先生には本当に感謝しています。ありがとうございました！日ごろから母に「何でもやってみないと分からないから何でもチャレンジしなさい。」と言われていて本当にその通りだなと思える研修でした。思い切ってチャレンジすることで苦労することもあったけど新たな発見や学びを得ました。そして、私はいろいろな人に支えられているのだなと実感することができました。支えてくれているすべての人に感謝し、その支えが無駄にならないようにこれからも頑張りたいです。

特に鎌倉研修に参加した十二人、FabLab鎌倉でサポートしてくださったゆうかさん、海さん、山本さんがいたから充実した三日間が過ごせたのでとても感謝しています。

この研修での貴重な学びを生かしてFabLab太宰府や学校で改良を続け、納得のいくようなプロトタイプを完成させたいです

高２　瀧本華蓮

FABLAB 鎌倉での学びはアイデア出しやソフトウェアの使い方の練習から始まりました。ゲーム感覚で楽しいアイデア出しのアクティビティの中には、短時間でアイデアを生み出すブレインストーミングの要素が含まれており、このアクティビティを通して、私は今まで頭の中でよく考えて答えを出す思考法を当たり前のように使っていたということに気づかされました。このときに私が新たに得た思考法は、小さなことでも付箋に書いたり口に出したりすることで自分の考えを明確に、そして広い視野でみることができるようになるものでした。この考え方は今までに学校で学んでいたことでしたが、2 日間その思考法を用いて活動することで、以前より自分のものにできたと感じています。

私たちは約 20 時間、FAB のあるまちづくりをテーマに福岡市がより素晴らしい都市となるためにはどうしたらよいかを考え、私のチームでは事前に調べていた福岡市のごみ問題のデータをもとにプラスチックカップ専用のごみ箱を製作しました。

1 日目のプロトタイプは紙でできたものでした。アイデアを実際に形にする経験が少なかった私たちは、何からどのように始めればよいのか不安や迷いがありましたが、なんとか完成させることができました。しかし、そこにはたくさんの改善点や新たな課題が見つかり、その日の夜はプロトタイプで得た情報は活用しながら、形にはこだわらずに新たなプロトタイプを考えました。1 日目には 3D プリンターなどの機械で作ることができるものの可能性が無限であることも知ったため、新たなプロトタイプでは以前より有効的にソフトウェアを使用することができました。

2 日目は実際に 3 D プリンターやレーザーカッター、MESH を用いた木の板でできたプロトタイプが完成しました。このプロトタイプでは機械を使ったことによるサイズ感やデザインに関する課題が多く見つかり、それらの解決には 1 番苦戦しました。しかしその時間は FABLAB 鎌倉の方々や先生方から多くのことを吸収することができた時間でもありました。私たちが FABLAB 鎌倉の方にごみ箱のふたのデザインをイラストやイメージで伝えたとき、その方は周りにある段ボールなどを用いてあっという間にそのイメージを形にしてくださいました。私たちの頭の中にあったイメージが短時間で目の前に現れたこの出来事は、私にとってとても印象的な出来事でした。そしてそれからはチーム内でも口でイメージを伝え合うのではなく、身近なもので形にして話し合うようになりました。また先生方との会話の中でも、デザインの改良につながるヒントとなる話が沢山あり、情報を共有することでアイデアがどんどん膨らんでいくのを実感できたことがとても楽しかったです。

楽しいと思えることは、時間の過ぎるスピードがとても速く、あっという間に最終プレゼンのときはやってきました。私たちのチームは 3 つ目のプロトタイプの製作中にタイムリミットがやってきてしまったため、2 つ目のプロトタイプを最大限工夫してプレゼンに臨みました。プレゼンはとても緊張しましたが、とても楽しい時間でした。どのチームのプレゼンでも、他チームや先生方からの質問や意見、アイデアが溢れ、自分たちにはない見方を知ることで、視野がどんどん広がっていくのを体感し、何度も鳥肌がたちました。そこで得た

新たなアイデアは無駄にせず、これからの製作で参考にしていきます。

私たちはメンバー10 人が選抜された日から、先生方にはたくさん失敗してくるようにというお言葉をいただき、去年参加した友人たちからは鎌倉でアイデアが溢れだすのを体感してくるようにとメッセージをもらいました。実際に、私たちはこの 2 日間でたくさんの質の高い失敗を重ね、それとともに福岡では思いつかなかった素晴らしいアイデアが自分自身から生まれるのを体感しました。改めて、鎌倉での 2 日間は他では経験できない貴重な体験だったと思います。

私はこの研修での経験から、これから心がけていくことを決めました。それは、毎日「やってみよう」という言葉を使うことです。研修での 2 日間、私たち 10 人はたくさんの壁を乗り越えました。そしていつのまにか「やってみよう」というチャレンジの心を 1 人 1 人が大切にするようになっていました。これからは SGH やデザイン思考の授業にかかわらず、日常生活の中でも「やってみよう」というチャレンジの心を大切にしたいです。

そして、私が何より 1 番印象に残ったのは、私たち 10 人の成長です。いつのまにか全員にやってみようの精神が身につき、行動力は格段に向上しました。また、私たちの集中力は 2 日間途切れることがなく、食事以外休憩をとることはありませんでした。さらに、私が 1 番メンバーの成長を感じたのは発言力の成長です。リーダーや 2 年生が中心となって進んでいた話し合いや発表は、いつのまにか学年関係なくみんなが自分の意見を共有するようになっていました。同時に 10 人の絆は深まり、このメンバーに鎌倉研修で出会い、仲良くなれたことを嬉しく思います。

最後に、今回私たちは FABLAB 鎌倉での学びだけでなく、慶應 SFC などにも訪れ、たくさんの貴重な経験をさせていただきました。FABLAB 鎌倉で私たちをサポートしてくださった方々、慶應 SFC でお世話になった方々、引率をしてくださった先生方、研修への参加を許可し見守ってくれた家族、温かく送り出してくれた友人、すべての人に感謝したいです。この経験を無駄にしないよう、これから日々の勉学に励んでいきます。素晴らしい経験をさせていただき、本当にありがとうございました。

高 1　川下紗季

私は 2019.8.20~22 の間高校一年生 6 人、二年生 4 人とファブラボ鎌倉で実際の 3D プリンターやレーザーカッターを使用してデザインものづくりについて学んだ。そしてそのうちの一日は慶応の SFC に行って現役の大学生の方々と交流をした。私たちのコンテストのテーマは「ファブのあるまちづくり」ということで、初めはファブの意味すら分からず、ちゃんとものづくりができるかが心配だった。このレポートでは、特に印象に残ったことを三つ書こうと思う。

まず一つ目は、アイデアを出すのが思っていたよりも難しかったことだ。過去の先輩方がアイデアだしにとても苦労していたという話を聞いて、その気になればアイデアなんて出てくるものなんじゃないかと思っていたが、実際どんなものが町に役立つかという事を考

えようとすると、頭に石が詰まったみたいに何も思い浮かばなかった。真っ白な紙を見つめているだけだった。一人で考えているだけでは何も進まないと思って、次にチームの人達との話し合いをした。すると先輩のアイデアに、四種類のごみ箱でそれぞれに顔が書いてある、というものがあった。アイデアは決して完璧なアイデア、という訳ではなかったが、そこから私たちの話し合いが進んでいった。光るといいんじゃないか。音が出るとよい。外で燃えないゴミを捨てる人はいないんじゃないか。燃えるごみのごみ箱は既にたくさんありそうだ。このように、さっきまで悩んでいたのがうそのようにたくさんのアイデアが私たちの中で出てきた。このことから、アイデアというものは決して素晴らしい完璧な物じゃなきゃいけないわけではないのだと分かった。小さなアイデアが積み重なっていくことで、洗練された素晴らしいアイデアが出来上がるのだと実感した。私たちはふだん、学校などでアイデアを出すときも、一生懸命すごいアイデアを考えようとして、結局考えるだけで終わってしまうということがある。しかし、そんな難しいことは考えずに、どんなことでもいいからとりあえず言ってみる、そしてそこからアイデアに肉づけをしていけば、良いものができるのだという事を学んだ。

そして二つ目に印象に残ったことは私が二日目にずっとやっていた Fabble についてだ。わたしは役割を決めるときに、メモ・記録係になった。何かに書いてまとめるのかと思いきやなんとパソコンでの編集作業だった。パソコンで何かを作ることは嫌いではなかったがほとんど経験がなかった。先生からの説明も少しで、やってみよう！という感じだったし、その上サイトがすべて英語だったため、右も左もわからない状態だった。先輩や友達に助けを求めようとしても、皆自分の作業で精いっぱいで他の人のことなど見ている暇がなさそうだった。こうなったら自分で頑張るしかない。過去の受賞作品の記録も参考にしながら、先生にもたくさん質問しながら、ゆっくりだったけどなんとか私たちの「Summer Snake」の記録を完成させた。このことから、パソコンのことが少し好きになったし、自分で考え動くこと、自立することも学んだ。私たちはいつも「これをこうしましょう」といわれてからする、ということがほとんどだ。そこには何かしら答えがあり、自分がすべきことが何かが分かっている。そんなぬくぬくと育った私にとって、一から自分で調べて記録してまとめるという事はとても刺激的な経験になった。きっと大人になったらほとんど毎日こんなことをするのだろうと思った。

そして三つ目は慶応 SFC の湘南藤沢キャンパスで現役の大学生の方々とたくさん交流したことだ。それまで遠い存在だった大学が、急に近い存在になり、二年後は自分も受験生なのだと実感させられた。私は将来建築やデザイン系を志しているので、この大学は私のやりたいことと重なっている部分がたくさんあった。大学は自分が思っていよりもとても自由なところだった。私の頭の中の大学の固定概念がどんどん崩れていった。私はずっと気になっていたことを先輩に質問した。一般入試で入学した人と、推薦で入学した人とで、入学後に何か違いはあるのか。すると意外な答えが返ってきた。一般出来た人は入学が目的のため入学後はかなり遊んでいる人が多く、推薦や AO で入った人の方が、その大学でやりたい

ことなどがしっかりと定まっているそうだ（もちろん個人差はある）。今までは推薦や AO 入試に対して一般よりも簡単というイメージがなかったが、自分が今までやってきたことが評価されるというある意味難しい、そして魅力的な試験だと感じた。自分の行きたい大学を決めるときは、実際にいろんな大学に行って、話を聞いてみることが大切だと思った。
この三つ以外にも様々な貴重な経験をさせていただいた。鎌倉研修は私を大きく成長させてくれた。意見を言うことの大切さを学び、チャレンジすることの大事さも学んだ。学んだ後がとても大切だと思うから、これからの生活にも、積極的に生かしていきたいと思う。

高 1　平山亜葵
～一日目～
まず初めに想像力や画力などが問われるアイデアスケッチから本格的に始まり、最初はうまく絵が描けなかったり、連想力が不足していたりして苦戦したけれど、ゆうかさんのアドバイスや他のメンバーの発想から自分のアイデアを深堀りし、拡散することができました。また、私たちのグループは、アイデア出しでなかなか目標が定まらず、意見がまとまるまでに他の班と比べたらかなり時間がかかりました。けれど、時間をかけた分、しっかりと先を見越した計画を立てることができたのでスムーズに作業を進めていくことができました。突発的に出たアイデアよりも時間をかけて出したアイデアを尊重することも大切であることを学ぶことができました。
～二日目～
この日は、一日目にアイデアスケッチにまとめて、３D プリンターにプログラミングしていたものを形にする作業に入りました。今までとは違いアイデア止まりではなく、アイデアをさらに形にしなければならないという初めての体験でした。作業の過程の中で楽しさや新鮮さを感じた反面、やはり難しさも感じました。形にしてみることで様々な気づきがあり、多くの点を改善をすることができました。そのため一日目に製作したプロトタイプとは全然違う形、容姿になってしまったので取り入れることのできなかった機能がありました。けれど、自分たちが本来目指していたものと軸だけはずらさずに、製作作業を進めていきました。私は主に Fabble の担当でした。自分たちが一生懸命に頑張って作っていったものの記録をしていると、ここまで製作することができたのは周りの絶大なサポートのおかげだなとしみじみと感じました。同じグループのメンバーはもちろん、ほかのグループの人達、Fab ラボ鎌倉の方々など、本当に助けあえたことが実感できた日でした。Fab ラボ鎌倉で製作したものを時間のある限りもっとブラッシングしていき、私たちの目指しているところまで到達することができる作品を福岡で作り上げたいです。そして、私たちにはまだ他にも重大な役目があります。来年の鎌倉メンバーに Inkskape や Tinkercad の使い方を伝授しなければならないことです。ものづくりが終わったから終わりではなく、研修で学んだことを伝えることも私たちの使命なので最後まで果たし遂げたいと思います。
～三日目～

この日は鎌倉の大仏を崇めに早朝から行きました。教科書で拝見したことはあったけれど、実際に自分の目で見るとなると、やはり迫力が違いました。何か縁起の良いことが起こりそうな気がして良い気持ちになりました。その後、慶応大学のキャンパスを訪ね、まず目に入ったのはきれいな校舎と美しい芝生でした。キャンパス内を散策したり、先輩方のリアルなお話を伺えたり、本当に貴重な時間を過ごすことができました。先輩方のお話の中で高校生の間にしておいたら良かったなぁ、と後悔していることはあるかということをうかがえる機会がありました。そのお陰で、私が現時点で行きたいなと思っている大学に向けてが頑張らなければならないことが見えてきました。先輩方のようになれるようにこれから先のことまで見据えて努力できるようになりたいと感じました。

この鎌倉研修の三日間全体を通して、十人の絆を深めることができ、様々な貴重な体験をすることができました。この有意義な時間を無駄にすることなくこれからの学校生活の多くの場面で積極的に生かしていき、まだ先の未来での生活に存分に発揮し、何かの役に立てるようになろうと思います。

高１　井上そら

１日目

最初に、アイデアを紙に写す練習をしたときに上手に見えるコツを習いました。思っていたよりも書く手順は簡単でした。しかし、影の付け方や形をうまく書くのは難しかったです。そのあとに、カードを使って想像力が必要なブレインストーミングのようなことをしました。２枚のそのカードを使って、新しい文房具を考えるのにはなかなか、苦労しました。でも、そこでストレッチ感覚でしといてよかったと、あとから思いました。グループで、意見をまとめてつくるものを決めるまでが、想定外でした。３Ｄプリンターで、１２×１２のサイズしかつくれないのを知ってびっくりしました。そこからが、ものを変えるべきかサイズを小さくするべきなのか悩みました。結果、サイズを縮小して作ることにしました。そのあと、大体の形をあらわすためにペットボトルと紙粘土を使って想像を形にしました。

この日を通して、想像の中のものを形にできる喜びと、アイデアを出すまでの難しさを経験できました。現実を突きつけられて、悩んだりしてもそこで、あきらめず先を見通して考えることの大切さをあらためてかんじられました。

２日目

この日は、3D プリンターとレーザーカッターを使うものの仕上げを、目標に頑張りました。私たちはヘビも３D プリンターで作りたかったけど、時間や技術的にもできないことになり、レーザーカッターのヘビを作りました。でも、レーザーカッターで大きさを間違えたり、組み立てが上手くいかなかったりして失敗に終わりました。しかし、その失敗からアイデアをだし、自分たちで段ボールからヘビを作り出しました。

前日に決めて、作ろうとしていたものとは違ったものになったけど、失敗からの切り替えの大切さを学習できました。また、自分たちがこだわったところは残してプロトタイプがで

きたのでよかったです。今回の研修を通して、１人では絶対にできないことがたくさんあり仲間の大事さも実感しました。他には、グループ内ではでなかったいい部分、悪い部分も人の意見を聞くことで新たに気付けたことがたくさんありました。そこから、より良いものが作れるから今後の活動でも途中人の意見を聞いて参考にしていきたいと思います。

３日目

SFC 湘南台の慶応大学を見学して、たくさん先輩のお話が聞けました。建物は、あまり見ることができなかったけどサークルが見れてよかったです。サークルは、本当にとっても楽しそうで早く大学生になりたいと思いました。大学を見たのは今回がはじめてだったので、いい経験になりました。先輩方の話を聞いて、いちばん思ったことは常に目標をもって、その目標に向かって頑張ることです。だから、これからちょっとした目標でもいいからもち続けたいと思います。

高１　光安優奈

私は今回の鎌倉研修でたくさんの経験や学びを得ることができたが、特に自分の糧になったことがある。それは積極性だ。昔から発言をすることが苦手で、挙手をすることや前に出たりすることがほとんどなかった。クラスで何か決めごとをするときも、どうせ使われないからと自分の意見を言わないことが多かった。その上、アイデアを出すことや私見を持つことも得意ではない。正直、鎌倉研修はプログラミングを学びたかったから申し込んだわけで、グループワークという点ではあまり興味がなかった。だから研修に行くと決まった時に一番不安に思ったことはアイデア出しだった。最初にグループで集まった時もなかなか良いアイデアが思い浮かばず、先輩方が意見を出しているのを聞いているだけの状態だった。最終的に生徒にアンケートを取って、住んでいる町の課題を見つけることになったが、部活の影響でそのあとの流れをあまり把握できていなかった。そのため研修の前日はとても緊張したし、不安しかなかった。

そして一日目、私たちのグループは商店街の荒廃をテーマにアイデア出しを行った。商店街に人を集めるというのは規模が大きい話でなかなか話が進まず、通学路の安全にテーマを変えた。変更するときに都留先生が「一回戻ってみてもいいと思う。」とおっしゃっていたが、私は戻ってしまったら今までやってきたことが無駄になるのではないかと思った。しかし、通学路に関してのアイデアを出すときに考えるための過程ができていたことに気が付いた。この問題で困っている人は誰なのか、どのように困っているのか。商店街の問題について話し合っていたからこそ次の問題の話し合いが円滑に進んだ。たとえ一旦戻ったとしても前にやっていたことは次につながるということを学んだ。最初に言っていたことが最終形になるとは限らないから、思ったことはどんどん口に出して次の考え方を深めることができる。意見やアイデアを出すことはメリットしかない。ファブラボの方が「馬鹿だと思うことでもいいから数を増やしたほうがいい」とおっしゃっていてまさにその通りだと思った。いっぱい数を挙げることでその中にすごいアイデアがあるかもしれないし、ピンと

くるのがなかったとしても次につながるものになると思う。このことが今回の研修の一番の学びになった。

都留先生の言葉で気づいたことだが、縛られずに柔軟に考えることは自分の将来の夢にも言えることだ。私は小学生のころ一つの夢に縛られすぎて本当は何をやりたいのかわからくなったことがあった。その時に少しだけその夢を忘れて過ごしたら自分のやりたいことが見えてきて、そのことが今の将来の夢にもつながった。このように多くの経験ができたからやりたいことがたくさん出てくることができた。今までは、そのやりたいことをできずにいたが、今回身をもって学んだ積極性を生かして様々なことにチャレンジしていきたい。

この他にもプログラミングや考えたことを実際に形にする楽しさなどを学び、とても充実した研修になったと思う。将来につながるような貴重な経験ができたから鎌倉研修に行けてよかったと思う。

高 1　須田莉子

今回の鎌倉研修は、私にとって初めての校外での SGH 活動だったので、行く前は不安が多くありました。今年の Fab3D コンテストのテーマが「ファブのあるまちづくり」といった、なんとも抽象的であったので、行く前にアイデアを出す時、自分はあまり案が出せず、「向こうでもちゃんとやれるのか」と心配したまま当日を迎えました。

一日目では、初めに、3D プリンター等で用いるためのプログラミング教わり、その後からチーム活動が始まりました。私のチームは、まず鎌倉に行く前に事前に出していた、「ゴミ箱」の「ゴミ」の範囲を、最近問題となっている、「使用済みのプラスッチクカップ」に絞って、制作し始めました。話し合いを重ねていくうちに、タピオカ等のジュースから生まれてくる「異臭」や「見映え」等の数多くの問題点が出てき、何を解決するのか混乱し、結果的に、抽象的な試作品となってしまい、終えてしまいました。話し合いで、意見がまとめられなくなることが起き、改めてチームで一つの物事を作り上げていくことの難しさを痛感しました。

二日目は、昨日に引き続き作品を制作し、最後に発表をしました。話し合いから始めると思いきや、なんと、一日目の深夜、明け方まで先輩方が、案を練ってくださり、その案で具体的な作品へと仕上げていきました。発表が終わり、私は、先輩頼りすぎたと感じました。作品は良かったのですが、先輩方にまかせっきりで、高 1 たちは比較的にあまり意見を出さずに終わってしまった感じが印象に大きく残ってしまいました。

約半日、四人で考えた案をもとに、お二人でまとめられたと知ったとき、改めて高 2 の先輩方との経験、考え方の差と、私の協調性不足がわかりました。何か一つの目的をこなすため、話下手であっても何であっても、そういった話し合いの場は、今後嫌でも出て来ます。今回のこういった研修や、学校での議論は、社会に出た際に経験しなければいけない議論の練習であるので、今回の研修でわかったことは、もう少し話し合いに参加できる程の協調性、積極性を持っていないといけないこと、それを踏まえて、高 2 の先輩方のように「先輩が後

輩を引っ張って行く」理想的な形を作り上げたいです。。

三日目は今までと違って、観光＆慶応大学（SFC)の見学だったので、気を抜いていたのか、「寝坊」という最悪の罪を起こしてしまい、「待たせる」ということをさせてしまいました。日頃の学校生活においても、中学のころと比べると、朝が弱くなってきて、最近だと、朝礼ぎりぎりに登校することも多くなったのですが、今の今まで「遅刻」はしたことはなかったので、「まあ何とかなるだろう」と、深く反省していませんでした。ですが今回の事件をきっかけに、あたりまえですが時間配分の大切さに気付かされたので、今後の私生活を気を付けていきたいです。

少しごたごたがありましたが、高徳院へは時間通りに進められました。宗教作品を実際に見たことは、キリスト教関係の物しかなく、大仏を初めて見たときは、純粋に仏教の作品に、感動し、油画だけでなく石膏にも興味を持ちました。制作された時代は違っても、後世まで感動を与えられる芸術は広く宗教を広めるには適していると、改めて知らされた気がしました。慶応大学（SFC）に訪問した際は、一日、二日で学んだ自分の積極性の足りなさを踏まえ、OG の先輩方に、大学受験のことや、校内生活、将来のことなど、色々なことを質問しました。大学校内を見回るなんて、オープンキャンパスがあっても、人が多くてじっくり見回ることはできないので、本当に良い体験でした。

この 3 日間の活動を通して、チームで一つの物事を成し遂げることの難しさと、まだ自分の積極性が欠けていたということを知ることだけでなくだけではなく、日本に古くから伝わる芸術概念を知れたり、大学生活がどういう風なものなのかが分かったので、本当に良い経験ができた研修でした。これらの学んだことを踏まえて、その場だけの思い出だけではなく、周りの人たちと共有をするなどして、これからの生活にも役立てていきたいです。

高 1　高畑里梨花

・機械を使って感じたこと

今回初めて本格的に 3D プリンターやレーザーカッターなど普段は利用しない機械を使って班で一つのものを作りました。最初それらの取り扱い方について聞いたときとても難しそうでこんな私が使えるのか不安でしたが、実際に扱ってみるとすごく楽しくて作りたいものができたときとてもうれしく達成感が生まれ、もう一度使いたいなと思っているほどとても楽しい、貴重な経験だったなと思います。またこれからは、プログラミングが小学校で必須科目となるため私たちより年が小さい人たちに負けられないくらいの技術力を身につけていきたいと思いました。

・アイデア出しで感じたこと

今回のテーマは「ファブのある街づくり」でした。これを聞いたとき少しパニックになりました。ファブという言葉がわからない私にやっていけるのかなと不安いっぱいな気持ちで鎌倉にのぞみました。もちろん鎌倉に行く前、放課後に班で集まって話し合いをし、ごみというテーマでやっていくということは決まりましたが、不安は消えることがありませんで

した。しかし、ファブラボ鎌倉のスタッフさんがいろいろとサポートをしていただいたおかげでごみというテーマからいろいろ筋道を立てることができ、私達独自のごみ箱を作ることができました。

・班での話し合いで感じたこと

私は班での話し合いを通じて自分の意見を言う力を身につけることができたと思います。自分の意見を人前で言うのはとても恥ずかしかったです。しかし自分の率直な意見を言うことでそれが自信につながりもう一段ステップを上がることができ、自分をもっと成長させることができたと思います。

・発表を通じて感じたこと

先輩方のスピーチの仕方やファブラボの方が話している様子を見ていて、一番大切だと思ったことは自分の意見に自信をもって堂々と話すということです。聞き手にもっと聞いてもらうためにはすごく大事なことだと思いました。今後自分がスピーチをするにあたってそのことを実践していきたいなと思いました。

・SFC にいらっしゃった先輩方の話を聞いて感じたこと

自分が 2 年後実際に受験をするときに役立つことをたくさん教えていただきました。特に印象に残っている話は高校時代に活動されていたことです。自分に足りないと思ったことは、「日々当たり前のことをおろそかりしないこと」です。

当たり前のことができてからこそ次のステップに移れます。これからは、日々当たり前のことをおろそかにせずにやっていきたいと思います。

台湾研修

参加者 GC コース（高１　９名、高２　３名）引率２名

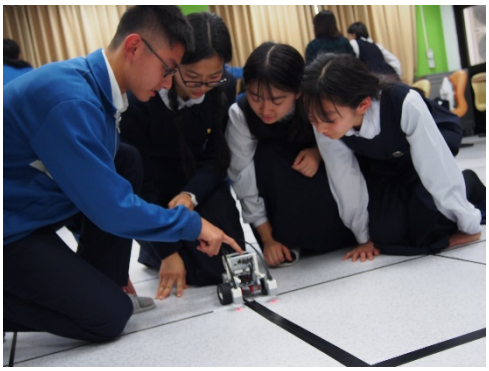
協力機関　新北市立中和高級中学　淡江大学　加賀屋（台湾支店）

日程	内容	詳細
12/22	出発 フィールドワーク	10:55　福岡出発　→　CI111　→　台湾桃園 12:30 国立故宮博物館など
12/22	新北市立中和高級中学での活動	台湾の高校３校（中和、錦和、弘文）と本校による
12/23	淡江大学訪問 企業訪問	キャンパスツアー　ディスカッション 加賀屋でインタビュー
8/22	フィールドワーク 帰国	 18:10　羽田出発　→　JAL329　→　福岡 19:35

新北市立中和高級中学との交流

①STEAM 教育

台湾の高校生がチューターとなり、チームで協力してレゴカーをうまく操作できたところが優勝です。もちろんここでも共通言語は英語と、たまに中国語。床の黒いラインをうまく走るようにプログラミングを微調整していくという単純そうな作業なのですが、しくみを理解するのが結構大変な様子でした･･･。どうしても機械が苦手な女子は多いものです。



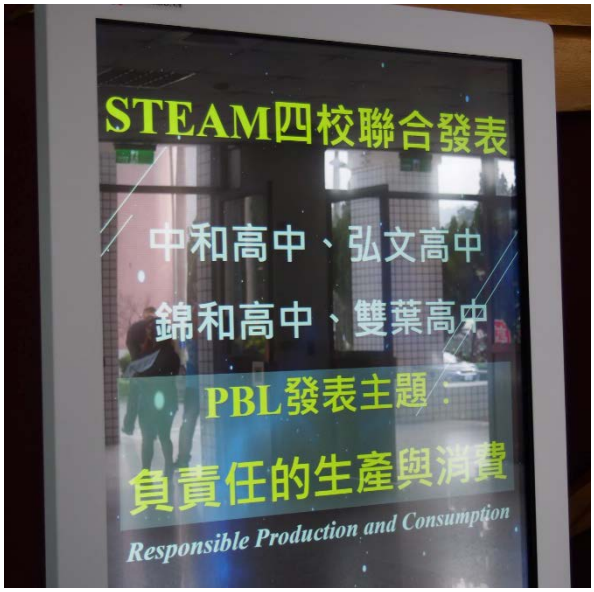
台湾の生徒たちがつきっきりでやさしく教えてくれ、英語の先生や情報系の先生方も支援してくださって楽しく活動していました。数学的な考え方やプログラミング教育にも力を入れている台湾では、こういったキットの購入に国からの補助があるようです。説明書やシステム自体も英語ですので、英語を使った学びの一つとしてもよさそうです！そしてこの学校の IT 系施設の充実も年々進化している様子。台湾の学校や教育のことも肌で感じ取った生徒たちでした。

新北市立中和高級中学との交流
②SDGs

台湾研修の最大の目的と言ってもいいのが、この日の高校訪問とプレゼンテーション発表会です。生徒もこのために時間をかけてリサーチや、台湾の高校生とテレビミーティングをするなどして準備を進めてきました。この発表会は今年初めての挑戦で、いつも交流をさせて頂いている新北中和中学高等学校ほか台湾の３つの学校と合同で世界共通の課題である「フードロス」についての研究発表を行うというものでした。もちろん共通言語である英語を使用します！この日は地元の市議会議員さんや先生方を含むたくさんのゲストもいらっしゃいました。

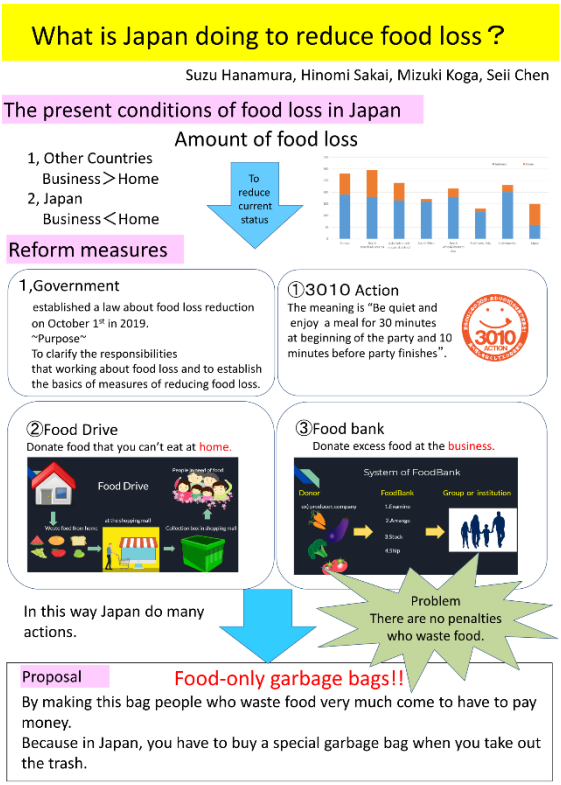
福岡雙葉の生徒達は、３つのグループに分かれてそれぞれの視点からフードロスについて研究していました。現在国内で取り組んでいることや古くから日本人が大切にしているもったいない精神などを紹介したグループや、買い物をする際の注意点を日本のスーパーで実践しながら動画でまとめたグループもあり、ユニークだったと評価していただきました。

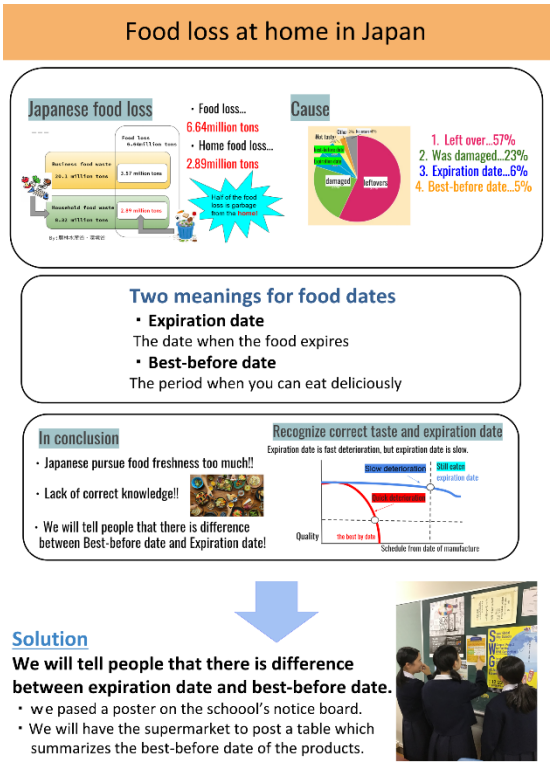
一方、台湾の高校生たちの圧倒的な英語力とプレゼン力にも驚かされ、帰りのバスの車内では「自分たちはまだまだだった･･･」、「台湾の高校生たちのほうが探究する部分がすごかった」と反省会をしていて大きな刺激をもらったようです！



新北市立中和高級中学での交流

③発表用ポスター





淡江大学訪問

キャンパスツアー　ディスカッション

毎年、この台湾研修では現地の大学を訪問して勉強をさせていただいています。今年は、台湾の企業が選ぶ大学ランキングで長く私学トップをとり続けている淡江大学にお邪魔しました。台湾で国際的な大学の一つでもあり、世界各国に提携校を持ち、(東京大学や九州大学、福岡女子大学も提携校！) 2000 人の留学生が在籍しています。日本人も 100 人くらいいるそうで、キャンパス内で何人もの日本人学生さんが声をかけてくれました。情緒あふれるキャンパスの中を歩き、大学内で一番古い教室にも入らせていただきました。図書館はなんと 9 階建て！日本語の書籍だけの階もあるなんて、さすが日本人の留学生が多い大学です。

8 つの学部で構成され、全英語プログラムがあったり、三年次海外留学プログラム（台湾

初導入)を利用できたりと魅力的な要素がいっぱい。中国語ができなくても充実のサポートが受けられます。学費や生活費も安く、日本の国立大学に通うよりも安いくらいで英語・中国語を習得できると最近注目を集めています。本校の生徒たちも一生懸命説明を聞いては質問していました。

女子学生さんたちもとても素敵な方ばかりで、テーブルマナー講座（英語）やディスカッションなど交流を楽しんでいました！

企業訪問
加賀屋

今年も加賀屋さんにて、日本から台湾に輸出された「おもてなし」について学ばせていただきました。北陸を代表する温泉地、石川県・和倉温泉にある「加賀屋」は、台湾の温泉地にある唯一の高級日本旅館として、現地の人々に親しまれています。

ここでは台湾人のスタッフのお二人が館内を案内してくださり、生徒たちの質問に心を込めて答えてくださいました。この日は全て英語を使っていただきました！

宴会場のいすへの気配りや展示品の紹介まで、いたるところに心を尽くされていることに感動の連続です。スタッフの方の「私は純粋に日本が好きで、日本の文化を尊敬しているからここで働いています」という言葉も印象的だったようです。

みなさんが日本のお名前で働いているところも興味深く、たくさんの質問が出ていました。「日本はおもてなしの文化とよく言われていますが、ここ台湾など、他の国のほうがもっとおもてなしできているのではないか？と思うことがよくあります。日本人に足りないものは何だと思われますか。」という、ある生徒の質問にしばらく悩まれたあとで、「ホスピタリティーは、『他人の靴を履いて、いつもと違う場所に立つこと』だと考えています」と教えてくれた台湾人スタッフの貴和子さんの心のこもった言葉に感激しました。

研修後レポート

高２　向井友加里

私がとても緊張し良い体験をしたのはプレゼンの発表と台湾の加賀屋を訪問した時です。まず初めにプレゼンについてです。プレゼンをした事が無かったので緊張していたことを記憶しています。しかしいざ壇上に上がると緊張も解けたなと思いました。発表ってこんなにあっさりと終わってしまうのかと感じました。なぜなら、プレゼンをするための時間がとても長く感じていたからです。台湾に行く事が決定した時は出来るのかと不安で仕方がありませんでした、自分が出来る事は進んでしようと決心しました。その行動をしたことで自分に出来ることを探すことで自分に少し自信がつきました。それと自分に出来る事はなんでもしようとした行動も少しだけ自分に自信をつけさせたように思います。次は加賀屋についてです。この加賀屋の訪問は私にとって重大なところだと考えていました。なぜなら私の将来につながる場所だったからです。加賀屋では日本の庭園や畳、日本の食べ物などを見学しました。どれも日本で見た庭園や食べ物も日本と同じでした。私はどうやって日本文化を学んでいったのかを聞きました。帰ってきた返答はインターネットで学んだとおっしゃっていました。ならば別の道で日本文化を極めて行こうと決めました。

この台湾研修で得たものはたくさんありますが、その中で自分が成長したのではないかと思うのは自分のしてきたことに少し自信がついたことです。これが一番私を成長させてくれた部分だと考えます。

高２　花村すず

１日目、故宮博物院では中国文化の深さを実感しました。特に展示品の色、形、数字、漢字など目に見えるものを大切にされてきたと感じました。皇帝の嫁入り道具の翠玉白菜の白色は花嫁を表す純白、緑色とキリギリスは子孫繁栄を表していることから色彩、形すべてに１つ１つ意味が込められていて、中国の縁起を大切にする文化が感じられたような気がしました。何か物事が上手くいくようにつくられたものが多かったことから風習の歴史も深いのではないでしょうか。日本の文化の多くは中国から伝わったことは知っていましたが、実際にみてみると中国の文化は細部までこだわっていて、日本より繊細だと感じました。

２日目は１言１句はっきりときいてくださる方々を見ながら私が伝えたいことを言うことができました。しかし、反省点としては聞いてくださる方々のうなずく姿が見えなかったことです。私の推測では発表の内容が聞く人にとって身近なことに感じてもらえなかったことが１つの原因だったように考えました。この経験を踏まえてより多くの人に共感してもらえるような発表を研究したいと思います。台湾の生徒さんたちのプレゼンテーションはプラスチックごみの問題を挙げていましたが、内容のリアリティーが非常に高く、私も共感じました。

交流の時間には台湾の生徒さんと距離を縮めることができました。何か分からないとき

には何度も優しく教えてくれたり、知っている日本語で盛り上げてくれたり、とても嬉しく感じました。特に何度も「How do say ~ in Japanese?」と聞いてくれて日本に興味を持って、知ろうとしてくれていたことが今までにないくらいの喜びを感じました。上手くいかないときも「Just try!」と言っていて、どんなときもポジティブであきらめずに挑戦する精神に驚き、感動しました。コミュニケーションをとる上で言語を学ぶことも大事だけどもっと大事なことは相手へ自分の気持ちを表すことだと考えました。

３日目の淡江大学ではインドネシア出身の大学生の方と社会問題について話しました。その方は外交官になって母国のために働きたいと話していて、大学生ではっきり目標をもって努力している姿に背中を押されました。

加賀屋では日本人の私でもおもてなしに魅了されました。スタッフの方から日本の文化を知って、加賀屋で働くようになって周りの人に気遣いができるようになったと聞いて、日本にいたら当たり前で気が付かないような日本の文化の素晴らしさに感動しました。また、台湾の方は日本が好きだということも伺ったり、台湾のスタッフの方が丁寧におもてなししてくださったり、日本文化を大切にし、台湾で広めようとしてくださっている姿をみて、とても感謝しなければいけないと感じました。また、このように日本の文化を愛してくださる方がいるので守っていきたいとも感じました。

高２　藤本実由

台湾の高校生との交流を通して、私自身の国際問題への興味・関心の低さを実感しました。「高校生」の私にしかできないことをより多く見つけていきたいです。そして、今回のプレゼンのように、今後の世の中を担っていく私たちは、国内で問題を考えることに留まらず、国境を越えて意見を共有し合い、解決へと導くべきであると考えました。

また、異文化に触れながら、ジェンダー問題へとつなげることができました。一つ目は、忠烈祠での衛兵についてです。日本にも台湾の衛兵と同じように、陸・海・空軍があります。しかし台湾と日本の大きな違いは、女性がいるかいないかということです。この気づきから、台湾では、女性は、家庭内の安全を第一に守るべきであるという概念があるのかもしれないと感じました。二つ目は、加賀屋での働き方についてです。希和子さんや成美さんのように案内してくださった方や、料理を運んでくださった方は、全員女性でした。この現状は日本の加賀屋でも同じようです。男性は料理人として働いていらっしゃるようでしたが、おもてなしをする立場の人は、必ずしも女性だけではない気がします。お客様とふれる立場に男性が着くと、よりお客様が来店しやすい環境を作れるのではないかと考えました。

新しい学びだけに捕らわれず、自分の興味のある問題にも焦点を当て、研修に参加することで、より充実させることができました。研修を通しての学びで終わらせるのではなく、これからの学びにも繋げていきたいです。

高１　藤田史

私が台湾研修で最も衝撃を受けたのは、現地の高校生の英語力とプレゼン力の高さです。私は初めて英語でプレゼンを作ったので、伝えたいことを理解してもらえるかどうか不安でした。ですが、私たちなりに良いプレゼンを作ることができたと思っていました。しかし、出発前に先生にプレゼンをチェックしていただいたところ、時間が短すぎたり、話し方に説得力が欠けていたりと、まだまだ完璧な状態ではないということがわかり、努力しただけにとても悔しかったです。それでも、何回も発表の練習をして、プレゼンの内容も改善したので、台湾の高校生と同じくらいのレベルでプレゼンができるだろうと思っていました。しかし、実際に彼らのプレゼンを聞いたところ、完成度の高さに大変驚かされました。まるで母国語のように英語を話していて、原稿はすべて暗記しており、聞く人に訴えかける話し方で、引き込まれました。それに対し私は、なかなか原稿から目を離せず、日頃話さない英語なので自分の思うように流暢にプレゼンできませんでした。このように、たくさんの自分に足りないところに気付かされました。それと同時に、新しい学びや目標も得られたと思います。これから、プレゼンの回数を重ねることで、聞く人に言いたいことを明確に伝えられるようになりたいです。また、英語でスピーチやプレゼンをする機会があっても、渋ることなく挑戦して腕前を上げていきたいです。この台湾研修で得たたくさんの学びを、積極的に生かしていきます。

高１　古賀瑞雪

台湾研修に行って、私が一番心に残っていることは日本のおもてなしだ。日本のおもてなしとは一体何だろうか。２０２０年、もう目の前に迫ったオリンピックの開催地が東京と決まった時からおもてなしという言葉をよく耳にするようになった。しかし、何をすることがおもてなしにあたるのか、おもてなしとは何なのか、すごく曖昧のままだった。そんな中、台湾研修でプロが選ぶ日本の旅館で３６年連続トップの石川県にある加賀屋が台湾に進出した「日勝生加賀屋」に行き、日本のおもてなしを受けた。そこである一人の研修メンバーが「日本人が日本のおもてなしを継続していくためにはどうすればいいか。」という質問をしていた。すると質問に答えて下さっていた従業員さんが逆にみなさんはどう考えますかと返してきた。おもてなしについてそう深く考えたことがなかった私にとって初めておもてなしについて考えた時間だった。海外で日本のおもてなしを受けると当たり前に日本人がしていることも海外ではおもてなしに当たるのだと実感することが出来た。そして、相手のために自分がしてほしいことを当たり前のようにみんながすることがおもてなしなのだと自分の中でもやもやしていた部分がはっきりした。相手の事を考える時には相手の立場に立って考えること。自分の意見を押しつけないこともおもてなしに当たるのだと思う。２０２０のみならずおもてなしで溢れる日本にするためにこの４日間で学んだことを心にとめ、過ごしていきたいと思う。

高１　財部深月

私はこの研修で、台湾のレベルの高さに、大きな刺激を受けました。中和高級中学に訪問させていただいた時のことです。そこで今回、多くの高校生や議員の方の前で発表するという貴重な体験をさせていただきました。私は、台湾の学生さんの目線の送り方、間のとり方、パワーポイントの内容など、スピーチのレベルの高さに驚きました。いかに相手を惹き付けることが出来るか。いかに自分の意見を正確に伝えることが出来るか。全てを考え尽くされた発表に、自分達のプレゼンがまだまだだったということを痛感させられ、悔しかったです。それでも、私達のグループの中で、何度も人前に立って発表したことのある、藤本先輩や古賀さんは、魅せ方を知っているなと感じました。私も場数を踏み、プレゼンの上達に向けて邁進していきたいです。

また、今まで日本の中で収まっていた自分の視野が一気に広がった気がします。海外にもSDGs についてこんなに考えている高校生がたくさんいるのだということに改めて気づいたのです。私達高校生一人一人が出来ることは小さいかもしれません。しかし、国境を越えて協力し合えば、必ず何か変わると確信することが出来ました。それと同時に、このことを、多くの日本人の高校生に伝えたいと思いました。これを知った高校生は必ず意識が変わるはずです。これは、台湾研修に行かせていただいた私の責務だと感じています。まずは私から、海外の高校生が、どのようにしてこれからの世界を良くしようと考えているのかを発信していきます。

高１　境陽乃美

出会った外国人によって、その国のなんとなくの印象が決まってしまうというのは以前から感じていましたが、今回の台湾研修を通して身を持って感じました。もちろん、台湾は好印象です。何がそこまでの好印象を私に与えたのでしょうか。振り返ってみると、どこに行ってもあったある共通点を見つけました。それは、外国から来た私を知ろうとしてくれるということです。東京オリンピック決定の際に滝川クリステルさんがおもてなしというワードを使ったこともあって日本のおもてなしは素晴らしいものとして世界に発信されるようになりました。確かに日本の旅館や、機内でのサービスなど心安らぐものがおおいです。しかし今回私が台湾で感じたおもてなしは、日本のおもてなしとは一味違うものでした。台湾のおもてなしは自分たちがこれまで用意してきたものをお客様に披露するというよりか、外国から来た私を知ろうとしてくれる歓迎の気持ちが印象的でした。訪問した高校や大学にしても私が何かを質問する前に必ず、私に関することを質問したり、日本について尋ねてくれたりしました。自分の国について興味を持ってくれることがこんなにも嬉しいことなんだと気付かされました。また台湾の加賀屋に訪問した際、案内してくださった方に台湾と日本では文化も違って、日本のおもてなしの心を学ぶ上でなにか苦労はありましたかと質問をすると、確かに色々あったけど自分が苦労したことで外国のお客様がいらっしゃったときでも日本のおもてなしを伝えられるようになったとおっしゃっていて、常にお客様の

ことを考える姿にとても刺激を受けました。
台湾研修に参加することで、おもてなしの新たな一面を学ぶ事ができました。これからもこの学びを胸に、日本に好印象を持ってもらえるようなきっかけを作りたいです。

高１　陳清漪

わたしは、今回の台湾研修を通して、たくさんのことを学ぶことができたと思います。その中で一番印象に残ったのは四日目の淡江大学の見学です。なかの風景はもちろん、どこもかしこも中国文化そのままを表していて、中国文化に慣れたわたしにとても親しく感じました。 また、それだけでなく、淡江大学の図書館もわたしに、いや、おそらくそこにいるみんなにも大きく衝撃を与えたことでしょう。外観はともかく、中も充実していて、本の多さにびっくりしました。中のある部屋がわたしに最も印象を与えてくれました。その部屋の中には、いろんな先生が勧めてくれた本がいっぱい並んであって、本の貸し出しシステムも完全自動化になっています。もし生徒が本を借りたい場合は、先生に言わずに、そのまま借りることができて、とても便利だなと思いました。 もちろん、ただただ見るばかりはわたし達が淡江大学に行く最大の目的ではありません。参観の後すぐに淡江大学の先生や生徒との交流が始まり、わたし達は淡江大学に対してもっといろいろ知ることができました。また、そこで学んだテーブルマナーもきっと、わたしの今後の生活に大きな影響を与えてくれるのでしょう。
最後に、わたしは今回の台湾研修は全体的に良かったと思います、いろんなことを他人から知り、また自分もいろいろ人の役に立つことができました。これを機に、今後の生活に生かしていこうと思います。

高１　赤星遥

今回の SGH 台湾研修を通してたくさんの事を学びました。その中で 1 番痛感したことは、台湾の高校生、大学生のレベルの高さが日本人と比べられないほど高い事です。まず、2 日目に伺った中和高校では、食品ロスや環境の問題について、現地の弘文高校、錦和高校の各学校の代表が発表をしました。私たちが行った発表は原稿を見ながら準備していたスライドを紹介する形でした。しかし、台湾の高校生の、原稿を見る事なく、噛んだり、途中で間違える事を恐れずに発表する姿は、私たちには無かったものなので、とても参考になりました。私たちはお互いの発表を終えた後、中和高校の生徒たちと交流をしました。その内容として、プログラミングを使って、中身の数値を変えたり、方向を変えたりを繰り返しながら LEGO EV3 と呼ばれるロボットのようなもので遊ぶものでした。その体験の際に、バディだった子はものすごく日本の事が好きなようで、説明の時も頑張って日本語を何とか使おうとしてくれました。中国語がほとんど分からない私たちに、何とかして伝えようとする姿に感動しました。
3 日目に訪れた淡江大學では、留学生用のプログラムで、留学生の方々が早く中国語や英

語が上達出来るように工夫されていました。実際、私がお世話になったバディの方もインドネシア出身の留学生の方でした。ただ私が驚いたのは、留学生だとは思えないほど、英語と中国語が上手だった事です。今回の出会いで、私も今よりも更に英語力を伸ばしたいと思いました。今回の経験を生かし、これからも勉強に励みたいと思います。

高１　松崎陽菜

まとめ

・世界観が広がりました。わたしは海外の人とはたくさん話しますが、台湾研修にいくまで、海外に行ったことがなくて、妄想だけで物事を考えていました。今回の台湾研修では多くの文化、異文化に触れました。私が驚いた文化はトイレです。台湾のトイレはティッシュが流せないので、時々戸惑いました。このことから、私達が水を当たり前に使えていることは本当に幸せであるということをあらためて感じました。また台湾の人々はとても親日的で夜市では西野カナやドリカムなどの音楽が流れていました。それ以外にも商品に中国語、英語、そして日本語と書かれていて台湾の人々の日本への思いやりが多くの場面で感じました。

・台湾でもフードロスの問題はあるということです。台湾はタピオカが有名で、私達はタピオカを食べていたのですが、タピオカの量が本当に異常に多く、私達の中にも残す人が多くいました。そして、朝のバイキングです。たくさんのパンや、おかずがあり、とても選ぶのが楽しい反面、多すぎて残してしまいそうになりました。バイキングは楽しいですが、フードロス問題を引き起こす原因と考えました。厳しいかもしれませんが、フードロス問題を解決していくためには、私達が好き嫌いをせずに食べることだと自分は思います。

反省点

・プレゼンテーションです。私達はセリフを見ながら言っていましたが、他の学校の人たちはほとんど紙を見ずに言っていました。わたしは抑揚に気をつけよう、あとしっかり伝えようと思ってプレゼンしましたが、やはり伝えたいなら、セリフの紙を見ないで自分の言葉で伝えることが一番重要だと思いました。この経験が大きな一歩になったので、しっかりと次につなげていきたいです。

・語彙力のなさです。プレゼンを作っているときや高校生、大学生との交流、加賀屋への企業訪問で英語を使う場面が多くありました。日本語では言いたいことははっきりしているのに、英語では言い換えられない。という場面が多くありました。しかし、このことがわたしにやる気をくれました。今までのわたしは海外大学に一切興味がありませんでしたが、大学の見学で、一切英語を話せなかった佐藤さんが３年間でペラペラに英語を話している姿や、留学生の人たちの優しさに触れて台湾に留学をしたいと強く思いました。このようなきっかけをくれた台湾研修や先生方にほんとうに感謝して、多くの研修、イベント、ボランティアに失敗してもいいから積極的に参加して、自分自身をもっともっと成長させられるようがんばっていきます。台湾のお土産も自分の心のお土産もたくさんです。

関係資料

（平成３１年度教育課程表、参考資料など）

別表（平成31年度入学）

教科	学年	標準単位	高Ⅰ		高Ⅱ			高Ⅲ				
	科目＼類型		共通	GC	文系	理系/医歯薬系	GC（文系）	私立文系	文系	私立理系/医歯薬系	理系/医歯薬系	GC（文系）
宗教	宗教	3	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
国語	国語総合	4	6	5								
	国語表現	3										
	現代文Ａ	2										
	現代文Ｂ	4			3	2	3	6	4	2	2	3
	古典Ａ	2										
	古典Ｂ	4			3	3	3	4	4			4
	古典演習	3								┐3	3	
地理歴史	世界史Ａ	2	2	2								
	世界史Ｂ	4			┐4		┐4	┐6	┐5			┐5
	日本史Ａ	2			｜		｜	｜	｜	｜		｜
	日本史Ｂ	4			┘	4	┘	┘	┘	｜	3	┘
	地理Ａ	2								｜		
	地理Ｂ	4			┐2		┐2		┐2	｜		┐2
公民	現代社会	2	2	2	｜		｜		｜	｜		｜
	倫理	2			｜		｜		┘	｜		┘
	政治・経済	2			┘		┘			｜		
数学	数学Ⅰ	3	4	3						｜		
	数学Ⅱ	4			3	4	3			｜		
	数学Ⅲ	5								｜4	4	
	数学Ａ	2	3	3						｜		
	数学Ｂ	2			3	3	3			｜		
	数学活用	2								｜		
	総合数学	3							4	┘2	4	4
理科	科学と人間生活	2										
	物理基礎	2										
	物理	4				┐4				┐5	┐4	
	化学基礎	2	2	2		｜				｜	｜	
	化学	4				4｜				5｜	4｜	
	生物基礎	2	2	2		｜				｜	｜	
	生物	4				┘				┘	┘	
	地学基礎	2										
	地学	4										
	理科課題研究	1										
	化学基礎演習	3			2		2					
	生物基礎演習	3			2		2					
	化学演習	3							2			2
	生物演習	3							2			2
保健体育	体育	7	2	2	2	2	2	3	3	3	3	3
	保健	2	1	1	1	1	1					
芸術	音楽Ⅰ	2	┐2	┐2								
	音楽Ⅱ	2	｜	｜	┐2							
	音楽Ⅲ	2	｜	｜	｜			┐2				
	美術Ⅰ	2	┤	┤	｜			｜				
	美術Ⅱ	2	｜	｜	┤			｜				
	美術Ⅲ	2	｜	｜	｜			┤				
	工芸Ⅰ	2	｜	｜	｜			｜				
	工芸Ⅱ	2	｜	｜	｜			｜				
	工芸Ⅲ	2	｜	｜	｜			｜				
	書道Ⅰ	2	┘	┘	｜			｜				
	書道Ⅱ	2			┘			｜				
	書道Ⅲ	2						┘				
外国語	コミュニケーション英語基礎	2										
	コミュニケーション英語Ⅰ	3	4	4								
	コミュニケーション英語Ⅱ	4			5	5	5	6	4	5	7	6
	コミュニケーション英語Ⅲ	4										
	英語表現Ⅰ	2										
	英語表現Ⅱ	4										
	英語会話	2										
	ＯＣ	2	1	1	1	1		1		1		
	ライティング	4						5	4	4		
	Discussion	2					1					1
	R.W.P.※1	2		1			1					1
国際教養	比較文化ワークショップ	1		1								
	グローバル経済入門ワークショップ	1					1					
	世界共通課題	1										1
家庭	家庭基礎	2	2	2								
	家庭総合	4										
	生活デザイン	4										
情報	社会と情報	2	1	1	1	1	1	1				
	情報の科学	2										
総合的な探求の時間		3	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
特別活動	ホームルーム活動	3	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
合計			37	37	37	37	37	37	37	37	37	37

※1 はResearch Writing Presentation （リサーチ・ライティング・プレゼンテーション） の略

注① ┐2 選択科目２単位という意味
｜
┘

別表（平成31年度以前入学）

教科	学年	標準単位	高Ⅰ		高Ⅱ			高Ⅲ				
	科目＼類型		共通	GC	文系	理系/医歯薬系	GC（文系）	私立文系	文系	私立理系/医歯薬系	理系/医歯薬系	GC（文系）
宗教	宗教	3	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
国語	国語総合	4	6	5								
	国語表現	3										
	現代文Ａ	2										
	現代文Ｂ	4			3	2	3	6	4	2	2	3
	古典Ａ	2										
	古典Ｂ	4			3	3	3	4	4			4
	古典演習	3								┐3	3	
地理歴史	世界史Ａ	2	2	2						|		
	世界史Ｂ	4			┐4		┐4	┐6	┐5	|		┐5
	日本史Ａ	2			|		|	|	|	|		|
	日本史Ｂ	4			┘	4	┘	┘	┘	|	3	┘
	地理Ａ	2								|		
	地理Ｂ	4			┐2		┐2		┐2	|		┐2
公民	現代社会	2	2	2	|		|		|	|		|
	倫理	2			|		|		┘	|		┘
	政治・経済	2			┘		┘			|		
数学	数学Ⅰ	3	4	3						|		
	数学Ⅱ	4			3	4	3			|		
	数学Ⅲ	5								|	4	4
	数学Ａ	2	3	3						|		
	数学Ｂ	2			3	3	3			|		
	数学活用	2								|		
	総合数学	3							4	┘2	4	4
理科	科学と人間生活	2										
	物理基礎	2										
	物理	4				┐4				┐5	┐4	
	化学基礎	2	2	2		|				|	
	化学	4				4|				5|	4|	
	生物基礎	2	2	2		|				|	
	生物	4				┘					┘	┘	
	地学基礎	2										
	地学	4										
	理科課題研究	1										
	化学基礎演習	3			2		2					
	生物基礎演習	3			2		2					
	化学演習	3							2			2
	生物演習	3							2			2
保健体育	体育	7	2	2	2	2	2	3	3	3	3	3
	保健	2	1	1	1	1	1					
芸術	音楽Ⅰ	2	┐2	┐2								
	音楽Ⅱ	2	|	|	┐2							
	音楽Ⅲ	2	|	|	|			┐2				
	美術Ⅰ	2	┤	┤	|			|				
	美術Ⅱ	2	|	|	┤			|				
	美術Ⅲ	2	|	|	|			┤				
	工芸Ⅰ	2	|	|	|			|				
	工芸Ⅱ	2	|	|	|			|				
	工芸Ⅲ	2	|	|	|			|				
	書道Ⅰ	2	┘	┘	|			|				
	書道Ⅱ	2			┘			|				
	書道Ⅲ	2						┘				
外国語	コミュニケーション英語基礎	2										
	コミュニケーション英語Ⅰ	3	4	4								
	コミュニケーション英語Ⅱ	4			5	5	5	6	4	5	7	6
	コミュニケーション英語Ⅲ	4										
	英語表現Ⅰ	2										
	英語表現Ⅱ	4										
	英語会話	2										
	ＯＣ	2	1	1	1	1		1		1		
	ライティング	4						5	4	4		
	Discussion	2					1					1
	R.W.P.※1	2		1			1					1
国際教養	比較文化ワークショップ	1		1								
	グローバル経済入門ワークショップ	1					1					
	世界共通課題	1										1
家庭	家庭基礎	2	2	2								
	家庭総合	4										
	生活デザイン	4										
情報	社会と情報	2	1	1	1	1	1	1				
	情報の科学	2										
総合的な学習の時間		3	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
特別活動	ホームルーム活動	3	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
合計			37	37	37	37	37	37	37	37	37	37

※1 はResearch Writing Presentation （リサーチ・ライティング・プレゼンテーション） の略

注① ┐2 選択科目２単位という意味
　　\|
　　┘

福岡雙葉学園 福岡雙葉中学校・高等学校

第4回 グローバル人材育成シンポジウム

グローバル時代を生き抜くための今後の英語教育について

令和元年
10月12日［土］
14時00分～16時20分（予定）
（開場・受付/13:30）

参加無料（要予約）

場所 ● **福岡雙葉学園講堂**（福岡市中央区御所ヶ谷7-1）
主催 ● 福岡雙葉学園
後援 ● 福岡県教育委員会/福岡市教育委員会/九州経済連合会/九州大学
対象 ● 小・中学生の保護者、生徒、教育関係者、一般の方々

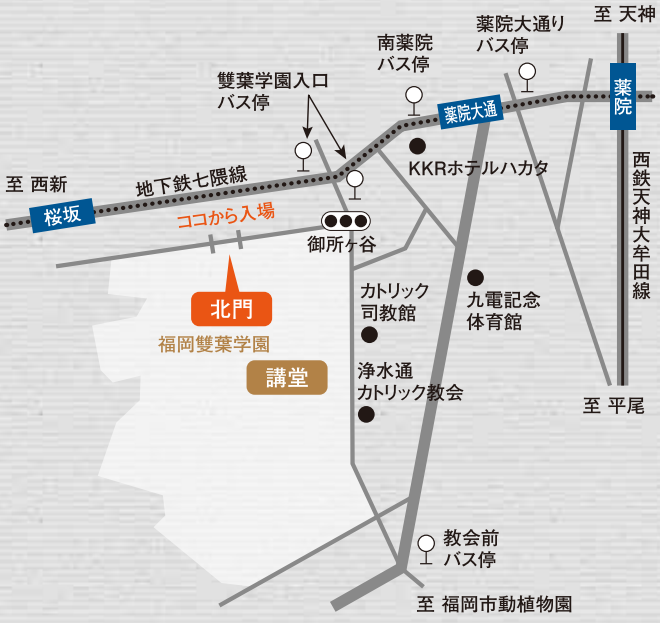
ゲスト講師：安河内哲也（やすこうちてつや）氏
1967年、福岡県生まれ。大手予備校「東進ハイスクール」のカリスマ英語講師として知られる。学校や教育委員会の依頼で教員の研修などを行う一般財団法人「実用英語推進機構」の代表理事も務める。4月には「全解説　英語革命2020」（文芸春秋）を刊行するなど、著書多数

テーマ：グローバル時代を生き抜くための今後の英語教育について

福岡雙葉中学校・高等学校は、平成27年度に文科省スーパーグローバルハイスクールに指定され、現在に至るまで、スーパーグローバル大学創生支援（トップ型）の九州大学との高大接続の研究開発を行い、世界で活躍できるグローバルリーダーの育成に取り組んでいます。

今年、第4回目となるこのシンポジウムでは「グローバル時代を生き抜くための今後の英語教育とは」をメインテーマとして、ゲスト講師には、大手予備校のカリスマ英語講師として知られ、学校や教育委員会の依頼で様々な研修を各地で行っている安河内 哲也氏をお招きして、今後の日本のさらなるグローバル化に向けて、日本の英語教育がどう変わっていくのか、また、大学入試改革に向けて、どのような教育を行っていくべきか等についてご講演をいただくとともに、生徒との意見交換を行い、これからの社会を担っていくこどもたちのグローバル教育について考えていく契機にさせていただきたいと考えています。

ACCESS



福岡雙葉学園講堂 福岡市中央区御所ヶ谷7-1 TEL 092-531-0438
- 西鉄バス「教会前」 徒歩10分or「雙葉学園入口」徒歩5分
- 福岡市地下鉄 七隈線「薬院大通」or「桜坂」徒歩15分
- 西鉄天神大牟田線「薬院」より西鉄バス乗り換え（所要時間5分）
- JR博多駅より西鉄バス乗り換え（所要時間15分）

※駐車場がございませんので公共の交通機関でご来場ください。
（近隣に有料駐車場もあまりございません。）

福岡雙葉学園 福岡雙葉中学校・高等学校 グローバル人材育成シンポジウム

当日スケジュール

開会式 | 14:00〜14:05

主催者挨拶　麻生 泰 / 福岡雙葉学園理事長・九州経済連合会会長

第1部 | 14:05〜15:05　講演/入試改革で求められる今後の英語教育について
〜英語を学ぶ意義について〜

ゲスト講師　安河内 哲也 氏
※一般財団法人 実用英語推進機構代表理事　東進ハイスクール・東進ビジネススクール予備校講師

休憩10分

第2部 | 15:15〜16:10　パネルディスカッション

テーマ：高校生・大学生が求める今後の英語教育について
パネラー：安河内 哲也氏・九州大学共創学部学生・福岡雙葉高校生
モデレーター ：九州大学共創学部学生（福岡雙葉OG）
●福岡雙葉高校生・九州大学共創学部学生によるプレゼンテーション（25分）
●ディスカッション（30分）

閉会式 | 16:10〜16:15

挨　拶　西山 和幸 / 福岡雙葉中学校・高等学校校長
※アンケートのご記入をお願い致します。（16:20終了予定）

SGH 第3回グローバル人材育成シンポジウムの様子（昨年実施）

第1部〜グローバル人材育成に向けての取り組み

第2部〜 ❶講演：「世界で活躍できるグローバル人材とは?」
❷講師、生徒のパネルディスカッション

活動報告

生徒による発表

パネルディスカッション

質疑応答

申込方法

●7月1日（月）より受付開始　締切日:10月7日（月）
※尚、お席に限りがございますので、定員になり次第、締切らせていただきます。
※ご来場の際は上履き（スリッパ）のご持参をお願い致します。
※講師の都合でスケジュール内容に変更が生じる場合もございますのでご了承下さい。

お申込みはHPから
福岡ふたば　検索

■ webからの申し込みのみとさせていただきます。
「福岡雙葉学園・シンポジウム」より申し込みできます。
お問合わせ：092-531-0438（月〜金 8:30〜17:00）

学校法人 福岡雙葉学園
福岡雙葉中学校・高等学校
〒810-0027 福岡市中央区御所ヶ谷7番1号 TEL 092-531-0438